

九 对中国借款善後策ニ関スル件

一 参戦借款関係

二 吉会鉄道借款関係

三 滿蒙四鉄道及山東二鉄道借款關係

四 吉黑森林金銀借款關係

一〇 歐洲戦争ノ際中国及各国間ニ締結ノ条約及契約類公表ノ件

一一 寬城子ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件

一二 福州ニ於テ日中兩國軍人衝突一件

一三 中国ノ日貨排斥運動ニ関スル件

一四 中国内政關係雜件

附 滿洲地方動靜

附錄 日本外交文書大正八年第二冊日附索引

(以上下卷)

事項一 中国南北和平會議ニ関スル件

一 一月九日

在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

孫洪伊ガ林出書記生ニ対シ中国ノ和平統一問

題ニ関シ北方ヲ非難シ日本ガ南北統一ノ為ノ

処置ニ出ズルコトヲ切望スル旨談話ノ件

第五号

本月四日孫洪伊ノ林出ニ語ル処ニ依レバ軍政府ガ推挙セン
トシツアル南方代表者ノ多クハ北方ト相通ジ間諜ノ嫌疑
アルヲ以テ上海議員団ヨリ広東参、衆兩院ニ対シ本月七日
附ヲ以テ南方代表者ハ必ズ国会ノ同意ヲ經ルカ或ハ代表ノ
名義ヲ参贊ト改メ唐紹儀一人ニ全責任ヲ負ハシメ其他ハ代
表ノ職權ヲ取消ス可シトノ公電ヲ発シタリト述ベ昨七日谷
鐘秀、張一鶚、張耀曾等唐紹儀ヲ訪問シ第三者トシテ南北
疏通ノ任ニ当リ度キ希望アリト述ベタルニ唐紹儀ハ(脱)
公ニ開ク可キモノニシテ此間疏通ノ要ナシト答ヘ且諸君ハ
第三者ノ資格ヲ何レヨリ得來リシヤト反問セルニ谷鐘秀等

一 中国南北和平會議ニ関スル件 一

ハ国民ノ資格ヲ以テ第三者タラントスルモノナリト答ヘタ
ルニ唐ハ民国ニテハ民ヲ以テ主トシ国民ハ第一者タリ諸君
ハ第三者トナリ国民ノ価値ヲ失フニ非ズヤト述ベ谷等ハ不
得要領ニテ立去リタリ唐ガ彼等ニ対シ斯クモ無愛想ノ態
度ニ出デシハ彼等ガ北方ノ内意ヲ受ケ南北ノ間ヲ斡旋シ以
テ北方ニ有利ナラシメントスルモノナルガ故ナリト云ヒ又
近來日本ノ有識者多クハ支那和平ノ障害南方ニ在リテ北方
ニ在ラズトナ(脱)如キモ(一)、北方ガ約法上ノ国会ヲ仇敵視
シ法ニ依リ解決スルノ誠意ナク(二)、和平ヲ攪乱セル段祺
瑞、倪嗣冲、張作霖、徐樹錚等ガ今尚兵權ヲ握リ(三)、各督
軍ガ尚各省ニ蟠居シ軍隊已ニ八九十万ニ達シ何レモ軍費ヲ
濫費シ人民ヲ迫害スルヲ事トシツツアリ此上各種ノ和平擾
乱ノ禍根ヲ除カズンバ支那ノ和平ハ斷ジテ不可能ナリ故ニ
日本政府ガ此際以上各種ノ禍根除去ノ意志ヲ以テ各国ト共
ニ第二ノ勧告ヲナシ以テ北方ニ警告ヲ与ヘラレンコト熱望
ニ堪ヘズトシ以上ノ禍根ヲ除去スルハ全ク日本ノ意志次第

一

ニシテ段派ガ今尚権勢ヲ維持シツツアルハ日本ノ後援アルガ為ナリ張作霖ノ横暴モ日本ノ後援アルガ為ニシテ若シ支那政府ガ張作霖ヲ処分セントスルガ如キコトアランカ彼ハ日本ヲ恃ミ滿洲ニ拠リテ独立ヲ宣言スルヤモ計リ難ク之レ中央ノ虞ルル処ニシテ彼等ガ為スガ儘ニ放任スルノ外ナキ次第ナリ徐世昌ノ地位トテモ日本ガ彼ノ大統領タルヲ欲セザルニ於テハ忽チ其地位ヲ去ラシムルコトヲ得可ク日本ガ支那ノ国情ヲ察シ民意ノアル処ニ從ツテ其統一ヲ計ラシメナバ其成功決シテ難事ニ非ズ日本政府ガ此ノ際進ンデ其処置ニ出デラレンコト切望ニ堪ヘズト述ベタル趣ナリ

北京、広東へ電報シ南京へ暗号ノ儘郵送セリ

二 一月二十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国南北和平会議ヲ促進スル様南方派有力者

ニ申入ルル旨太田総領事ニ指示ノ件

第九号

本使発広東宛電報第一三号

貴電第一九号ニ関シテハ往電第八九号ノ通り貴地首席領事

ヨリ外交団へ来電ノ次第モ有之ニ付其ノ内会議ノ議題ニ附セラルルコトト思考ス其際如何ノ決定ヲ見ルニ至ルヤハ今遽ニ確言シ難キモ本使ノ見ル所ニ依レバ外交団前回決定ノ次第ハ既ニ外交部ニ対シ通達セラレタルヲ以テ今日ニ至リ此決定ヲ翻スコトハ到底不可能ノコトト存ズ兎モ角今日ノ如ク平和會議ノ開催遅々トシテ進行セザルニ於テハ或ハ其間ニハ種々ノ事件発生シ自然南方ノ為ニ思ハシカラザル事態ヲ誘致スルナキヲ保シ難キニ付此際南方ヨリハ一日モ速ニ代表者ヲ出發セシメ以テ會議ノ開催並ニ之ガ進行ヲ計ルコトヲ急務トス些細ノ行違ヨリ枝葉ノ問題ニ拘泥シ此上會議ノ進行ヲ遲滞セシムルガ如キコトアリテハ自然南方側ニ對スル同情ハ薄ラグニ至ランカト憂慮ニ堪ヘズ右ハ貴官御含迄ニ申進スル次第ナルガ適當ノ機会ニ其趣旨ヲ取捨セラレ角立タザル様内密ニ二三有力者ノ注意迄ニ申入レラルル様致シ度シ

外務大臣へ電報セリ（二十一日）

三 一月二十一日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国南北和平会議ニ付唐紹儀ノ談話報告ノ件

第一三号

昨日西園寺侯見送ノ謝礼旁唐紹儀ヲ往訪セル処彼ハ去ル十四日附ヲ以テ首席公使タル英国公使ニ書面ヲ送レリトテ其ノ原稿ヲ示シ是レ畢竟南方主張ノ了解ヲ得置キタキ考ニ過ギズトセリ、右書面ハ先ヅ国防軍ノ廃止ノ必要ヲ説キ歐洲戦乱中支那ガ巨額ノ借款ヲ為セルニ拘ラズ毫モ聯合國ニ貢獻スル所ナク概ネ内乱ニ費サレタルヲ遺憾トシ国防軍ノ支那ニ有害ナルヲ指摘シ次ニ裁兵及警官ノ配置乃至督軍廃止、省長ノ民選、釐金廃止、議會問題等約七ヶ条ヲ掲ゲ同公使ノ考量ヲ求メ必要ト有ラバ各国公使ニ回覽セラレ徐世昌ヲ後援シテ右ヲ貫徹セシメラレンコトヲ希望セルモノニシテ、彼ハ徐ガ今猶段等軍閥ニ制セラレテ其真意ヲ遂行スル能ハザルヲ憂ヒ列国ニシテ之ニ「サツポート」ヲ与フルノ意ヲ示サバ大ニ効果有ルベシト説キ、国防軍廃止中借款ニ言及セルハ若干日本ヲ攻撃セルニ近キモ右ハ既ニ過去ノ事実ニ属シ最早ヤ当面ノ問題ニ非ズト断リ居タリ、尚彼ノ談ニ依レバ胡漢民等一行ハ今明日中到着ノ筈ニテ他ノ委員モ船便有リ次第出發スベク、從ツテ會議モ日ナラズ開催ヲ

見ルベク場所ハ未ダ決定セザルモ独逸俱樂部及同領事館モ空キ居ルコトナレバ右ヲ使用スルモ可ナルベク何レニシテモ居留地会当局ト交渉ノ要有リ之モ何等困難ナカルベシト考ヘ居レリトシ、北方委員トハ続々会见彼我ノ意見余リ相違モナキニ付一ヶ月以内ニテ一切ヲ決シ得ル考ナルモ右ハ一ニ懸ツテ北京ノ態度ニ在リトシ、北方委員ハ依然自分ノ飽迄「アグレッシブ」ナランコトヲ望ミ居リ、固ヨリ自分モ強硬ノ態度ヲ持スル考ナルモ北京ニシテ委員ヲ制肘セバ談判ハ破裂ノ外ナカルベク如何ナル程度マデ強硬ナルベキヤハ手心六ヶ敷ト一笑シ居タリ

北京、広東へ電報シ、南京へ暗号ノ儘郵送セリ

四 一月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在上海有吉総領事宛（電報）

寺尾亨博士中国南北妥協促進ノ為上海方面ニ

旅行ニ関スル件

第二二号

寺尾亨博士ハ南方派ニ知已關係多ク相当信頼モ受ケ居ルニヨリ貴地方政情視察旁南方極端論ヲ押ヘ妥協促進ヲ図ラシ

メ度希望ヲ以テ一月三十一日東京出發貴地ニ向フコトト相成リタル趣ニ付本大臣ヨリ必要ナル注意ヲ与ヘ且貴官ト十分連絡ヲ保ツ様申含メ置キタリ（同博士申出ノ次第モアリ政府ヨリモ幾分旅費ニ補助ヲ与ヘアルニ付右貴官限リ内密御含アリ度シ）尚同博士ヨリ本大臣ヘノ報道ハ貴官ヲ經由スル様打合置キタルニ付同博士申出ノ次第ハ必スシモ貴見ト一致セストモ其ノ儘取次カレ度シ將又南方派殊ニ極端派ハ随分突飛ナル主張ヲナシツツアル処元來列国ノ認ムル正当政府ハ北京政府ナルモ目下ノ所各国共兎ニ角好意ヲ以テ南方派ヲ遇シツツアルニ南方派ニシテ余リ我意ニ募ラハサナキダニ北京政府ニ重キヲ置ケル列国ハ南方派ニ同情セサルコトトナリ事実ニ於テハ北方ヲ援助スルカ如キ事態ヲ現出スルニ至ルヘク然ル場合ニハ帝國政府ト雖對支借款ノ取締其ノ他目下実行シ居レルカ如キ不偏ノ措置モ自然実行困難ニ陥ルヘク結局南方ノ為甚不利ヲ來スヘキニ付極端論ハ此際之ヲ差控ヘ一日モ速ニ妥協ヲ成立セシムル要アリト思考スル旨ヲ申聞ケタルニ同博士ニ於テモ全然同意ノ意ヲ表シタリ御含迄申添フ

右為参考北京ヘ転電アリ度シ

五 一月三十一日 在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国南北和平會議開催ノ場所期日ノ未ダ確定セザル事情及之ニ對スル江蘇督軍李純ノ立場等ニ関スル觀測報告ノ件

第二〇号 （二月一日接受）

和平會議ニ関シ数日来李純及其幕僚並王克敏等ニ付聴取セラル談話ヲ綜合シテ觀察スルニ大略左ノ通
李純ハ會議地点ニ関シ唐紹儀ノ反對ヲ見ルニ至リタルハ今回ノ調停着手ノ当初所謂南方實力派ニノミ重キヲ措キテ唐等ヲ輕視シタル報復ナリト感シ且唐ヲ除外シテハ會議ノ成立モ覺束ナキ迄ニ其勢力ノ高マレルヲ見テ本月初旬以來意思ノ疏通ニ勉ムル所アリタルモ遂ニ一方ニ於テハ會議カ上海ニ開カルル狀勢ヲ來シ他方ニ於テハ嘗テ李カ仲介者ト成リテ北京広東間ニ成サレタル會議ノ準備交渉ハ熊希齡等ノ仲介ニ依ル北方代表ト唐紹儀トノ間ニ移リ更ニ今ヤ再轉シテ双方代表ノ直接協議ニ移レルニ及ヒ南方側ハ李ヲ度外視シテ一切ノ進行ヲ計ラントスル有様ナルヲ以テ李ハ唐ノミ

ナラズ熊希齡等ニ對シテモ心中好感情ヲ有セサルニ至レルモノノ如ク（李ハ嘗テ平和會議カ一月中ニ開カルヘシト称シ居レルニ反シ最近ニ於テハ南方ハ會議開催ノ前提トシテ種々ノ條件ヲ追加のニ持出スニ依リ開會ノ期日ハトシ難シト云ヒ又其常ニ直近セル部下ハ會議ニ尽力セントスル第三者ト他日ノ機會ニ於テ何物ヲカ得ント欲スルモノノ故ナリト語レリ）又自己ノ面目維持上切メテ準備會議ヲ南京ニ開クカ如キ方法ヲ以テナリトモ何等カノ色ヲ付ケント焦慮シ居ルモノノ如シ

而シテ北方代表モ李ニ對スル情誼上會議ノ不成立ハ會議ヲ上海ニ於テスルヨリモ数倍李ノ不面目ナリト揚言シ居ル次第ナガラ尚

（一）會議ノ名称期日及場所ノ三項ヲ正式ニ決スル場合ニハ南方代表若干名南京ニ來リテ予備會議ノ名ノ下ニ之ヲ議シ
（二）上海ニ於ケル會議ノ一切ノ準備ハ李純ヲシテ之ヲ為サシメ以テ其面目ヲ保タシメント考ヘ居ルモノノ如クニシテ為ニ三十日章士釗外五名ノ南方代表ガ北方代表ヲ來訪シ唐ノ意ナリトシテ二月二日ヨリ上海ニ於テ開會シタント申出テシニ對シ北方代表ハ右ハ李ヲ度外視シテ南方代表ガ自ラ開

催ノ準備ヲ為サントスルヲ峻拒シ會議地ヲ上海ト定ムルトスルモ李ガ其會議辦事処一部ノ事務ヲ同地ニ移シテ準備ヲ為スニハ多少ノ時日ヲ要スヘキニ付遅クトモ二月十五日迄ニ開會スルコトヲ内定シ置キ度ク何レニセヨ地点ノ決定ハ先決問題ナレバ之ニ関スル政府ノ訓令ヲ督促スヘシト答ヘタル趣ナリ右ノ如クナルニ付會議ヲ上海ニ於テスル事ハ殆ンド決セルモノノ如クニシテ而モ未ダ確定セザルハ当初南京說ヲ唱ヘタル中央政府ノ面目及從來斡旋ノ任ニ當リ居リタル李純ノ面目ヲ顧ミテ南方提案ノ上海案ニ對スルノ責任ヲ中央政府ト北方代表團間ニ譲リ合ヒ居ルガ為メナルベシト觀察セララル

在支公使ヘ電報シ上海ヘ暗号ノ儘郵送セリ

六 二月三日 在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国南北和平會議ノ開會期日ニ関スル南北兩派間ノ交渉狀況ニ付テノ唐紹儀談話報告ノ件

第三〇号 （二月四日接受）

唐紹儀ノ林出ニ語ル所ニ依レバ和平會議ノ開會期日ハ未ダ

一 中国南北和平會議ニ関スル件 七 八

確定セズ南方ハ一切ノ準備ヲ整ヘ何時ニテモ開始シ得ヘキ
モ北方ハ尚對等ノ意味ヲ解セズ恰モ戰捷者ノ降伏者ニ對ス
ル態度ヲ以テ臨マントシ居リ尚了解ヲ得ス南方代表者ノ南
京訪問ハ単ニ先方ガ自分ヲ訪問セル答礼ニ過ギズ但シ明四
日北方代表又々当地ニ来ル筈ニ付何等カノ協議ヲ見ルヘキ
カトノ事ナリ

公使、広東、漢口ヘ電報シ南京ヘ暗号ノ儘郵送セリ

七 二月七日 在雲南ニ瓶領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

雲南督軍唐繼堯ノ南方側和平代表者ニ提示セ
ル雲南關係条件報告ノ件

(二月九日接受)

往電第三号ニ関シ唐督軍ハ南方代表者ニ對シ左記ノ如キ雲
南關係条件ヲ提出シタリ

甲一、在四川雲南軍ハ少クトモ一個師團一混成旅團ヲ以テ
國軍ヲ編成シ同ジク貴州軍ハ少クトモ三個混成旅團ヲ
以テ國軍ヲ編成スルコト

二、雲南軍ハ四川ノ南北西ノ三方面各県ニ分駐シ貴州軍

兵庫縣知事 清野長太郎(印)

内務大臣 床次竹二郎殿

外務大臣子爵 内田康哉 殿

支那北京政府前財政總長熊希齡ハ支那ノ統一ヲ期スル目的
ヲ以テ北京ニ平和期成会本部ヲ設置シ天津、漢口、上海等
ニ支部ヲ設ケ南北ノ有志ト意思ノ疏通ヲ図リツツアル趣ナ
ルガ客月上旬当地中華商務總會々々長王敬祥ニ宛テ平和促進
ニ関スル意見ヲ求メ且委員ノ派遣ヲ要望シ来リタルヲ以テ
「王」ハ当地在留支那人中ノ有力者鄭祝三、楊壽彭等ト協
議シタルカ支那南北ノ統一ハ近キ将来ニ實現スヘキ状況ニ
在リ今更当地商務總會トシテ意見書ヲ送付スルノ必要ナク
又委員派遣モ其ノ要ヲ認メサルノミナラス経費等ノ都合モ
アリ旁々本件ニ関シテハ會員一同ニ協議ヲナスス其ノ儘ト
ナシ居レル模様ニ有之右御参考迄ニ及報告候也

九 二月十一日 在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

唐紹儀カ日本政府ノ北京政府ニ對スル借款及
武器ノ供給ニ憤激シ居ル旨報告ノ件

一 中国南北和平會議ニ関スル件 九

六

ハ四川ノ東部ニ駐在スルコト

三、右一切ノ軍費ハ中央ヨリ支出スルコト

四、軍区未定前ノ各軍ハ夫々雲貴兩督軍ノ節制指揮ニ帰
スルコト

乙一、在広東雲南軍ハ二個師團ヲ以テ國軍ヲ編成スルコト

二、右軍費ハ中央ヨリ支出スルコト

三、軍区未定前ハ暫ク雲南督軍ノ節制指揮ニ帰スルコト

丙、護國護法兩省金額ハ中央ヨリ確実ニ支出スルコト

丁、雲貴兩省ハ從來中央ヨリ補助金ヲ受ケタル省ナレバ中

央ハ確実ナル金額ヲ指定シテ毎年補助スルコト

北京、広東ヘ転電セリ

ハ 二月八日 清野兵庫縣知事ヨリ
床次内務大臣内田外務大臣各宛

熊希齡ノ主宰セル平和期成会本部ヨリ兵庫縣

下中華商務總會宛ニ平和促進ニ関スル意見提

出及委員ノ派遣ヲ要望シ来リタル件

兵外發秘第八九号 (二月十四日接受)

大正八年二月八日

第四三号 (二月十二日接受)

貴電第二四号ニ関シ

唐紹儀ハ國防軍ニ對スル我方ノ武器供給ニ對シ非常ニ激昂
シ居レル模様ニ付本件ニ関スル我方ノ説明モ右ニ對スル今
少シ具體的ノ説明ト同時ニスルコト然ルヘシト存シ往電第
二七号^(註)ニモ申添ヘ置キタル次第ナル処既ニ御訓電ノ趣モア
リ二月十一日同人ヲ往訪シ先ツ徐世昌宛電報ノ真否ヲ糺シ
タル処彼ハ何時ニナキ興奮ノ態度ニテ右ハ事實ニ相違ナク
支那新聞ニ現レタルモノ即チ自己ノ電文ナリト云ヒ右ニ付
テハ別ニ徐世昌ニ電報シテ事實ノ真相ヲ確メツツアルモ今
尚返電ニ接セスト述ヘタルニ付本官ハ御訓電ノ趣旨ニ依リ
小幡公使会见ノ真相ヲ語リ「ルーター」ト外間伝フル所概ネ
總テ誤報ナルヲ説明シ尚外交部ヨリ公報トシテ發表セラレ
タルモノモ亦東方通信ニ依リ漢字新聞ニモ掲載セラレ居ル
旨ヲ指摘シ進ンテ閣下御電達ヲ以テセル処彼ハ強ヒテ沈着
ヲ装ヘル態度ニテ曰ク事實ノ真相果シテ然ランニハ甚タ喜
フヘク自分ハ外務大臣及小幡公使ノ言ニハ素ヨリ信ヲ措ク
ヘキモ外交部ノ宣言ノ如キハ毫モ信用セサル所ナリト云ヒ
外務大臣カ自分ノ「ベビー」ニ宛テタル一電報ニ左程重キヲ

七

措カルルニ於テハ何カ故ニ自分ノ立場ニモ今少シ同情ヲ表セラレサルヤ自分カ東京ヲ去ルニ当リテ内田閣下ハ勿論原首相田中陸相ニ至ル迄北方ニ対スル借款乃至武器ノ供給ハ一切之ヲ中止スヘク一厘ノ錢一挺ノ銃ヲモ供与セラレサルヘキヲ以テシ田中陸相ノ如キ自分ノ間ヒニ対シ手ヲ挙ケテ決シテ敢テセスト答ヘラレタリ自分ハ是等ノ言ニ信頼シ帰來同志ニ向ツテ右ノ趣ヲ説明シ極力其頼ムニ足ルヘキヲ説示シ居タルニ其後發生セル事實ハ何ソヤ借款ノ一部ハ交付セラレ次テ去月二十一日多数ノ武器ハ国防軍ニ供給セラレ更ニ近々一隻ノ運送船ハ更ニ砲兵用ノ武器ヲ積ミテ秦皇島ニ着セント伝ヘラルルニアラスヤ斯ノ如クシテ自分ハ全ク自己ノ面目ヲ失ヒ全ク日本ニ愚弄セラレタル形トナリ同志ノ笑ヒ物ト成レルニアラスヤ更ニ聞ク所ニ依レハ軍事協約ニハ前約アリテ二十年間毎月二十四万円宛ヲ支出シテ十萬ノ兵ヲ養成スル管ナリトノコトナルカ一方日本ハ軍資武器及教官ヲ迄与ヘテ段一派ノ軍閥ニ兵ヲ練ラシメテ而シテ他方和平會議ヲ慫慂ストハ之レ何事ソヤ自分ハ日本滞在中ニ參謀本部側ノ一員ノ公言スルヲ聞ケリ曰ク外務省ハ外務省ナリ吾人ハ別ニ外交ノ有ルアリト自分ハ素ヨリ外務大臣ノ

部ヲ使噉シ公使ヲ圧迫スルヲ敢テスト云ヘリ要スルニ彼ハ最近武器供給問題ニ激セラレ本件電報ヲ發スルニ至リタルモノナルハ其口吻ニ認ムヘク彼カ民意ヲ引用シテ円滑ニ而モ極力我政府ニ対スル不審ノ意ヲ洩セルハ其言語ニ徴スヘク本件ニ対スル本官ノ説明ニモ衷心ヨリ承服セス尚徐世昌ノ返電ヲ俟ツノ要アルヤノ態度ヲ示シツツアリタルヲ認ム北京、天津、広東、漢口、奉天、南京、香港、雲南ヘ電報セリ

註 外務大臣發第二四号見当ラズ

有吉総領事來電第二七号ハ对中国借款善後策ニ関スル件ノ項ニ在リ

一〇 二月十三日 在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

李純ノ南北和平會議ニ関スル觀測報告ノ件

第二六号

(二月十四日接受)

二月十三日李純ハ過般ノ怪我全癒セス骨髓ノ痛ミダニ去ラズ往訪セシ小官ヲ居室ニ案内シ起居若干苦シ氣ニ見エタルモ例ノ如ク快潤ニ大要左ノ如キ時局談ヲ為シタリ
一、外交自由制限ノ干涉云々ハ無根ノ流言ナルコトニ付テ

一 中国南北和平會議ニ関スル件 一〇

言ニ信頼スルモ事実斯ノ如キヲ如何願ハクハ大臣ニ伝フルニ自分ノ電報ニ重キヲ措カルルナラハ自分ノ立場ニモ同情セラレ度旨ヲ以テセラレ度シト繰返シ語調極メテ激烈平素ノ温容ニ似サルモノアリ彼ノ談話中本官ハ公使ト外交次長面談ノ件ハ軍器問題トハ全ク關係ナキニアラスヤトセルニ對シテハ彼曰ク右ハ何レモ同一政府ノ下ニ行ハルルカ決シテ分離シテ考ヘラルヘキニアラストシ軍器供給ニ関シテハ徐政府カ泰平組合ト既決ノ契約ヲ容易ニ廢棄セシメ難キ理由ヲ以テセルニ對シテハサラハ何カ故ニ南京ノ李純ニ對シテハ既ニ成立セル契約ヲモ履行セシメラレサルヤ自分ハ斯ノ如キ弁解ヲ信用スル能ハスト云ヒ既ニ引渡サレタル武器ハ一箇師團ノ歩兵用ニシテ現ニ輸送ノ途中ニ在ルモノノ砲兵用タルコト其他尚三分ノ二ハ近々引渡サルヘキコト乃至其數量等説ク所詳細ヲ極メ実ハ右等內容ヲ知ラサル本官ハ若干之ヲ反駁スルノ言葉ニ苦ミタル位ナリ尚其談話中本件ニシテ誤報ナリトセハ之レ表面日本ニ信頼セル様見セ掛ケツツアル者ヨリ出タルモノナルヘク之レ單ニ一ノ(不明)ニ過ギストシ彼等ハ自己ノ野心ヲ遂行セン為ニハ事トシテ為ササルナク或ハ公使ヲ利用シテ徐世昌ヲ脅迫シ時ニ外交

ハ十一日貴信ニ接セル以前ニ於テ大總統ヨリ九日及十一日ノ兩回来電アリシニ付直チニ其旨ヲ文武官等ニ通達シ新聞記事ノ輕信ヲ誡メ置キタルガ故ニ既ニ当地地方ノ官吏ニハ誤解ヲ抱キ居ルモノナク排日ノ氣勢ハ不日消滅スベシ

二、双方ノ代表ガ直接ニ万事ヲ交渉シ又會議ハ上海ニ開クコトトナリ居ル為予ハ初メテ重荷ヲ卸シタル感アリ然ルニ斯ク決定セシハ會議速成ノ希望ニ因レルモノナル処上海ニ於ケル双方代表ノ住宅其他ノ關係上今尚開會ノ運ビニ至ラザルノミナラズ朱啓鈴ノ如キハ依然居ヲ当地ニ定メ會議ノ都度出滬スヘシト云フ有様ナレバ却テ開會ノ延引ヲ來シ開會後ノ議事ノ進行モ自然ニ滯ルヲ免カレザルノ矛盾ヲ來セル次第ニテ又上海ハ從來屢々暗殺事件アリシ土地柄ナルニ付何等不祥事ノ發生ナキヤヲモ懸念セラル南方實力派間ニ唐紹儀排斥ノ密議アリトノ事ハ予ハ其ノ確報ニ接シ居ラザルガ南方實力派ハ北方武斷派ノ閉息ニ類スル現状ニアルモ文治派ノ頭目タル唐ガ總代表トナリ而モ本會議ニ於テハ彼等ガ派遣セル他ノ代表ニ發言權ナシトスルガ如キハ決シテ其喜ブベキニアラザルニ鑑ミ必スシモ其事無シトハ否ミ難シ夜長クシテ夢多シ短期間ナラバ會議ノ前途ハ俄ニ樂觀ヲ

許サザルベシ(自分ノ(不明)斡旋ヲ斥ケテ會議ヲ上海ニ開キ而シテ滞リナク進行シ得ルヤトノ語氣尠カラス(不明)看受セラレタリ)會議ニハ何様ノ名称ヲモ附セサルコトナレリ

在支公使へ電報シ上海へ暗号ノ儘郵送セリ

一一 二月十五日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

国防軍及西方边防籌備処廃止ノ実否取調方訓
令ノ件

第二一〇号

二月十四日上海発新聞電報ニ段祺瑞ハ徐樹錚ノ建議ニヨリ国防軍及西方边防籌備処ヲ廃止シ近畿陸軍專司訓練処ト改メ徐總統モ之ニ同意シ朱啓鈴ヲシテ各方面へ伝ヘシメタリトアリ(中略)果シテ右様ノ事實アリヤ御取調ノ上返電アリタシ参考ノ為上海へ転電シ南京へ郵報セシメラレタシ

一二 二月十九日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議ハ二月二十日上海旧独逸俱

案部ニ於テ開会ノ運びトナレル旨報告ノ件
第五六号 (二月二十日接受)

二月十九日来訪ノ朱啓鈴、唐紹儀ノ談ニ依レバ和平會議ハ愈二十日午前九時ヨリ旧独逸俱樂部ニテ発会式ヲ挙グル趣ナリ

北京、広東、南京へ転電セリ

一三 二月十九日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議北方總代トシテ朱啓鈴挨拶
ノ為来訪ノ節日支軍事協定公表ヲ望ム旨申出
ノ件

第五七号

(二月二十日接受)

二月十九日午後朱啓鈴陳光遠ヲ帶同シテ本官ヲ来訪シ北方總代トシテ挨拶ニ来レル旨申述べ其立場ガ久シク民間ニ在リテ公平ヲ保チヤスキコト等ヲ縷述シ北京出發ノ際旧知ノ間柄ナル小幡公使ヨリ必要トスル援助ハ之ヲ貴官ニ申出ヅベキ旨伝ヘラレ居ル次第ニモアリ何分宜シクトノコトニ付本官ハ我朝野ガ切ニ會議ノ成功ヲ希望シ居ル旨及公私共庇

分ノ微力ヲ致スハ元ヨリ希望スル所ナル旨ヲ答ヘ種々雑談ノ末彼曰ク本日ハ単ニ挨拶ノ為ニ来レル儀ニ付斯カルコトハ申上ゲザル筈ナリシモ斯ク打解ケ談話ヲ交換スル以上一事ノ貴国政府ニ御伝ヲ希望スベキアリ実ハ南京滞在中ニ起レル巴里委員ニ関スル問題ノ如キ兩國政府ハ物論ノ外ニ超越シ一切ノ内情ヲ打明ケタル結果今ヤ誤解モ漸ク一掃セラレントシ最早懸念ノ要ナキモ玆ニ差当リテノ問題トシテ中外ノ誤解ノ因タルモノニ日支軍事協定アリ或ハ既ニ唐紹儀等ヨリ聞取ラレタルベキモ元来右協定ハ兩國政府間ニ協定セラレタリト云ハンヨリモ寧ロ兩國軍人間ニ取極メラレタルモノト見ルベク而シテ其内容ハ全ク秘密ナル結果謠言百出シ独リ支那人ノミナラズ又諸外国人ノ疑念ヲ深クシツツアリ參戰軍トハ敵アリテ其必要モアルベキガ今ヤ敵既ニナク參戰軍ノミ存在スベキ理由毫モ之アラズ徐樹錚ガ日本ヨリ帰ルニ当リテヤ是ガ有効期間ハ戰爭終了迄ト解釈シ居タルモ最近ニ至リテハ支那ノ国境ニ外国軍隊ヲ見ル間ハ有効ナリト主張スル等期間ノ解釈問題モ生ジツツアル趣ニテ貴国ハ右ニ資金及武器ヲ供給セラルルニ於テハ南方人士ガ之ヲ以テ彼等ヲ压迫セントスル為ナリト認メ憤慨スルモ亦無

理ナラズトセズ実ニ右ハ一部為ニセントスルモノ(脱)又ハ排日ノ材料タラシムルノミナラズ一般誤解ノ因タルヲ認ムルニ付テハ此際貴国政府ガ右協定ヲ公表セラレテ一切ノ誤解ヲ一掃セラルルノ得策ナルヲ信ズル旨申述べタルニ付本官ハ今朝唐紹儀ニ説示セルト略同様ノ事ヲ繰返シ尚私見トシテハ資金及武器ノ供給等ニ付事情ノ許ス限り我政府ニ於テ慎重ノ考量ヲ加ヘツツアルハ勿論ナリト信ズルモ參戰軍ノ廃止ト否トハ貴国政府ノ決定セラルベキ所ニ係リ軍事協定ノ公表モ彼我ノ協議ニ待ツベキ筋ト考ヘラルルニ依リ右等ハ多ク貴国政府自体ノ方針如何ニ依リ解決セラルベキモノト考フルモ貴意ノ存スル所ハ政府ニ電達スベキ旨ヲ以テシ置ケル処彼ハ本件ハ何レ會議ノ重要問題タルベク自分ハ元ヨリ極力政府ニ向ッテ必要ナル勧告ヲ試ムベキモ而同協定ニハ別約ノ存スルアリテ日本ニ於テ他ノ野心ノアルアリ等ノ說南方有力者ノ間ニ伝ハリ其態度甚ダ強硬ニ付此際貴我兩國政府協議ノ上此ノ種目下極メテ激烈ナル反対ノ潮流ニ逆行セズ右ニ超越セル方針ニ出デタキモノナリト繰リ返シ居タリ尚同人ハ目下德華銀行ニ居住スルモ不日旧独逸総領事館ニ移転スル筈ナリト申居タリ

北京広東へ転電セリ

一四 二月二十日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和会議開会式挙行ノ件

第五八号 (二月二十一日接受)

本日午前九時和平會議開会式ヲ挙行シ十一時ヨリ朱啓鈴ハ
内外新聞記者四十余名ヲ「レセプション」ニ招待セリ
尚會議ハ明日ヨリ開会ノ筈ナリ

北京、広東へ転電セリ

南京へ暗号ノ儘郵報セリ

一五 二月二十二日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

二月二十一日ノ中国南北和会議ニ於テ陝西

問題審議ノ件

第六四号

二月二十一日ノ和平會議ニハ主トシテ陝西問題ヲ議シ唐紹
儀朱啓鈴兩代表者ノ間ニ若干ノ議論アリ結局南北雙方ノ承

迄他ノ諸問題ノ討議ヲ延期スベシト主張セリ右ニ対シ朱ハ
陝西問題ニ関シテハ既ニ委細政府ニ電稟シ居リタルモ今ニ
返電ニ接セザルガ會議ノ討議事項ハ右ニ拘ラズ進行セシメ
度キ旨ヲ述べ唐ハ本問題ニシテ満足ナル解決ヲ得ルニアラ
ズンハ他ノ諸問題ヲ討議スルヲ得スト主張セリト
北京、広東ニ電報シ南京ニ郵送セリ

一七 二月二十八日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和会議ニ於ケル陝西問題、並參戰

軍廃止問題等ニ関スル唐南方側總代表ノ談話

報告ノ件

第七九号 (三月一日接受)

二月二十八日唐紹儀ニ面談ノ節彼曰ク陝西問題ニ付北京政
府ハ毫モ誠意ヲ表セズ加之朱啓鈴ハ總代表ト称スルモ事毎
ニ政府ニ訓令ヲ仰ガザレハ処置スルヲ得ザル状態ニ在ルヲ
以テ本問題ノ解決如何ハ延イテ會議ノ将来ニ関スルモノ大
ナルヲ認ム今朝非公式ノ會議席上四十八時間ヲ限り満足ナ
ル回答アラザルニ於テハ断然會議ヲ中止スル旨宣言セル次

認セル張瑞璣ヲ迅速同地ニ赴カシメ兩軍頭領ト接洽シテ李
純提議ノ五箇条弁法ヲ実行セシムルコトニ決定セル趣ニテ
張瑞璣既ニ当地ニ到着シ南北總代表ト都合打合せヲ為シ居
レル趣ナリ

尚本日ノ議題ハ国防軍問題ナリトノ事ナリ(二二日)
北京、広東へ電報シ南京へ暗号ノ儘郵送セリ

一六 二月二十六日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和会議ニ於テ唐紹儀ハ陝西問題ヲ
他ノ諸問題ノ討議ニ先立チ解決スベキコトヲ
主張セル旨南方側公表ノ件

第七三号

南方側通信所ノ発表セル公報ニ依レバ本二十六日ノ例会ニ
テ唐紹儀ハ又又陝西問題ヲ持出シ陝西ニテハ今尚戰鬪続行
中ナル処庶民ヲシテ塗炭ノ苦ヲ為サシムルハ一ニ督軍陳樹
藩ニアルニ依ルヲ以テ同督軍ヲ他ニ去ラシムルニアラザレ
ハ本問題ヲ解決スルコト不可能ノ趣北京ニ打電方ヲ朱啓鈴
ニ要請シ尚南方委員ハ同督軍革職ノ大總統令發布セラルル

第二テ吾人ノ希望スル満足ナル回答トハ直チニ停戦ヲ命ス
ル旨ノ大總統令ヲ發シ及陳樹藩ヲ免職スルコト之ニシテ右
ニシテ行ハレザルニ於テハ詳細ノ事情ヲ外交團ヲ初メ一般
ニ伝ヘテ責メヲ北方ニ歸スル外ナシト云ヒ參戰軍ニ関シテ
ハ日本政府ノ立場ハ良ク了解シ深ク満足スル所ナルニ付テ
ハ此際北京政府トシテハ速ニ參戰軍ヲ廃止スルノ勇断ニ出
ツルヲ要スルモ今猶貴国政府トノ協定ヲ云為シテ単独ニ行
動シ難キヲ口実トナシ居リ現ニ本日北方代表ノ示セル文書
ニ依レハ軍事協定ノ有効期間ニ就キ右ノ歐洲平和條約調印
ニ至ル迄ナルコト及支那国外ヨリ同盟國軍隊ノ撤退セラル
ルト同時ニ日支兩軍隊モ撤退セラルヘキコトヲ約セル一協
定アリテ単ニ日支高級武官ト署名シアリ何人ニ依リナサレ
タルモノナリヤモ明白ナラズ然レトモ錢能訓ハ自分ニ電報
シテ參戰軍ハ他トノ協定ニ基クモノナルニ付平和條約調印
迄ハ単独ニテ処理シ能ハサル旨右協定ノ第一項ニ藉口シ来
リ居レル次第ニテ貴国政府ガ參戰軍ノ存廢ハ一ニ北京政府
ノ考慮ニ任セラルル態度ナルニ於テハ責任ハ北京政府ニ在
リト云ハサルヘカraz尚小幡ガ武器供給參戰借款等ニ関シ
今尚外交部ニ申入レナキヲ不審トセルニ付本官ハ右ハ相当

ノ手順ヲ踏ムヲ要スル必要上遷延セル儀ト考フル旨答ヘ置ケリ將又談巴里講和會議ニ及ビタル処唐ハ露骨ニ顧及王ノ態度ヲ弁護シ自分ガ一切ノ文書ニ依リ知り得タル処ニテハ先月末抑行違ノ始メハ日本委員ガ毫モ支那委員ト打合セアラサリシニ基キ顧、王兩人ハ陸徵祥病氣ノ為突然一時間前ニ召集セラレ單ニ自己ノ立場ヲ説明セルモノニテ必ズシモ一概ニ非難シ難シト云ヒ最近ハ時々同委員ヨリ經過ノ電報報告ニ接シ居レリ陳友仁ガ廣東政府ヨリ右委員ノ一人ニ任セラレタルヤノ報道ニ付本官ガ不満ヲ洩ラセルニ対シテハ右ハ事実トハ考ヘラレザルモ一応廣東ニ問合スヘシト申シ居タリ

在支公使、廣東ヘ電報セリ

在南京領事ヘ暗号ノ儘郵送セリ

一八 二月二十八日 在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

陝西問題及參戰軍廢止問題ニ関スル朱北方側

總代表談話報告ノ件

第八〇号

(三月一日接受)

二月二十八日唐紹儀ニ面會後朱啓鈴ヲ往訪セル処彼ハ會議席上自己ノ立場ノ困難ナル次第ヲ訴ヘ殊ニ陝西問題ニ付テハ北京政府モ即時明確ナル回答ヲ与ヘ難キ事情アリトシ元來陝西ハ土匪ト靖國軍トハ全然區別シ難ク土匪ハ概ネ靖國軍ト稱シ之等ニ圧迫セラレテ一時ハ陳樹藩モ危ク省城ヲ保チ居タルニ當リ洛陽ニアリタル奉天軍ガ救援ニ赴キタルコト素ヨリ当然トスベキモ南方側ハ之ヲ以テ引続キ戰鬪ヲ続クルモノト解シ北方ノ誠意ヲ疑ヒ和戰何レカノ回答ヲ求メ今回唐紹儀ハ四十八時間内ニ満足ナル回答ヲ得ザレバ會議ヲ停止スル旨述べタルニ付自分ハ右様外國トノ交渉ノ如ク「アルチメータム」類似ノ宣言ハ受取り難キニ付單ニ回答ノ至ル迄會合ヲ延期スル意味ニ解シ居リタル次第ニテ畢竟同地方ニ於テハ湖南ノ如ク兩軍ノ勢力範圍ヲ明カニ確定シ難キコト最モ困難ナル点ナルモ既ニ和平會議ノ開カレ居ル以上政府モ十分誠意ヲ以テ本件ヲ解決スルノ必要アリ必ズ満足ナル結果ヲ得タシ參戰軍問題ニ付テハ差當リ陝西事件ノ当面ニアルアリ唐紹儀モ暫ク之ニ触レザルモ右ノ一点何レカニ解決スル以上必スヤ再ヒ參戰軍問題ニ對シ猛烈ニ攻撃ノ矛ヲ向クベク而モ右ガ會議ニ上リ議論ノ元タルコトハ

延テ必ズヤ日支親善ノ一大障害タルベク從テ自分ハ兩國政

府ガ速ニ右問題ニ付隔意ナキ協議ヲ遂ゲラレ一切ノ行懸ヲ捨テ之ガ善後策ヲ講ジ進ンデ天下ニ公表セラルルコトヲ切望スル次第ナリトシ縷々軍事協定及參戰軍存続ノ不必要ヲ説キ此点唐紹儀トハ同意見ナリトシ兩國ガ共ニ軍人ノ羈絆ヲ脱シ此一大難関ヲ除キテ會議ノ進行ニ資スルヲ当面ノ急務ナリトシ若シ然ラザルニ於テハ會議ハ終ニ破裂ニ及ビ然モ其實ハ全然北方ニ歸シ日本モ亦大ナル非難ノ焦点タルベシト云ヒ全国ノ輿論ニ顧ミ此際速ニ断乎タル処置ヲ希望スル旨極言シ居タリ

北京廣東ヘ電報セリ

南京ヘ暗号ノ儘郵送セリ

一九 三月四日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

中国南北和平會議ニ関スル馮國璋談話報告ノ

件

坂極秘電第二三号

(三月七日写外務省接受)

青木中將ハ昨三日馮國璋ト會見シ時局ニ對スル意見ヲ求メ

一 中国南北和平會議ニ関スル件 一九

シニ彼ハ左ノ如ク談レリ

一、陝西問題ニ對スル南方報ハ誤解多ク信スルニ足ラス北軍ハ南軍ノ守備線ニ向ヒ攻撃セシコトナク只其ノ前方一帶ニ横行跋扈セル土匪ヲ討伐セシノミ此事ハ既ニ政府ヨリ明細ニ朱代表ニ電報シ南方側ニ通シアル故彼等モ之ヲ諒解セシナラン

二、陳樹藩ニ對シテハ從來多クノ非難アルモ此際南方ノ要求ニ応シ直チニ之ヲ罷免スルハ政府トシテ為シ得ル所ニ非ス今後時機ヲ見有力ナル材料ヲ得テ之ヲ交迭スルコトトナルベシ

三、南北兩方ノ代理委任ヲ受ケタル陝西

監視委員張瑞璣ハ不日赴任ノ筈其報告ニヨリ陝西省ノ事ハ結著スルナラン

四、自分ハ南北爭議ノ調停者タルベク大總統ヨリ委任ヲ受ケタルモ自ラ表面ニ立チ之ニ任スルコトヲ辞退シ裏面ニ於テ充分尽力スル積リナリ

五、既ニ發布サレタル停戰命令ハ支那特有ノ責任内閣ナル關係上政府ヨリ発セシモノナルモ今次南方ノ要求ヲ容レ更ニ大總統令ヲ以テ停戰令ヲ發布スルコトトナルヘシ

(昨夜既ニ發布セラル)

六、平和會議ノ行悩ミトモニ種々ノ謠言起レルモ内外ノ輿論、世界ノ大勢、財政ノ困難、成功ノ見込等ニ鑑ミ北方主戦派ト雖モ殊更ニ事ヲ起スガ如キコトハ万ナカルベシ

七、参戦軍ノ存廃ニ就テハ内外ヨリ各種ノ非難アルモ欧洲平和未タ全ク回復セス露國ノ形勢混沌タル今日遽ニ之ヲ放棄スルノ理由ナク依然之ヲ保留スルノ必要ヲ認ム云々馮國璋ハ元来参戦軍撤廃論者ナリシカ邊ニ其ノ説ヲ変スルニ至リシハ去ル一日徐總統ニ招カレ意見交換ノ結果ナラント察セラル彼ハ上海會議ノ頓挫ヲ以テ一時ノコトトシ之カ為ニ和平會議ノ決裂ヲ見ルカ如キコトナキモノト樂觀シ居レリ

二〇 三月四日 在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛

平和期成會聯合會成立大会ニ関シ報告ノ件

附屬書 同聯合會規則及出席ノ各省平和期成會代表

者名簿

南領第二五号

(三月十一日接受)

大正八年三月四日

在南京

領事館事務代理 清野長太郎(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

上海ニ於ケル議和會議行詰リノ対照トシテ若干世ノ注意ヲ惹キタル平和期成會聯合會ノ成立大会ハ熊希齡ノ来着ト共ニ去ル二月二日午後一時南京大倉園ニ設ケタル北京和平期成會駐寧辦事処ニ於テ開カレ別紙記載ノ通り各省代表者出席シタル趣ニ有之候ヘ共熊希齡ノ開會ノ辭ニ始マリ正副會長ノ選舉(熊希齡ハ正會長ニ張一鶚、梁士詒ハ副會長ニ當選セリ)幹事ノ任命、別紙規則ノ議定等ヲナシ午後四時一同撮影シテ散會シ尚同日午後六時ヨリ一料理店ニ於テ宴會ヲ催シタル由ナルモ特ニ注意スベキ議決事項等アラサリシ次第ニ有之候

右御參考迄ニ報告申進候 敬具

写送附先

在支公使、在上海總領事

(附屬書)

全国平和期成會聯合會規則

南京	錢崇固	鄭為成	王潤身	黃奎
華僑	鮑貴藻	王春生	鄭巽	
	李登輝	朱遐九	張仁普	洪孟揆
浙江	謝碧田	吳心培	畢悟明	崔通約
	阮性存	毛雲鵬		

二一 三月五日 金谷天津軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

中国南北和平會議ニ関連スル在中国米國公使

ノ策動ニ付報告ノ件

天電三四

(三月七日写外務省接受)

駐支米國公使「ラインシュ」ハ支那南北和平會議ノ狀況險惡トナレルヨリ之ノ機ヲ利用シ行動ヲ開始セントシツツアリ曩ニ五國勸告ノ際ニ米國公使ハ南方ニ對シ和平會議ノ速開ヲ慫慂シ且後始末ハ米國責ヲ負フテ之ヲ為スヘシトノ意味ヲ通セシコトアリト云フ關係上構和談判破裂ニ会スル時ハ米國率先シテ他國ヲ誘ヒ第二回ノ對支勸告ヲ行フ必要アリ斯ノ如キ帰着点ヲ知レル南方代表ハ其ノ態度強硬ナルハ当然ニシテ米國ハ之ヲ利用シ日支密約ノ發表其ノ他日本ニ不利ナル提議ヲ南方代表ヲシテ為サシメ日本ノ勢力ヲ挫カ

各省平和期成分會派定代表姓名表

上海	孫堯緒	李為綸	
江西	郭廻瀾	匡世德	葉晉馨
廣東	顏丙臨	鄧雄	劉子貞
福建	王芝祥	陳其璣	周廷勛
河南	吳徵鼈	陳曾亮	魏瀚
雲南	張之銳		陳柱侯
湖南	張鎔西		
湖北	沈克剛	朱章	陶懋頤
	唐瞻雲	張伯良	戴丹誠
	陳邦燮	胡作雲	高步雲
	嚴山謙	甯庚青	陳時

ントシ其ノ政策ハ著々現レ来レルモ更ニ和平會議ノ現状ヲ利用シ日本ト密接ノ關係アル段一派ノ勢力ヲ殺キ米國ノ援助ヲ以テ南北ヲ統一シ資本提供ヲ約シ政策ノ端緒ヲ開カンコトヲ企圖スルニ至レリ之ガ為メ支那人民ノ要望シツアル平和速成ヲ標榜セル第二ノ勸告ヲ試ミント欲シ在上海米國領事ニ連リニ打合セヲナシテ其ノ計畫ヲ進行セシメツツアリ然シテ此計畫ヲ外部ヨリ援助スルハ總統府米人顧問ニシテ各種ノ団体ヲ利用シテ民論ノ煽動ニ努ムルアリ又他方ニ於テハ米國銀行代表者ノ「アボット」カ特ニ上海滞在期間ヲ延長シ實業界ノ親米派ナル各富豪ト頻繁ニ往來シアルカ如キ在支米國官民力統一セル方針ノ下ニ連絡活動セルノ状知ルヘキナリ

(各地済)

二二 三月六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

唐紹儀等南方代表ガ北方側ノ態度ヲ非難シ外
國公使ニ斡旋ヲ要望シタル件

第三〇九号 (三月七日接受)

第三一一号至急

往電第三〇九号ニ関シ

(三月七日接受)

六日、日英仏米伊五國公使會合、英國公使ヨリ和平會議ハ今ヤ殆ド決裂ノ已ムヲ得ザルニ至レリ、唐紹儀過日ノ來電ニ関シ陝西及參戰軍ノ兩問題ガ其根本的障礙ナルハ之ヲ認容セザルヲ得ズ陝西問題ニ付テハ停戰命令ヲ無視シ北軍ガ遂ニ三原ヲモ攻略スルニ至レルハ事實ト認ムルノ外ナク、又參戰軍ノ解散ニ関シテハ曩ニ本國政府ヨリ關係各公使ヲ糾合シテ徐總統ニ勸告ヲ試ムヘシトノ訓令有リ、仏國公使亦同様ノ訓令ニ接シタルモ不幸ニシテ日本政府ノ同意ヲ得ルニ至ラズ、而モ時局ハ逐日險惡ニ赴キ今ヤ妥協平和ノ曙光サヘ全ク消失セントスルノ危機ニ瀕シタルニ付テハ此際關係國同僚ト隔意ナキ審議ヲ遂ゲ其執ルベキ措置ヲ講究シ度キ次第ナル旨ヲ陳述シテ討議ニ移リタルガ、本使ハ純然タル内政問題ニ関シ和平會議ノ行悩毎ニ警告乃至干渉ニ類スル措置ニ出ヅルハ頗ル考量ヲ要スルモノ有ルヤニ思料スルノミナラズ為ニ關係國ハ將來南北ノ争点ヲ批判スル等永ク重大ナル責任ヲ負荷セザル可カラザルニ至ルノ虞有リ、將又單ニ一方ノ主張若ハ不完全ナル報告ニノミ依リ之ヲ根

往電第二九七号ニ関シ

其後更ニ唐紹儀等南方代表者連名ヲ以テ北方政府ノ不信ナル態度ヲ指摘シ之ガ為今ヤ和平會議ハ中止ノ已ムヲ得ザルニ至リタル旨ヲ述ベ更ニ北方派ハ國防軍ノ名ニ於テ其軍力増大ヲ期シツツアリ、而モ彼等ガ和平會議ニ提出シタル日支軍事協定ハ只其本文ヲ示シタルニ過ギズシテ附屬書類ノ回示ヲ避ケタリ思フニ陝西及國防軍問題ハ平和統一ニ對スル根本的障害ニシテ和平會議ノ進捗ニ先ダチ之ヲ排除スルコト絶對ニ必要ナル旨ヲ力説シ之ガ為外國公使ニ對シ斡旋ヲ要望セリ。三日上海發電報五日首席公使ニ來着セル趣ヲ以テ六日午後公使會議ヲ開催シテ討議ヲ尽スコトナリタリ

上海、廣東、南京ヘ電報セリ(六日)

二三 三月六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議ノ障礙トナレル陝西問題及
參戰軍問題ニ就キ五國公使ヨリ中国政府ニ勸
告スルコトニ関シ五國公使協議ノ件

抛トシテ積極的措置ニ出ヅルノ可否如何モ亦一顧ヲ要スルヤニ思考スル旨ヲ述ベ、若シ此際局面ヲ展開セシムルタメ何等カ勸告ヲ為スヲ必要且得策トスルニ於テハ(不明)概括的ノ論拠ニ依リ適當ノ勸告ヲ試ミ然ルベシト思考スト論ジタル処米國公使モ主義上本使ノ所見ニ同感ノ意ヲ表シタルモ結局此際五國公使ノ名ニ於テ(一)陝西問題ニ関シテハ停戰ガ北方軍憲ニ依リテ敵守セラレザルコトヲ指摘シ成立要件タル事項ヲ忠實ニ遵行センガ為中央政府ニ於テ斷乎タル措置ニ出ヅルコト極メテ緊要ナル旨(二)參戰軍問題ニ関シテハ統々軍隊ノ徵募ヲ實行スルガ如キハ平和促進上大障害ヲナスモノナルニ付軍隊ノ解散及縮少ハ刻下第一ノ要務ト思考スル旨ノ意味合ヲ支那政府ニ申入ルル事然ルヘシトノ議起リ他各同僚何レモ之ニ賛同ヲ表シタルガ本使ハ本使差向キノ所感ニ依レバ仮令右ノ如ク general terms ニ依ルトスルモ斯ノ如キハ十二月二日附共同勸告文後段ノ本旨ニ牴觸(不明)ニアラザルカト思考セラルル旨ヲ指摘シタルモ英國公使ハ右ハ一応尤モナルモ前頭ノ如キ程度ノ申入ニ止ムル以上別段矛盾ノ措置ニモアラザルベシト弁明シタルニ付本使ハ兎ニ角帝國政府ニ一応請訓ノ上確答ニ及ブベキ旨陳

述シ置キタリ就テハ右申入ニ同意シ差支ナキヤ否ヤ至急何分ノ御回電アリタシ尚席上参戦軍及之ニ対スル申入ノ件モ話題ニ上リタルニ付本使ヨリ更ニ同問題ノ由来ト現状トヲ詳細敷衍説明シタル処英国公使及其他ヨリハ右帝國政府ノ申入ヲ支持スル旨ヲ四国公使ヨリ更ニ外交部ニ申入ルコトニ対シ本使ニ於テ異存ナキヤト尋ネタルニ付右ハ本使ノ関スル限り異存ナキ旨答ヘ置キタリ多分明七日四国公使ヨリ右様ノ申入ヲ外交部ニナス答ナリ

上海、広東、南京ヘ電報セリ

二四 三月七日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平会議朱北方代表ガ唐紹儀ニ対シ

北方側ガ陝西問題解決ノ措置ヲ執レル旨ヲ述

ベ会議再会ヲ要望ノ件

第一〇一号

(三月八日接受)

三月六日朱啓鈴ハ李純ト広東軍政府間陝西問題ニ関スル五箇条ノ解決案ガ二月十三日同地ニ伝達セラレタル事及右実行ニ付自己ノ責任上同人以下各代表カ辞表ヲ提出シ尙政府

命令ヲ無視シ三原ヲモ攻略スルニ至レルヤ否ヤニ付テハ帝國政府ハ確實ナル情報ヲ有セス何レノ場合ニ於テモ外國政府カスノ如キ問題ノ実質ニ亘リテ調査ヲ行ヒ又ハ調査ヲ遂ゲズシテ判断ヲ下シ以テ北京政府ニ何等措置ノ実行ヲ迫ルカ如キハ甚タ公平ナラス又明カニ内争ニ干渉スルモノト云ハサルヲ得ス將又(二)参戦軍問題ニ付テハ御来示ノ通り其ノ解散乃至縮少ハ刻下第一ノ要務ナリト云フカ如キ趣旨ヲ申入ルルハ等シク客年十二月二日共同勧告ノ本旨ニ抵触スルモノト認メラル尤モ現下ノ事態ニ顧ミ別電第三一二三号ノ通り概括的ノ趣旨ニヨリ關係各國公使ヨリ支那政府ニ勧告スルコトハ從來帝國政府ノ執リタル方針トモ抵触スル所ナキモノト思考セラルルニ付右貴官ヨリ英國公使其他各國公使ニ提議相成可然議ヲ纏メラレ度シ

右上海広東南京ニ転電アリ度シ

(別電) 三月八日内田外務大臣宛小幡公使宛電報第三一二三号
北京政府ニ対スル勧告案文

第三一二三号

It is reported that the question of armistice in Shensi has proved to be a serious obstacle in the

ニ向ヒ速ニ右勵行方電命ヲ迫レル旨及右ニ対シ政府ガ必要ノ訓令ヲ発セル旨回答アリタル事並同問題ニ関スル四日ノ大總統令ト五日附國務院及陸軍総長ノ命令ヲ引用シテ同地方ニ於ケル戦鬪ヲ中止サレタル事並双方境界ノ確定以前ニハ土匪討伐ヲモ中止シテ誤解ナカラシムル旨答ニテ右ハ何レモ遵奉セラレ居ル旨ヲ縷述シ以上ノ事実ニ看テ直チニ會議ヲ再開シ更ニ一層重要ナル討議ニ移リ迅速和平ヲ恢復シテ人民ヲ満足セシメタキ旨希望セル書面ヲ唐紹儀ニ送附セル趣北方側事務所ヨリ報告シ来レリ

北京ヘ電報セリ

二五 三月八日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

中国南北和平会議ノ進行ニ関シ日英仏伊公使

ヨリ北京政府ニ勧告ノ問題ニ付回訓ノ件

別電 同日内田外務大臣宛小幡公使宛第三一二三号

北京政府ニ対スル勧告案文

第三一二三号 大至急

貴電第三一二三号ニ関シ

(一)陝西問題ニ付テハ英國公使陳述ノ如ク果シテ北軍カ停戦

progress of the peace conference at Shanghai, and the question of the war participation army is also expected to present a further difficulty to the work of that conference. The Allied and Associated representatives at Peking, consistently with the declaration embodied in their communication to President Hsu of December 2 last, have no desire to control or influence any particular terms of adjustment to be arranged between the two contending factions in China. They are however keenly interested in an early solution of the differences now dividing China, and, without intending to enter into examination on the facts or merits of the questions at issue, they trust that every term of armistice arranged between the Northern and Southern forces in Shensi shall be as loyally and scrupulously observed by the one party as by the other, and that the plan of the organization of the war participation army shall not be allowed to hamper the nego-

tations at Shanghai.

Uchida

二六 三月八日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

中国南北和平会議ニ付丰唐紹儀等ヨリ外交団
首席英国公使ニ宛テタル電報写送付ノ件

附屬書 右電報写

機密第一一一号 (三月十三日接受)

大正八年三月八日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

在上海唐紹儀等連名ヲ以テ首席公使英国公使ニ再電シ上海
和平會議中止ノ不得已事情ヲ述ヘ之ヘカ斡旋方ヲ各国公使
ニ依頼越シタル電文内容ノ大略並ニ右ニ関シ本月六日五国
公使會議ヲ開催セル次第第ハ往電第三〇九号ヲ以テ及報告置
候処右唐紹儀等來電全文ハ別紙写ノ通ニ有之候間委細右ニ
テ御査閲相成度此段及報告候也

(附屬書) 唐紹儀等ヨリ外交団首席ニ宛テタル電報写

Telegram to the Dean of the Diplomatic Body
dated Shanghai March 3rd, 1919,
received March 5th.

After more than a year of internal strife with which the Republic of China has been inflicted during the progress of the great world conflict, the Military Government, pursuant to the trend of public opinion and the disinterested advice of Your Excellencies the Ministers of the five Friendly Powers in a spirit of sincerity, took joint action with the Peking Government in convening a Peace Conference and delegated to it special Representatives with plenary powers in the hope that all fundamental questions at issue might be thoroughly threshed out and settled so as to attain our object of permanent peace. Unfortunately complications have sprung up from the two major questions which were the first to receive the attention of the six Sessions of the

Conference since the 20th of February last, namely the cessation of hostilities in Shensi and the suspension of the formation of the National Defence Army. The result is that the other fundamental questions are yet given no opportunity of discussion. As peace is the objective of the Conference, and as peace and war are logically impossible of simultaneous pursuit, the Peking Government is either manifestly guilty of insincerity when it attempts to carry on warfare while on the other hand it talks of peace, or else its authority carries no weight. If latter is true, a patched up peace will prove an unhappy one. It may be observed that on November 16th last the Peking Government issued a Mandate promulgating the armistice which included Shensi and Fukien in its operation. But, under the pretext of fighting to subdue bandits, the invasion of Shensi was made, so that the past three months or more the inhabitants of Shensi have been inflicted with

indescribable miseries resulting therefrom. This state of things dragged on until February 13th, when a Mandate was issued ordering cessation of fighting in Shensi, Fukien and Western Hunan in accordance with the five Articles of the Modus Operandi proposed by General Li Shun, Tuchun of Kiangsu. Then it was that the Northern Peace Delegation declared formally at the Conference that the Northern Government would accept full responsibility for the enforcement of the armistice in Shensi from February 13th henceforward. But express mail advices received from the front in Shensi, dated between the 14th and 21st of February, all confirm the reports of a general invasion by Northern troops, the loss of positions in the Eastern and Western fronts and even the instability of Sanyuan, the Headquarters of the Southern forces.

Although this Delegation requested to be placed in direct telegraphic communication with Sanyuan

as a preliminary step towards the cessation of hostilities, we have up to now received not a single telegram from our friends there. In this anomalous state of war and peace parley going on simultaneously, how could the undersigned, who have been charged with the duty of negotiating peace, have the face to meet the people of Shensi or the world without self-reproach. Consequently on the 28th of February, at 9 o'clock in the morning, we demanded an answer within 48 hours from the Peking Government to our proposal for the effective enforcement of the armistice, and the removal of General Chen Shu fan from his office of Tsuchun of Shensi, and that if no satisfactory reply, or none at all, was received within that time limit, it would be conclusive evidence of the want of sincerity on the part of the Peking Government, and in that event the suspension of negotiations would become an unavoidable matter.

Defence. What other motive could it have in taking such an extraordinary step?

Upon our request to be put in possession of copies of the Sino-Japanese Naval and Military Pacts and their Annexes, and complete version of the War Participation Loan Agreement, only copies of the Military and Naval Pacts, without annexes, have been put before the Conference, which has so far had no opportunity to take them up in discussion.

In a word peace can only be attained by first getting at the root of all trouble, and second removing all obstacles. The success of the two steps are dependent upon each other. If the obstacles are not removed, there is no way to get at the root. As the questions relating to Shensi Province and the National Defence Army constitute the principal obstacles at present, it becomes absolutely necessary to remove these before the Conference can proceed any

The period having expired without receipt of any reply, on and after Monday March 3rd, it will be impossible to proceed with the Conference, the Northern Delegation furthermore having already resigned in a body. Moreover, in view of the Military Government's earnest desire for peace, and its conciliatory spirit, and the sincere wish of the undersigned to push forward this peace movement in spite of difficulties, we would have exerted our utmost to avert the deadlock, had it not been a case of impossibility to proceed under present circumstances. The National Defence Army should be dispensed with, the reason is manifestly obvious.

At the present juncture of the close of the European war, when it is the purpose of the present Conference to make a start with the scheme of military reduction on a large scale, the North takes occasion to materialise its scheme of increasing its military strength under the pretext of National

further. With the suspension of the Conference the future of the peace in China hangs in the balance.

Knowing that Your Excellencies have China's interest at heart, we are taking this opportunity to make another appeal for your friendly advice and guidance at this critical moment.

Signed:

Tang Shao yi	Chang Shih chao
Hu Han Ming	Miao Chia shou
Tseng Yen	Kuo Chun shen
Liu Kwang lieh	Wang Po Chun
Peng Yung Yi	Yao Ming luen
Li Shih ying	

二六 三月九日 在中國小幡公使(電報)
内田外務大臣宛(電報)

南北和議中止ニ關スル北京政府ノ井明的通電

ニ付報告ノ件

別電 同日在中國小幡公使宛内田外務大臣宛電報

第三三〇号
右通電要領

至急

第三二九号

(三月十日接受)

今回唐紹儀カ南北和議中止ニ関シ発表ノ弁明の通電ヲ三月八日ノ各新聞ニ発表セリ全文郵報ス

上海広東ニ転電シ南京ヘ郵報

註 本電ハ後掲小幡公使三月十一日發電報第三四一号ニ依リ訂正セルモノナリ

(別電)

三月九日小幡公使宛内田外務大臣宛電報第三三〇号
南北和議中止ニ関スル北京政府ノ弁明の通電要領

至急

第三三〇号

(一)陳督軍ノ免官ヲ要求シ且四十八時間ヲ限リテ回答ヲ求ムル如キ全然國際ノ慣例ヲ国内ノ事ニ施スモノニテ奇怪事ノ極ミナリ

(二)陝西省ノ問題ニ関シ唐總代表カ單ニ于右任ノ私信ニ基キ強制的要求ヲナスハ不当ナリ政府ハ唐總代表ノ満足スルト否トニ不拘又上海會議ノ中止サルルト否トニ不拘互譲ノ弁

ニ開会ノ本旨ヲ失フモノナリ若シ内政外交悉クコノ種ノ會議ニ依リテ決セントセバ政府ヲ設クル必要ナカルベシ今回會議渋滞ノ科ハ中央之ニ任セズ

二八 三月九日 金谷天津軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

黎元洪ノ南北調停ニ関シ報告ノ件

天電第三六号

(三月十日写外務省接受)

黎元洪ハ南方派ノ一部及徐大總統ヨリ南北平和ノ時局調停者タランコトヲ再三希望セラレシモ彼ハ自ラ表面ニ立チテ斡旋スルノ意志全ク無カリシガ徐總統ハ范源濂ヲ黎ノ許ニ遣シ昨八日時局調停方ヲ懇請セシメタル結果黎ハ唐紹儀及軍政府七總裁ニ宛テ徐總統及北京政府ノ現時局ニ対スル真意ト實際ノ行動ヲ述ヘ且国家及國民ノ幸福ヲ顧慮シ出来得ル限り讓歩シテ平和ノ速ナランコトヲ祈ル旨ヲ電報セリト蓋シ此ノ電報ハ北京政府側ノ平和ヲ希望スル誠意ヲ南方ニ披露スルニ止マリ黎自ラ自發の調停策ヲ講スル意思ニ非サルヲ以テ大ナル效果アルモノト思ハレス又昨日來津セル侍從武官長蔭昌ハ同夜黎元洪ヲ訪ヒ時局ニ対シ懇談セリ

一 中国南北和平會議ニ関スル件 二八 二九

法ニ照ラン弁理スル外致方ナシ

(三)唐總代表ハ熱心ニ參戰借款ノ取消參戰軍ノ取消等ヲ要求セラルルモ中央政府ニテハ歐戰未ダ終了セスト認ム從ツテ軍事協定ヲ取消スハ其時機ニ非ス既ニ之ヲ取消シ能ハサレハ參戰借款ハ当然交付スヘキモノナリ歐洲平和条約調印セラレ軍隊撤退セラレタル後ニ至リ軍事協定及參戰軍ハ何レモ同時ニ消滅スヘキモノナルモ其際參戰軍ヲ解散スヘキヤ否ヤハ陸軍部ヨリ他ノ軍隊裁撤案ト共ニ一併考慮スヘキ問題ナリ

(四)此問題ニ關連シ重要ナル争点ハ目下歐戰が終了セシヤ否ノ解釈如何ニアルガ中央政府ニテハ遠ク独逸ガ今猶平和条件ヲ悉ク履行スルニ至ラズ近ク露國國境一帯過激派ノ擾乱猶未ダ全ク鎮靜セズ而シテ支那ニ於ケル敵國人ハ今ヤ將ニ追放実行中ナリ現下ノ狀態ヨリ察スレバ平和条約ノ調印モ遠カラザルベキヤニ付其時ニ至ラバ自カラ適當ノ解決ヲ見ルコトヲ得ベシ

(五)今回ノ會議ハ護法問題ニ関シ兵争ヲ開キタルニヨル然ルニ開会以來根本ノ關係アル護法問題ニ関シテハ何等言及セズ徒ラニ内政外交ニ關スル小問題ヲ列挙シテ之ヲ争フハ既

当地英國官憲ハ殘留セル獨國人英租界ニ立入ルコトヲ七日以來嚴禁シ違反シタルモノハ罰金若クハ拘留ニ処スルコトセリ 各地済

二九 三月十日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

中国南北和議ニ關スル北京ノ五国公使會議ノ

結果ニ付在本邦英國大使幣原次官ニ日本政府

ノ所見問合ノ件

第三二七号

三月八日在本邦英國大使幣原次官ヲ來訪ノ際同大使ハ貴電第三一一号北京外交団會議ノ結果ニ言及シ貴官独リ本件ニ対スル意見ヲ留保シテ請訓セラレタルヲ指摘シ右ニ対スル日本政府ノ所見ヲ尋ネタルニ付次官ハ在北京五國代表者ニ於テ北方軍カ陝西省ニ於ケル停戰条件ヲ嚴守セサルコトヲ責メ又ハ參戰軍ノ解体乃至縮少ヲ勸告セムトスルカ如キハ客年十二月二日ノ南北妥協ニ關スル共同勸告末段ノ宣言ト兩立スルモノト解釈シ得ラルヘキ何等余地アリヤ反問シタルニ同大使ハ明瞭ナル答弁ヲ避ケタリ依テ次官ハ五國政

二七

to His Majesty's Secretary of State for Foreign Affairs on the subject of the deadlock in the Peace Conference at Shanghai, referred to the Military Governor as responsible for the violation of the armistice. Lord Curzon has now telegraphed to His Majesty's Ambassadors at Tokyo, Washington and Paris instructing them to urge the respective Governments to which they are accredited to give the necessary instructions to their Representatives at Peking to associate themselves with their Allied colleagues in pressing the Chinese Government to dismiss the Military Governor referred to and to disband the so-called National Defence Army.

British Embassy,

Tokyo.

March 10th, 1919.

三三 三月十一日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ニハ馮国璋何レモ之ニ關係シ有力者ニハ運動費ヲモ給シテ飽迄仇敵タル段祺瑞ヲ排斥セントシ現ニ張耀会ノ如キハ南京ニテ馮ヨリ数万弗ノ資金ヲ受取リタリトノ事ニテ尚之ニヨリ運動モ追々熾トナルベク段等軍閥モ何レ對抗策ヲ講スベク斯ノ如クシテ内訌ハ到底止ムコトナカルベク而モ會議ニシテ中止セラルレバ多クノ困ル人々ヲ生スベシトテ暗ニ其ノ多数ガ私慾ノ為メ本件ニ關係シ居レルヲ指摘シ居タル趣ナリ尚章炳麟ノ如キハ唐紹儀カ和平會議ニ熱心ナルモノ一ニ其關係セル金生保險ノ資金欠乏ヲ補ハン為ニ過キズ彼等ノ秘書ロシンエキ自身ガ同会社ノ一員タル好ク之ヲ証スト為シ居ルカ如キ彼等ノ内部ニハ例ニ依リ暗闘ト腐敗ノ行ハレ居ルハ今更ノ事ナラザルモ若干注意ニ値ス
公使及広東ヘ電報セリ南京ヘ暗号ノ儘郵送セリ

三五

三月十四日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

中国南北和平會議ノ行惱ニ関スル日本政府ノ
意向英國大使ヨリ問合アリ之ニ対スル我方回
答通報ノ件

一 中国南北和平會議ニ関スル件 三五

唐紹儀ノ北京政府宛通電ニ関スル問合ノ箇所
再電ノ件

第三四一号

(三月十一日接受)

貴電第三二六号ニ関シ

再電方御申越ノ箇所左ノ通

「全文郵報ス 上海広東ニ転電シ南京ヘ郵報」尚右貴電後
段ニ関シ

別電第三二九号既報ノ通り中央即北京政府ノ発表シタルモノナリ

三四

三月十二日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南方代表各派ノ暗闘熾烈ノ為南北和平會議ノ

前途悲觀サルル旨ノ情報報告ノ件

第一〇八号

(三月十三日接受)

唐宝鏐ノ波多ニ内話セル所ニ拠レバ南方代表各派ノ暗闘ハ近來益々甚シク愚園ニ於ケル事務所ハ常ニ爭論ノ絶間ナク此様子ニテハ講和會議ノ前途モ悲觀ノ外ナク加フルニ梁士詒其他ノ平和期成会長江三督軍等ヲ背後トセル平和聯合会

第三五八号

三月十三日英國大使本大臣来訪ノ際往電第三一二号ノ件ニ談及シ和平會議ノ形勢頗ル面白カラサル次第ナルカ日本政府ニ於テハ更ニ一步ヲ進メラルル意向ナキヤト尋ネタルニ付本大臣ハ陝西問題等ニ関スル上海會議今回ノ行惱ミハ遺憾ニ相違ナキモ実ハ支那人ニハ支那人ノ筆法アリテ自ラ解決ノ期アルヘク今後モ斯ノ種ノ事態ハ幾度カ繰返シ演出セラルヘクトハ思考セラルルモ交渉ハ迂余曲折ヲ経テ結局妥協成立ニ至ルヘク從テ今回ノ行惱ミハ或ル事件ニ関スル行惱ミニシテ和平談判ハ是ニテ破裂シタルニアラス要スルニ事体ノ推移ハ忍耐シテ之ヲ注視スルヲ要ス若シ此上列国側ニ於テ一步ヲ進ムルニ於テハ例ヘハ今後督軍制度ノ撤廃問題如キ提起セラルル場合ニハ又々容喙セサルヲ得サル羽目ニ陥ルコトナシトセス果シテ然リトセハ実ニ際限ナキ次第ニテ昨年十二月二日ノ勸告明文ニ明ニ違背スルコトトナルヘク旁々現在ニ於テハ帝國政府トシテハ今回提議ノ内容以上ニ其歩ヲ進ムル意思ヲ有セサル次第ナル旨ヲ答ヘ置ケリ
上海広東南京ヘ転電アリタシ

三六 三月十四日 在雲南二瓶領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

雲南督軍唐繼堯在上海雲南和議代表ニ対シ雲
南ノ主張八箇条ヲ電報ノ件

第六号 (三月十六日接受)

唐督軍ハ最近在上海雲南代表繆嘉壽ニ対シ左ノ八箇条ノ主
張ヲ電報セシ由ナリ

一、絶對ニ国法ヲ尊重シ国是民望ヲ帰一セシムル事
二、民治主義ヲ採用シ団体ヲ尊重シ以テ自治的能力起業的
精神ヲ發達セシムル事

三、中央ト地方トノ關係ニ付テハ連邦の精神ヲ採用シ地方
政治ハ総テ民意ニ從ヒ自由裁量ノ余地有ラシムル事

四、南北各省均衡ノ氣勢ヲ維持シ以テ国政ノ平和伸張ヲ保
障スル事

五、軍制ヲ改訂シ冗兵ヲ淘汰シ中央ノ各省ニ対スル駐屯軍
政策ヲ廢スル事

六、中央行政ハ公表主義ヲ採用シ内外ニ対シ秘密行為及陰
謀操縱ヲ為シ禍乱ヲ挑発スル等ノ事有ルベカラザル事

七、国交ニ対シテハ一視同仁誠意好誼ノ主義ヲ採用シ以テ

世界ノ平和ヲ維持スル事

八、国内ノ事業ニ付テハ国権ヲ侵害セザル限り開放政策ヲ
採用スル事

右北京及広東上海へ電報セリ

三七 三月十五日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

中国南北和平會議ニ関スル幣原次官ノ在本邦
中国公使館一等書記官王鴻年ニ為シタル談話
内容通報ノ件

第三六九号

三月十二日近ク帰国スヘキ在本邦支那公使館一等書記官王
鴻年幣原次官ヲ来訪ノ際次官ハ上海和平會議ニ言及シ曩ニ
唐紹儀ハ會議ノ行悩ヲ見ルニ当リ其ノ經過ヲ北京外交団ニ
通報スヘキコトヲ宣言シ又事実ニ於テ外交団ニ通報スル所
アリタル趣ノ処同氏カ此ノ行動ヲ執リタルハ夫々相当ノ理
由アリシコトナルベシト雖モ局外者ヨリ見レバ是レ恰モ同
氏ガ外国ノ勢力ニ依頼シテ解決ヲ計ラントスルモノナルヤ
ノ感ナキ能ハス將又北方派トテ妄リニ強硬ノ態度ヲ固執シ

大正八年三月十五日

在安東

領事 森安三郎(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

支那南北和議ニ関スル件

本件ニ関シ在奉天張巡閱使ハ這般中央政府ヨリ左記事項ニ
対シ至急回答スヘキ旨ノ訓令ニ接到致シタル趣ニ有之候
和議問題ハ種々波瀾曲折ヲ經テ結局議ヲ停止スルノ已ムナ
キニ至レリト雖尚疏通ノ途アリテ會議繼續ノ望ナキニアラ
ス故ニ左記六項ニ就キ其ノ要領ヲ各省区長官ニ訊シ参考ニ
資シ度キヲ以テ詳細回答スベシ

一、財政ノ狀況

二、外交ノ狀況

三、軍事ノ現狀

四、人民ノ和議ニ対スル輿論

五、各長官ノ鐵路統一ニ対スル意見

六、實業教育ニ対スル方針變更ノ有無

右聞込ノ儘不取敢及報告候 敬具

写送附先 在支公使

御参考迄上海、広東へ転電アリタシ

三八 三月十五日 在安東森領事ヨリ
内田外務大臣宛

南北和議ニ関スル北京政府ヨリ張東三省巡閱

使宛訓令内容報告ノ件

機密公信第一三号 (三月二十一日接受)

三九 三月十八日 在上海有吉総領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

中国南北平和會議南方委員ガ會議行惱ミノ事

情ニ関シ宣言書発表ノ件

第一一七号

(三月十九日接受)

昨十七日南方委員ハ長文ノ宣言書ヲ発表セルカ其大要左ノ如シ

停戦ニ関スル第三次大總統令ノ発表セラレタルニ拘ラス于右任ヨリノ報告ニ依レハ本月六日ニ到ル迄北軍ハ尚現ニ南軍ニ対スル攻撃ヲ続行シツアリトシ且陳督軍ガ今尚南軍及南方委員間ノ電報通信ヲ允許セサル事実ヲ指摘シ斯ノ如キハ北京政府ハ軍規ニ反スル出先將校ヲ処罰スル能力ナキカ或ハ政府自身斯カル行為ヲ敢テ為サシメツツアリト推測スルノ至当ナルヘク他方北京政府ハ熱烈ニ国防軍ノ整備ヲ主張シ^(脱)列強ノ勸告ヲ顧ミス參戰借款ノ殘額ヲ引出シツツアリ加之財政部ハ当會議一致ノ決議ヲ無視シ八年公債ノ發行ヲ固持シ而シテ軍事協定ノ終了期ニ関シテハ現取極ノ通り欧戰ノ終熄ト共ニ終了セシムヘントノ南北委員一致ノ

シテ或ハ南方側実力派ガ長江筋ノ李純其他ノ実力派ヲ介シテ北方派ト南京其他ニテ妥協セントノ考ヲ有シ居ル内情アルモノノ如ク唐紹儀モ最近ニ至リ其間ノ内情ヲ察知シ来リタルニ付万一方南方実力派ガ北方側ト妥協スルニ至ラバ唐紹儀等ハ独リ孤立ノ地位ニ陥ルノミナラズ全然其ノ面目ヲ失スル次第ニ付多少「デレンマ」ノ気味ニテ態ト強固ナル主張ヲナシ南方側実力派ト北方派トノ妥協進行ヲ阻止シ且妥協遷延スルモ北方派ニ不利ニシテ南方側ニハ比較的不利鮮ナキヨリ種々難題ヲ提議セルカノ如ク推測セラルト答ヘ就テハ實際ノ南北妥協サヘ成立セバ其ノ妥協地点ハ必スシモ上海ニ限ラス南京ニテモ宜シカラント考ヘラルルモ本使個人ノ意見如何ト反問シタルニ付本使ハ日本トシテハ一日モ速ニ平和會議ノ成立シ支那統一ノ実行ヲ希望スル次第ニ付私見トシテハ其ノ妥協地点ガ上海タルト南京ト將又其他タルトヲ問ハズ南北双方カ互譲ノ誠意ヲ以テ一日モ速ニ妥協統一ノ成立ヲ切望スル所ナリ試ミニ一例ヲ挙クルニ日本実業家ノ支那ニ対スル投資ノ如キモ妥協成立迄差控ヘシメ居ルニ付南北會議ノ遷延ハ日本実業家ニ多大ノ不利益ヲ蒙ラシムル訳合ニ付日本トシテモ尚妥協統一ノ実行ヲ切望シテ

意見ニ拘ラス北京政府ハ更ニ之ヲ延長セリトナシ要スルニ叙上ノ事情ノ存スル限り^(脱)ノ事業行惱ミニ逢著セサラントスルモ得ヘカラス平和ノ愛護者タルモノ須ク全力ヲ尽シ且来リテ吾人ヲ援助シ以テ和平會議自然ノ決裂ヲ防止セラレンコトヲ望ム云云

尚南方委員ハ右宣言書公布ト共ニ同文ノ電報ヲ北京外交團ニ送附セリト云フ

北京ニ電報セリ

四〇 三月十九日 在中国小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

中国南北平和會議ニ対スル南方実力派ト唐紹儀トノ意見ノ疎隔ニ関スル曹汝霖ノ談話等報

告ノ件

第三九七号

三月十八日曹汝霖ニ会见ノ際南北會議ノ状況ニ関スル本使ノ質問ニ対シ曹ハ現時ノ状態ニテハ到底急ニ該會議成立スルモノトハ考ヘラレズ南方側ニ於テモ陸榮廷、唐繼堯等ノ実力派ハ兎角唐紹儀ノ言動ニ対シ嫌タラス感シ居ル模様ニ

止マザル所ナリト答ヘ置ケリ尚過日陸宗輿モ本使ニ北方派ガ南方実力派ト單獨講和ヲ為サントスル意有ルガ如キ口吻ヲ漏シ今又曹ノ右ノ如キ内話アルニ鑒ミ北方派ニテハ或ハ唐紹儀等ヲ相手トセザル南方実力派ト私カニ妥協ヲ進行シ居ルカ又ハ万一方南北會議不成立ノ際ニ右妥協ヲ計画シ居ルニ非ズヤト觀測セラル將又過日張弧ハ船津ニ対シ唐紹儀カ斯克強固ナル主張ヲ為スハ南方実力派ニ關係アル政学会派ガ唐紹儀ヲシテ実行至難ナル強固ナル主張ヲ為サシメ北方派ヲシテ唐ニ対スル反感ヲ深カラシメ且南北會議ノ頓挫ヲ来シ唐ヲシテ窮地ニ陥ラシメントスル術策ニシテ唐ガ之ニ乗セラレツツアルモノナリト觀測スル旨内話セル趣ナリ右張ノ觀測ハ些カ^(脱)感アルモ御参考迄ニ電報ス

上海、広東、雲南、南京ヘ電報セリ

四一 三月十九日 在雲南二瓶領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

唐雲南督軍ハ中国南北平和會議ノ前途ヲ樂觀

シ居ル旨報告ノ件

第九号

(三月二十二日接受)

上海平和會議中止ニ関シ唐督軍ハ歐洲戦争既ニ終了セル今日南北再ヒ干戈ヲ交ユルカ如キハ甚ダ不可ナリト述ヘ陝西問題ニ付テハ停戦命令カ全線ニ未着ナリトノ北京政府ノ弁明ハ相当ノ理由アルヘク又最近錢能訓ヨリ従来南方側ノ主張セル要点タル法律問題ニ触ルルニ至ラスシテ南方側ニ於テ會議ヲ中止スルハ遺憾ナリト通電シ来リタルガ此意見ニ對シ唐紹儀モ是認シ居ル程ナレバ南北分裂スルカ如キハ万無之カルヘシト云ヒ前途ヲ樂觀シ居レリ

在支公使、上海總領事ヘ電報セリ

四二 三月二十日

在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和議ノ見通シニ對スル李純ノ觀察報

告ノ件

第四九号

三月十九日李純ハ小官ニ對シ左ノ通り語レリ

(一) 余ハ南北双方ノ代表ガ直接交渉スルニ至リタル以來第三者ノ干与ハ害アリテ益ナキヲ信ジ又病中ナルガ故ニ爾来手ヲ引キ居リ今回和議ノ停頓ニ付テモ傍觀シツツアルノミ

ナリ大統領ガ會議ノ統開ノ斡旋ヲ余ニ依頼セリト云フハ事實ニアラズ

(二) 今ヤ和平會議統開ノ日ハ殆ドトシ能ハザル状態ナルガ和平ガ一般國民ノミナラズ友邦ノ希望ニテモアラバ停會長引クト雖南北對峙ノ原状ニ復歸スルコトナカルベク今後モ幾度カ停頓、疏通、開會ヲ繰返ス可キモ遂ニハ曲リナリニモ和平ノ成立ヲ見ルヲ得可シト自分ハ觀察ス故ニ會議破裂後ノ自分ノ執ル可キ態度ニ付テハ何等ノ考モナシ居ラズ

(三) 若シ万一會議ノ破裂ヲ見ルモ現在ノ狀況ニ於テハ南北ハ積極的ノ軍事行動ヲナスヲ得ズ蓋シ福建ニ於テハ陳炯明ノ一万ノ兵(外ニ土匪アリ)ニ對シ李厚基ガ五万ノ兵ヲ有シ居ルニ付攻勢ヲ執ルコト能ハザルノ状態ニアルノミナラズ陸榮廷、李烈鈞、唐繼堯等ト軍政府トノ間ノ關係モ円満ナラズシテ一致ヲ欠キ居レバナリ是レ唐紹儀ハ陝西問題ニ関シ其指定シタル四十八時間内ニ中央政府ノ回答ヲ得ザリシモ南方側ニ何等ノ共鳴モ起ラズ何事ヲモナシ得ザリシ所以ナリ又北方ト雖資金ヲ得ザル限リハ同様ニ大ナル攻勢ヲ執ルコトヲ得ズ

(四) 陝西ニ於ケル最近ノ戦争ハ陳督軍自身ノ有スル兵力ハ

北京ヘ電報シ上海ヘ暗号ノ儘郵報セリ

四三 三月二十二日

在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議ノ停頓打開ノ為李純ノ斡旋

ヲ希望スル者鈔カラザル旨同人談話ノ件

第五二号

(三月二十三日接受)

在支公使發閣下宛電報第三九七号南方実力派トノ妥協ニ関シ三月二十二日李純ニ面会ノ折夫トナク問ヒ試ミタルニ彼ハ上海會議ハ其主タル目的ノ法律問題ニハ未ダ論及スル所ナク恰モ内閣會議ノ如ク所有重要政治問題ヲ論議セムトスル結果脱線シタル汽車ノ如ク殆ド進行ノ見込ナク而モ此間ニ於ケル唐紹儀等ノ主張ハ南方ノ本尊タル実力派ノ意志ニ反スルトコロ多キヲ以テ又々自分(李純)等ノ斡旋ノ下ニ当初ノ目的通り法律問題ノミヲ解決シテ和スルニ如カズトナシ上海會議速ニ統行セザル際ハ双方ノ代表ヲシテ南京或ハ漢口ニ會議ヲ開ク様ニ致シタシトスル南北兩方面ノ有力者ヨリ自分ニ右ノ尽力方ヲ希望シ来レルモノモ鈔カラザルニ付和議ノ停頓依ミタルニ於テハ或ハ再ヒ自分ハ仲介者ト

(c) 王廷楨ノ上海ニ赴キタルハ南北兩代表間ニ斡旋シテ會議ノ統開ヲ計ルベシト言フガ如キ大ナル使命ヲ帯ベルモノニ非ズシテ単ニ會議ノ世話ヲスベシ(照料セヨ)ト言フ國務院ノ命ニ依ルモノナリ

シテ立ツ事モアルベシ云々ト語レリ上海會議ノ開催ト李純ノ病氣ノ為一時減少シタル南北ヨリノ其訪問客ガ近頃又々漸ク多キヲ致セル模様モアレバ本件ニ関シテハ暗中多少ノ計画ナキニ非ザルベシト觀察セラル北京へ電報セリ上海へ暗号ノ儘郵送セリ

四四 三月二十三日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議北方代表朱啓鈴ハ錢總理ヨリ接受ノ陝西問題ニ関スル電報ヲ會議ニ送付セル旨北方側公報ノ件

第一二八号

北方側ノ公報ニ拠レバ朱啓鈴ハ陝西問題ニ関シ本月二十日附ニテ錢總理ヨリ接受セル二通ノ電報ヲ送付セルガ其要領左ノ如シ

(一) 本月六日陳樹藩ハ更ニ其部下各司令ニ停戦ノ訓令ヲ電報セルニ対シ各司令官ヨリ早キハ七日附遅キハ十二日附ヲ以テ執レモ命ノ通り各部下ニ訓達シ嚴重ニ戦鬭行為ヲ中止シ現地地点ヲ維持セシメ居ル旨ノ返電ニ接セリ

定期日内ニ統開セシメラレタシタルヲ利用シ速ニ會議再開センコトヲ要請セリ

在支公使、広東総領事へ転電セリ

四六 三月二十八日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議北方側ノ和議予備會議再開方申込ニ対スル唐紹儀ノ回答ニ関シ報告ノ件

第一四〇号

昨二十七日夜北方側公報要領左ノ如シ

南北双方ヨリ特ニ推挙セラレタル陝西境界画定委員張瑞璣ハ最近数日間屢々上海ニ電報シ停戦ノ実行ヲ報ジ且會議ヲ即開シテ同地方人民ノ苦艱ヲ除クベキ旨ヲ申越シタルニ依リ北方総代表ハ来ル月曜日予備會議再開方昨日唐紹儀ニ申込ミタルモ唐ハ張ガ三原ニ到着シ更ニ同地ヨリ電報到着スルニ非レバ之ニ応ジ難シトセリ

(在支公使へ電報セリ)

四七 三月三十一日 在中国小橋公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一 中国南北和平會議ニ関スル件 四六 四七

(二) 陳樹藩ヨリノ來電ニ拠レバ其各部隊ハ現ニ停戦ヲ実行シ居リ又三原ニテハ南北兩軍ノ衝突セルコトナク又涇陽ニ於ケル南軍トハ目下(略)ナルモ同地ヲ攻撃セルコトナシ然ルニ和平會議ニテハ単ニ于右任ノ私信ニ基キ偏頗ノ判断ヲ為スハ了解ニ苦ム所ナリトシ尚陳督軍ハ過去数日間在蜀川南ノ各司令官及各將軍ヨリノ報道ニ拠レバ南軍ハ其各地点ヲ間断ナク突破セント努メツツアリト為シ内閣ハ前記事情ヲ平和會議委員ニ通報シ南軍ノ攻撃停止ニ関シ嚴命ヲ発セラレタシ

(北京、広東へ電報セリ)

四五 三月二十四日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議北方代表朱啓鈴ヨリ唐紹儀宛書信ニテ速ニ和議再開ヲ要請シタル件

第一三二号

(三月二十五日接受)

北方側ノ公報ニヨレバ本月二十二日朱啓鈴ハ唐紹儀ニ宛テ書信ニテ會議統開ニ関スル前回ノ書信ニ対シ注意ヲ喚起シ且上海ニ於ケル商業団体連合会ヨリノ來翰ニ和平會議ヲ一

中国南北和平會議再開ニ関スル大總統令公布

ノ件

第四八九号

三月三十日附ヲ以テ和平會議再開ニ関シ大要左ノ如キ大總統令公布セラリ

世界大同ノ要旨ハ和平ヲ振導スルニアリ本大總統ハ民患ヲ軫念シ速ニ内訌ヲ止メ救済ヲ計ランコトヲ思ヒ曩ニ上海會議ノ頓挫スルヤ各省議會、商会及公共団体ヨリ屢々速ニ繼續會議方ヲ電請シ來レリ且陝西陳督軍ヨリハ停戦命令ニ接シタル後前方各方ニ一律停戦ヲ命シ既ニ何レモ之ヲ実行セルニ付速ニ會議ヲ統開セシメラレ度キ旨電報アリ又張瑞璣ヨリモ陝西省停戦ノ状況及和議統開ヲ電請シ來リ又陝西教育会、總商會(略)既ニ停戦セルニ付速ニ和議統開ヲ希望ストノ電請アリ平和ハ挙国ノ望ム所ナリ會議ニ列セル各代表ハ愛国ノ熱誠又必ス速ニ斡旋以テ此望ヲ達セン全国人民ハ皆我同胞ナリ各其ノ生業ニ安ジ同心同力以テ我カ中華民國維新ヲ完成センコト本大總統ノ日夜希望スル所ナリ

上海、広東へ電報セリ

四八 三月三十一日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北平和會議北方代表王克敏會議近ク再開トナルベキ旨及會議ノ前途ハ多難ナルベキ旨談話ノ件

第一四三号

三月三十一日王克敏來訪其ノ談ニ曰ク、一昨日南北兩代表會議ノ結果三原ヨリ張瑞璣ノ電報到達シ停戦ノ事實愈々明白トナレバ直チニ會議ヲ再開スルコトニ決セリ而シテ陳樹藩ヨリ三原ト当地間ノ電報ハ既ニ直通スルニ至レリト電報シ来レルニ看テ張ヨリ有利ナル電報ノ到達スヘキハ殆ド疑無ク今明日ニモ右ニ接手シ得可キヲ期待シ居レリト云ヒ南方代表中ニハ會議再開前參戰軍問題其他ヲモ解決スルヲ要ストセル強硬論者モ鮮カラザル模様ナリシモ此等モ陝西ノ停戦ニシテ事實ナラバ會議統開ニハ最早異議無キ事トナレリト述べ今後ノ會議ニハ個々ノ問題ニ就キ議論スルヲ避ケ概括的ニ各種ノ案件ヲ提出シ南北各代表ヲシテ委員ヲ設ケテ夫々審理セシムルコトトシ可成ク彼我交譲ノ余地有ラシムル考ニテ兩総代表何レモ是ニ同意セリト云ヘリ

十七日陳樹藩ヨリ電報アリタルニ拘ラス今尚張ヨリノ電報無キニ徴シ同地ノ狀況尚甚ダ疑フ可シト申シ居タル趣ナリ
北京、広東へ電報シ南京へ暗号ノ儘郵送セリ

四九 四月七日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北平和會議南北双方代表談話会ニ於テ四月九日正式會議ヲ開クコトニ決定ノ件

第一五六号 (四月七日接受)

四月七日午前九時南北双方代表列席ノ上談話会ヲ開キ會議停頓前ニ起レル陝西問題參戰軍參戰借款八年公債ノ如キ諸問題ヲ審議シタル上明日更ニ談話会ヲ開キ愈九日(水曜日)正式會議ヲ開クコトニ決定セリトノコトナリ
北京広東ニ電報セリ

五〇 四月八日 在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北平和會議ノ続行ヲ要望スル陸榮廷ノ広東軍政府等宛通電ノ大要報告ノ件

會議ノ前途ニ付キテハ王ハ曰ク国会、裁兵、地方制度ノ三問題ハ最モ難関ニシテ參戰軍問題ノ如キ自分ハ其ノ何レニ決スルモ左程南北双方ニ取り影響アラザルベキ旨ヲ南方代表ニ説得シツアルモ議會ノ処分ハ最モ難問題ニシテ旧国会ヲ認ムレバ徐大總統ハ非法ニ選舉セラレタルモノトナリ新国会側ニ於テ議論沸騰スベク縦ヘ憲法制定後ニ解散スベキコトヲ条件トスルモ彼等ハ必ズヤ各種ノ事ニ容喙シ時局收拾ス可カラザルニ至ルベク殊ニ最モ憂トスルハ彼等ヲ統一シ得ル実力者ノ有ラザルコトニテサリトテ新旧国会ヲ同時ニ解散スルコトトスルモ其ノ後ノ善後策全ク方策無ク南方側モ実ハ是ガ処置ニ窮シ居ル次第ニテ南北兩代表何レモ是ガ解決方ニ当惑シ居ル始末ナリトシ裁兵ニ付キテハ何レノ分ヨリ先ツ実行ス可キ哉又ハ解散セラレタル兵士ノ処分等モ重大問題ナル可ク地方制度ヲ確立シ中央トノ關係ヲ定ムルコトハ永久和平ニ必要ナルモ是逆方案立タズ前途甚ダ憂フ可シトナシ居タリ

尚本日章行嚴ガ林出ニ語ル処ニ依レバ彼モ亦三原ヨリ停戦方張ノ電報來リシニ付會議ヲ開ク答ナリトセル趣ナル処陝西出身ノ李述膺ハ林出ニ対シ三原トノ電報直通ノコトハ二

第七一号

四月四日陸榮廷ハ軍政府其他各方面ニ宛テ大要

今ヤ天下共ニ乱ヲ厭ヒ和ヲ思ヒ加フルニ外交危迫ナルヲ以テ速ニ國家ノ秩序ヲ回復シ力ヲ合セテ外ニ對セサルヘカラス就イテハ速ニ一面陝西問題ヲ交渉シツツ一面會議ヲ繼續シ以テ和議ノ進行ヲ促サレタシ和議決裂シ戰端又開クニ至ラバ是レ全國瓦解シ國滅フニ至ルベク自分ハ唯和平ヲ希望シ速ニ大局定マリ林下一日ノ優游ヲ遂ケンコトヲ希フノミ云々ト通電セリ

在支公使上海総領事へ電報セリ

五一 四月九日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北平和會議再開ノ旨並同會議ノ前途暗澹トノ觀測報告ノ件

第一五九号 (四月十日接受)

平和會議ハ今朝九時ヨリ午後ニ通シ今猶続行中ノ処之ガ狀況ハ未ダ一切外部ニ伝ハラズ南方代表特ニ唐紹儀ハ最近益々立場ニ窮シ可成速ニ一般原則ダケニテモ決定シ之ガ細目

乃至実行ハ南北両政府ノ責任ニ帰シテ段落ヲ結バント欲セリ且其代表等ガ孫洪伊等ノ強硬派ト往来スルニ就イテ兎角彼等ニ制セラレンコトヲ虞レ可成外部トノ交通ヲ遮断スルヲ得策トスル章行敵等ノ意見ニ聴キ終日會議ヲ続行スルニ決シ北方側ノ同意を得タルモノナルガ如ク然モ朱啓鈴等ノ北方代表ガ北京政府ノ意見ニ頓著ナク唐等ト共ニ一般原則ニテモ決議シ得ル立場ニ在リトハ認め難ク結局国会問題等ニテ又々決裂ヲ見ルニ至ルベシト予期セラレ尙最近ニ至リテハ右代表ヨリ其地方地方ノ問題ヲモ提出セン傾向有ルヤニテ旁々會議ノ前途一層困難ヲ加ヘ来ラントスルモノノ如ク而シテ一面ニハ孫洪伊等ノ強硬論者ハ益々唐紹儀ニ反感ヲ強メ来リ唐ガ禍首懲弁ヲ主張セザルヲ非難シ唐ヲ以テ徐世昌ノ組ト目シ徐ニシテ段祺瑞等ヲ処罰セザル間ハ即チ徐ト段トハ同類ナリト極言シ甚シキニ至リテハ唐紹儀ハ會議ノ決議実行ノ監視方ヲ外交団ニ請ハントスル下心有リト伝ヘ之レニ外國ノ干渉ヲ招クモノナリトナシ各種ノ方面ヨリ追々公然反対ノ声ヲ揚グ可キ模様ニテ此等モ亦渺カラズ勢力有ルニ見テ會議ノ前途ハ益々暗澹タルモノノ如シ北京広東ヘ電報シ南京ヘ暗号ノ儘郵報セリ

了シタキ考ヘナリトノ趣ナリ
右英仏伊各大使ヘ電報アリタシ

五三 四月十日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平ノ条件及其実現ニ付テハ唐紹儀
朱啓鈴間ニ默契アル旨ノ情報報告ノ件

第五三六号

大理院長姚震某邦人ニ託シ其ノ出処ヲ明カスコトナキ約束ニテ極秘トシテ当館ノ参考ノ為内報シ来レル処ニ依レバ上海會議ニ於テハ唐紹儀朱啓鈴間ニ已ニ充分意思疏通シ究極ノ妥協条件ニ於テモ確實ニ默契ヲ遂ケ且其ノ間ノ消息ハ已ニ徐總統ニモ通シ居ルノミナラズ外間ニ在リテハ専ラ英国公使之ニ参加シツツアリト信スヘキ理由アリ今後上海會議表面ノ推移カ如何ニ發展セラレ又上記既定条件カ如何ナル場合ニ如何ナル状態ニ依リ実現セラルヘキヤハ計リ難キモ結局上海會議ハ右筋書通りニ運行セシムルモノト予測スルノ外ナク而シテ愈其ノ期ニ至リ南北ノ一部ニ反対ノ声揚ガリ再ヒ難関ニ遭遇スル場合ニ英国公使出テテ斡旋ノ勞ヲ取

五二 四月十日 内田外務大臣ヨリ
在米國石井大使宛(電報)

中国南北和平會議再開ニ関シ通報ノ件

第二七六号

支那南北和平會議ハ陝西停戰問題行悩ミノ為メ先般来休会中ナリシ処最近ニ至リ長江督軍等カ本問題ノ為メ妥協ヲ渋滞セシムルコトハ國家ノ為メ極メテ不利ナルニヨリ陝西停戰ノ儀ハ自分等ニ於テ之ヲ実行セシムヘク努力スヘキニヨリ會議ハ速ニ再開シ和平解決ヲ期セラレタシトノ旨南北代表ニ勧告シ此レト同時ニ民間ノ有志団体ヨリモ同様ノ希望ヲ申出テ輿論ハ寧ロ南方派ニ不利ナルノ情況ヲ示セルヲ以テ唐紹儀ハ局面展開ノ見地ヨリシテ停戰ノ事実稍ヤ明カトナリタルヲ機トシ愈會議再開ニ決シタルコト往電第二六九号ノ如クナル処右ニ就キ四月八日有吉來電ニ処レハ正式會議ハ今後午前午後ニ亘リテ開会シ先ツ陝西、参戰軍、参戰借款及八年公債ノ四問題ヲ討議シタル後他ノ諸問題ヲ全部一時ニ提出スルコトニ四月七日ノ南北委員談話会ニテ議決セル由ニテ尚南方側ノ意向ハ全問題ヲ二週間位ノ間ニ議

リ玆ニ列強干渉ノ端緒ヲ求メ結局徐總統又之ヲ已ムヲ得ストスルノ姿ヲ以テ一先ツ時局ヲ收拾セントスル段取ナルヤノ趣ニテ果シテ右筋書通り順調ニ進行ス可キヤ否ヤハ明瞭ナラサルモ兎ニ角右ノ如キ情報内密ニ伝ヘラレツツアルノ事実ハ日本側ニ於テモ篤ト考量ノ価値アリト思考セラルトノ事ナリ

右報道ノ実否ニ就テハ尚篤ト精探ノ必要アリ追テ更ニ具報ニ及フ場合アルベキモ以上聞込ミタル所不取敢電報ス上海広東及南京ヘ電報セリ

五四 四月十日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議ノ審議状況ニ関シ報告ノ件

第一六四号

(四月十一日接受)

和平會議ノ状況ハ絶対秘密ニ附シ居ルト各代表カ終日會議ニ列席シ居ル等ノ関係ヨリ外部ニ漏ルル所甚ダ少ク其発表スル公報モ甚ダ簡單ニシテ要領ヲ得ザル処九日ノ會議ニ関シ彭允彝ノ主幹スル国民通信社ノ報道ハ其真相ヲ得タリト認ムルヲ以テ御参考迄要領電報ス

九日ノ會議ニ唐紹儀ノ提出セル議題ハ(一)軍事密約ノ取消(二)国防軍機関及附属兵ノ裁撤(三)參戰借款ヲ使用セズ(四)和平會議終了前双方外資ヲ借入レ又ハ公債ヲ發行スルヲ得ズ(五)陝西問題(六)湖南問題、此外新提出ノ議題十三件其内猶協議ヲ經ザル項目多ク朱啓鈴ノ提出セルモノハ(一)軍事問題(二)存置軍隊ノ編成問題(三)額外軍隊ノ收束問題ニシテ右ヲ分チテ(イ)裁減ノ標準ト其方法(ロ)按排方法(ハ)裁減ノ時期(ニ)裁減ノ費用ノ四項トシ(内)軍事獨立問題トス、(一)政治問題(二)軍民分治(三)地方制度ノ確定、之ヲ分チ(イ)省ノ改革(ロ)道ノ改革(ハ)中央及各省ノ冗員ヲ淘汰シ地方自治官吏ヲ増設ス(ニ)全国ノ教育ヲ擴張ス(ホ)全国ノ警察ヲ遂行スノ五項トシ(内)地方自治、之ヲ分チテ(イ)県ノ自治(ロ)省ノ自治(ハ)自治進行ノ事務弁法ノ三項トシ(内)國民經濟ノ發展、之ヲ分チテ(イ)国道ノ構築(ロ)幣制改革(ハ)惡税ノ革除(ニ)条約及習慣上ノ束縛ノ革除ノ四項トシ(内)善後借款問題、之ヲ分チテ(イ)借款額數(ロ)借款用途ノ二ト為ス

右双方議題提出各協同審議ノ末右ヲ一併シテ六大項トシ即チ

第一、国会第二、財政第三、軍事第四、政治第五、善後第

六、承前ノ統議案トナシ九日ハ軍事問題ニ付討論シ督軍廢止、裁兵問題ヲモ詳細討究シ十日モ猶引続キ同問題ヲ討議スル筈ニテ双方ノ意見能ク一致セリト言フ
北京ヘ電報セリ

五五 四月十二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議ニ関シ會議ノ決定条項実行ノ段
ニ至リ一大波瀾起ル虞アリトノ孫潤宇ノ青木
中將ニ対スル談話報告ノ件

第五五四号 (四月十三日接受)

青木中將カ四月十日孫潤宇ヨリ伝聞セリトテ本使ヘ内報スル所ハ往電第五三六号ノ報道ヲ確認スルノミナラズ頗ル參考トナルヘキ節アルニ付概要左ニ電報ス

上海會議再開以來南北兩代表者ハ余リ外間ノ思惑等ニ頓著ナク兎モ角輿論ノ是認スベシト思考セラルル公平妥当ノ條件ニテ會議ノ結末ヲツクルヲ当面ノ急務トスルニ一致セルモノノ如ク從テ會議ハ今後着々進行ノ模様ニシテ早晚決定条項ノ發表ヲ見ルニ至ルヘキモ唯其ノ条件実行ノ一段ニ至

リ南北双方トモ極端派アリテ其ノ条件ニ不滿ヲ抱キ再ヒ紛争葛藤ヲ惹起シ折角ノ決定ヲ水泡ニ歸セシムルノ虞ナキニアラス差当リ此点ハ最モ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ現ニ今日ニ於テスラ南方側中陸榮廷唐繼堯、岑春煊等カ會議ノ早ク終了センコトヲ希望シ居ルニ拘ラス広東国会派ノ極端派即チ孫文、孫洪伊ノ徒党ハ猛烈ニ會議ノ進行ヲ妨ケ二三決死ノ壯士ハ常ニ唐紹儀ノ身辺ニ附纏ヒ唐ヲ威嚇シテ其ノ妥協的態度ヲ翻サシメントシツツアリ唐モ之ニハホト困シ果テ居ル模様ナルニ付愈決定条項發表セラルルニ至ラバ右等南方派ノ不平連ハ如何ナル態度ニ出ヅルモ計リ難キノミナラズ北方側ニ於テモ又同様危險ノ状無キニアラズ段祺瑞其ノ人ハ理ヲ以テ説カハ元ヨリ強ヒテ強硬ナル反對ニ出デ間敷キモ兎角段ノ意思ヲ左右スルニ有力ナル徐樹錚ハ果シテ如何ナル策ヲ回ラスヘキカ現在ノ參戰軍ハ斯カル場合ニ惡用セサルヘキコトヲ日本政府ニ誓約シアルカ故ニ靳雲鵬ノ為人ニ鑑ミ然迄憂フルニ足ラサルモ徐樹錚ハ參戰軍其ノモノヨリモ有力ナル西北国防軍ト称スル自己ノ私兵同様ノ軍隊ヲ擁スルカ故ニ上海會議ノ決定条項如何ニ依リテハ如何ナルコトヲ為デカスヤモ計リ難ク、斯クノ如ク南北トモ極

端ナル危險分子アルガ故ニ上海會議ニ於テ何等カ平和条件ノ決定ヲ見ルニ至リテモ実行上ノ段ニ至リテハ随分困難アルヘク場合ニ依リ再ヒ一大波瀾起ル場合ヲ保シ難ク我等ハ實ニ此場合ニ処シ如何措置スヘキカ目下頻リニ苦慮シ居レリ云々

以上ハ孫所言ノ大要ナル処青木中將カ得タル印象ニ依レハ孫ハ此ノ場合ニハ外国ノ勢力ニ拠リ時局ヲ收拾スル外途アラストスルカ如シトノコトナリ
之ヲ要スルニ上海會議ノ終局カ果シテ孫等ノ言フカ如キ波瀾ヲ生スヘキヤ否ヤハ今俄ニ斷(脱)ニ至ラストモ限ラサルヘキニ付帝國政府ニ於テ予メ之ニ処スルノ措置御考究相成ルモ無用ニアラスト信ズ

上海、広東ヘ電報ス

五六 四月十五日 在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議行詰リノ場合中国八日英米等ノ
調停ヲ希望シ居ル旨ノ情報報告ノ件

第一七三号 (四月十六日接受)

本月十三日李宗黃テイジンケツ等ノ林出ニ語ル所ヲ綜合スルニ和平會議ニ於テハ双方ヨリ各種ノ問題ヲ提出シ夫レ々々審査員ニ交付シツツアルモノニシテ未ダ討議スルニ至ラズ弥々討議スル場合ニ至ラバ国会問題ノ如キ難問題ニ関シテハ多少ノ波瀾ヲ免カレザル可ク南方側代表者間ニ於テハ略々意見ノ一致ヲ見居ル次第ナレバ北方ノ出方一ツニテ容易ニ決定ヲ見ル可ク若シ双方意見一致セズ決定不可能ノ場合ニハ第三者ノ判定ヲ俟ツ外ナク然シテ第三者トハ無論外國ノ力ヲ指スモノニシテ斯カル場合ニ日、英、米等協力シテ調停セラルルニ於テハ之レ最モ支那ノ歡迎スル所ナリト雖若シ仮リニ日本ガ所謂内政不干渉主義ヲ希望シテ傍觀的態度ヲ執ラルルニ於テモ支那ハ英米ノミノ調停ヲモ希望シツツアルモノニシテ一意和平統一ヲ切望シテ已マザル支那ハ此際日本ノ所謂不干渉ニ對シ之ヲ德トセザルノミナラズ却テ英米ノ調停ヲ感謝スヘシトテ前途ヲ樂觀シツツアルモノノ如シ

五七 四月十六日 在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

五八 四月十八日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

上海和平會議ノ狀況及會議終了ノ際裁兵其他
ノ善後費ノ為外國借款ノ要アルベキ旨ノ錢總
理ノ談話報告ノ件

第五七六号

(四月十九日接受)

四月十七日宴会ノ節本使ハ錢總理ニ對シ上海平和會議ノ狀況ヲ尋ネタル処同總理ハ目下該會議ニ於テハ政治財政軍事善後法律ノ五項ニ関シ討論議決スヘキ筈ニテ右ノ内法律案ヲ除ク他ノ四項ハ已ニ南北双方ヨリ提案シ略々審査ヲ了シタルニ付其内正式ニ双方代表間ニ於テ議決セラルベキモ法律ニ関スル一項中ニハ国会問題ヲ主トシ新旧国会議員中ニハ夫々極端ナル主張ヲ固持スル者アリ又各党将来ノ立場等ヲ顧慮シ南北共ニ一致シ難キ主張ヲ為スモノアリ是ガ議定ノ為甚ダ困難ナル事情アルモ是ガ為會議ヲ破裂セシメンカ南北共ニ財政欠乏ノ今日双方共ニ收拾ノ見込無キハ明瞭ナルニ付結局該會議ニ於テ南北統一ヲ速ニ現出セシムルノ外ナク北方軍閥ガ現會議ノ提案ニ反對運動ヲ開始ストノ說アルモ斯ノ如キ運動ハ中央政府ニ於テ責任ヲ以テ阻止シ得ベ

南北和平會議ニ於ケル各案審査ノ狀況ニ関シ
國民通信社ノ所報報告ノ件

第一七五号

十五日ノ平和會議ニ関シ國民通信社ノ所報大略左ノ如シ
午前審査会左ノ如シ
午前審査会ヲ開キ軍事政治法律及善後ノ各案ヲ審査セリ會議ノ内容ハ発表シ難キモ軍事案ノミハ其審査ヲ終了セル事ハ確実ナリ尚會議統開以來形勢極メテ順調ナルモ此間ノ消息ニ精通セルモノノ言ニ依レバ和平會議ノ危機ハ寧ろ順調ノ間ニ伏在スヘシト而シテ今回ハ全議案ヲ一時ニ提出シ全部ヲ一時ニ宣布スル事トナシ居ル結果若シ一案ニテモ双方意見ノ一致シ難キモノアラバ全案成立不可能トナリ會議ハ停止又ハ破裂ノ外ナカルヘク近來代表團ニ於テハ一氣呵成ニ會議ヲ進メ軍事政治各案ハ双方ノ意見甚タ接近セルモ法律案ニ至リテハ外部ニ於ケル国会議員等ノ運動猛烈ナル為解決困難ノ模様ナリ云々
北京広東ニ電報セリ

キ考ナル旨ヲ述ベタルニ付本使ハ日本政府ニ於テモ該會議ノ終了シ一日モ速ニ南北統一ノ實現ヲ切望セル次第ナルガ該會議議定ノ上ハ裁兵其他ノ善後費ニ供スル為支那政府ハ四國銀行團ニ借款ヲ申込マル可シトノコトナルガ(本件借款申込ノコトハ四月十五日曹汝霖ヨリ本使ニ内話アリタリ)右借款額等ハ何等決定セル所アリヤト問ヒタルニ同總理ハ善後借款額及方法等ハ未ダ具体的ニ決定シ居ル次第ニ無之キモ世上ニハ右ノ如キ借款意見ヲ有スルモノアリ又實際上海平和會議各案全部ヲ決スルニハ尚多少ノ日ヲ要スルニ付或ハ議定済ノ案ヲ基礎トシ先ヅ善後借款ヲ申込ムニ至ルヤモ計リ難ク差当リ裁兵費丈ノ概算額ハ一億二三千万元ナルモ単ニ裁兵丈ナシタリト彼等ノ生活方法ヲ講ゼザルニ於テハ土匪其他ノ不良民ニ化スルノ虞アルニ付之カ方法トシテハ国道及運河ノ修築開墾並工場設立等ノ具体的案ヲ計画シ之等ニ要スル資本等ヲモ考量ニ入レテ借款額ヲ決定スルノ要アリト答ヘ日本ニ於テモ上海平和會議ノ速成並善後借款問題ニ對シ今後トモ充分好意の援助ヲ願ヒタキ旨申述ベタリ

上海、広東、南京へ電報セリ

五九 四月十八日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

中国南北和平會議遠カラズ終了ノ見込ナル旨

徐大總統ノ青木中将ニ対スル談話報告ノ件

(四月二十二日写外務省接受)

坂極秘電三六号

本日青木中将カ高田大佐ヲ伴ヒ徐總統ニ会见ノ際ノ談話ノ要領左ノ如シ

上海會議順調ニ進行シ遠カラス終了スヘキ見込ナリ参戰軍ニ対シテハ日本トノ關係上南方側モ強ヒテ反对セザルコトトナレリ又此際北方督軍等ノ暴動ヲ恐ルルモノアルモ数日前南方ノ重ナル軍人等連盟シテ今後軍人ハ其本分ヲ守ルノ外一切政治ニ關係セサルヘントノ通電ヲ各方面ニ發シタルニ対シ北方軍人モ全然之ニ賛成シアレハ敢テ憂フルニ足ラス只国会問題ニ就キ北京ノ安福派?盛ニ新国会解散ニ反对シアルモ軍人ノ態度此ノ如クナル以上是亦適當ニ解決サルルニ至ルヘシ云々

六〇 四月二十二日 内田外務大臣ヨリ
在仏国松井大使宛(電報)

中国南北和平會議其後ノ情況ニ関シ通報ノ件

講第二七三号

上海和平會議其後ノ情況ハ南北委員ヨリ提出セル政治財政軍事法律善後ノ諸問題ヲ一先ツ双方ヨリ選出セル委員ノ審査ニ附シ次テ正式會議ヲ続行シツツアル処右ニ就キ小幡公使及有吉総領事ヨリノ電報中参考トナルヘキ事項左ノ通り小幡來電(四月十三日)

青木中将カ四月十日孫潤宇ヨリ聞ク所ニ拠レハ上海會議再開以來南北兩代表者ハ外間ノ思惑ニ頓着ナク兎モ角輿論ノ是認スヘント思考セラルル公平妥当ノ条件ニテ會議ノ結末ヲツクルヲ急務トスルニ一致セルモノノ如ク從ツテ會議ハ今後着々進行ノ模様ニシテ早晚決定条項ノ發表ヲ見ルニ至ルヘキモ唯之カ実行ニ至リテハ南北双方極端派アリテ其ノ条件ニ不満ヲ抱キ再ヒ葛藤ヲ惹起シ折角ノ決定ヲ水泡ニ帰セシムルノ虞ナキニアラス差当リ此点ハ最も憂慮ニ堪ヘサル所ナリ現ニ今日ニ於テスラ南方側中陸榮廷唐繼堯岑春煊等カ會議ノ早く終了センコトヲ希望シ居ルニ拘ラス広東国

会派ノ極端派即チ孫文、孫洪伊ノ徒ハ猛烈ニ會議ノ進行ヲ妨ケ二三決死ノ壯士ハ常ニ唐紹儀ノ身邊ニ附纏ヒ唐ヲ威嚇シテ其ノ妥協的態度ヲ翻サシメントシツツアリ唐モ之ニハ困シ果テ居ル模様ナルニ付愈々決定条項發表セラルルニ至ラハ此等南方ノ不平連ハ如何ナル態度ニ出ヅルモ計リ難キト共ニ北方側ニ於テモ又同様ノ危険無キニアラス段祺瑞其ノ人ハ元ヨリ強ヒテ強硬ナル反对ニ出テ間敷キモ段ノ意思ヲ左右スルニ有力ナル徐樹錚ハ果シテ如何ナル策ヲ回ラスヘキカ現在ノ参戰軍丈ハ斯カル場合ニ惡用セサルヘキコトヲ日本政府ニ誓約シアルカ故ニ左迄憂フルニ足ラサルモ徐樹錚ニ至リテハ上海會議ノ決定条項如何ニ依リテハ如何ナルコトヲ為デカサヤモ計リ難シ我等ハ実ニ此場合ニ処シ如何ニ措置スヘキカ苦慮シ居レリ云々

同上(四月十九日)

四月十七日日本使ハ錢総理ニ上海和平會議ノ狀況ヲ尋ネタル処同総理ハ目下該會議ニ於テハ政治財政軍事善後法律ノ五項ニ関シ討論議決スヘキ筈ニテ右ノ内法律案ヲ除ク他ノ四項ハ已ニ南北双方ヨリ提案シ略々審査ヲ了シタルニ付其内正式ニ双方代表間ニ議決セラルヘキモ法律ニ関スル一項中

ニハ国会問題ヲ主トシ新旧国會議員中ニハ夫々極端ナル主張ヲ固持シ南北共ニ一致シ難キ主張ヲ為スモノアリ是カ議定ノ為甚タ困難ナル事情アルモ是カ為會議ヲ破裂セシメンカ南北共ニ財政欠乏ノ今日收拾ノ見込無キハ明瞭ナルニ付結局該會議ニ於テ南北統一ヲ速ニ現出セシムルノ外無ク北方軍閥カ會議ノ提案ニ反对運動ヲ開始ストノ説アルモ斯ノ如キハ中央政府ニ於テ充分阻止シ得ヘキ考ナル旨ヲ述ヘタルニヨリ日本使ハ該會議議定ノ上ハ裁兵其他ノ善後費ニ供スル為支那政府ハ四国銀行團ニ借款ヲ申込マル可シトノコトナルカ右借款額等ハ決定セリヤト問ヒタルニ同総理ハ借款額及方法等ハ未タ具体的ニ決定シ居ラサルモ世上ニハ右ノ如キ借款意見ヲ有スルモノアリ又實際上海會議ノ各案全部ヲ決スルニハ尚多少ノ時日ヲ要スルニ付或ハ議定済ノ案ヲ基礎トシ先ツ善後借款ヲ申込ムニ至ルヤモ計リ難ク差当リ裁兵費丈ノ概算額ハ一億二千万元ナルモ単ニ裁兵丈ナシタリトテ彼等ノ生活方法ヲ講セサルニ於テハ土匪其他ノ不良民ニ化スルノ虞アルニ付之カ方法トシテハ国道及運河ノ修築、開墾並工場設立等ノ具体的案ヲ計画シ之等ニ要スル資本等ヲモ考量ニ入レテ其額ヲ決定スルノ要アリト答ヘ日

本ニ於テモ平和會議ノ速成並本件借款問題ニ対シ今後トモ充分好意的援助ヲ願ヒタキ旨申述ヘタリ

有吉来電（四月十五日）

本月十三日李宗黄等ノ語ル所ヲ綜合スルニ和平會議ニ於テハ双方ヨリ各種ノ問題ヲ提出シ夫レ々々審査員ニ交付シツアルモ未タ討議スルニ至ラス弥々討議スル場合ニ至ラハ国会問題ノ如キ難問題ニ関シテハ多少ノ波瀾ヲ免レサル可ク南方側代表者間ニ於テハ略々意見ノ一致ヲ見居ル次第ナレハ北方ノ出方一ツニテ容易ニ決定ヲ見ル可ク若シ双方意見一致セス決定不可能ノ場合ニハ第三者ノ判定ヲ俟ツ外ナク然シテ第三者トハ無論外国ノ力ヲ指スモノニシテ斯カル場合ニ日、英、米等協力シテ調停セラルルニ於テハ之レ最モ支那ノ歡迎スル所ナリト雖若シ仮リニ日本カ所謂内政不干渉主義ヲ希望シテ傍觀的態度ヲ執ラルルニ於テモ支那ハ英米ノミノ調停ヲモ希望シツアルモノニシテ一意和平統一ヲ切望シテ已マザル支那ハ此際日本ノ所謂不干渉ニ対シテ前テセサルノミナラス却テ英米ノ調停ヲ感謝スヘシトテ前途ヲ樂觀シツツアルモノノ如シ

同上（四月十七日）

タ困難ナラン日本カ更ニ一層覺醒シ宜シク其ノ助クベキヲ助ケテ将来ノ大策ヲ立テンコトヲ切望スト言ヒ暗ニ自己ノ尚大ニ用フヘキヲ諷示シ居タリ同人談話中ノ和平會議カ諸外国ノ援助乃至干涉ヲ期待シ居レルコトハ南方諸要人ノ口吻乃至唐紹儀從來ノ行動ニ見テ南方側トシテハ毫モ怪ムニ足ラサルノミナラス北方側モ亦同一ノ態度ニ在ルモノト認メラレ元來朱啓鈴唐紹儀間ハ当初ヨリ默契ノ存スルモノアリト察セラレ大ニ注意ニ値スト認メラル

英米伊各大使ヘ転電アリタシ

六一 四月二十二日 在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国会問題ニ関スル南方軍政府ノ意向ニ付衆議
院議長吳景濂ノ談話報告ノ件

第七八号

（四月二十三日接受）

四月二十二日吳景濂カ米内山ニ語リタル所ニ拠レバ上海方面ニ於テ旧国会ヲ犠牲ニセントスル傾向アル趣在上海国会議員等ヨリ国会ニ宛テ報告アリタル趣ヲ以テ当地国会ニテハ四月十九日兩院連合談話会ヲ開キ国会問題ニ関シテハ飽

四月十七日孫文ニ面談彼ハ巴里ニ於ケル支那委員ノ行動ヲ評シテ其先見ノ当レルヲ説キ日本カ從來信賴シ得ヘカラサル旧分子ヲ頼ミ是ヲ援助シテ新シキ運動ヲ援助セス若ハ是カ氣勢ヲ挫キタル結果ハ即チ今日ノ現状ヲ呈セルモノニ外ナラスト言ヒ東亜ノ大計ヨリ徹底的ニ日支ノ提携ヲ必要ト信スル自分自身ニ援助ヲ与ヘラレサリシコトノ結局支那ヲシテ今ノ如ク日本ニ反対セシムルニ至リタル因タリト断シ和平會議ニ付テハ彼ハ目下是等ノ問題ニハ關係セスト前置シテ多分成功スヘシト言ヒ而モ其成功ハ全然日本ヲ不利ノ地位ニ置クニ至ルヘク何トナレハ同會議ハ結局諸強國ノ援助若ハ干涉ヲ俟ツテ時局ヲ解決セントシ其方針ニ進ミツツアルニ於テ日本ハ遂ニ他ノ四強國ニ制セラレ其優越ノ地位ヲ失フニ至ルヘク特ニ支那人ノ常性タル事大思想ハ四強國ヲ重シトナシ日本一國ヲ輕視スルニ至ルハ明白ナル所ナレハナリト言ヒ蓋シ事ノ玆ニ至レル日本カ他ノ強國ヲ誘ヒ勸告ヲ試ミタルニ起因スト言ヒ得ヘク即チ會議ハ副産物タルニ於テ是カ終局モ亦諸強國ノ手ニ為サルルモ止ムヲ得サル結果ト見得ヘシ而モ斯クノ如キハ支那ノ将来ノ為ノミナラス日本ハ勿論東亜ノ大局上甚タ悲ムヘク今ニ至リテハ事甚

クマデ当初ノ主張タル国会職權自由行使ノ条項ヲ固執スベキコトヲ議決シ此旨同日軍政府ニ宛テ通牒シタルガ同時ニ本月十七日附ヲ以テ唐紹儀ヨリモ国会問題處理ニ対スル南方ノ態度ニ関シ軍政府ニ諮詢シ来リタルヲ以テ軍政府ニテハ四月二十一日岑、伍兩総裁出席政務會議ヲ開キ林森吳景濂等兩院議長ヲモ招致シ国会問題ヲ議シタルニ（一）飽クマデ当初ノ主張ヲ貫徹セシムベシトスル説ト（二）余リ強硬ニ主張シテ和平會議ヲ頓挫セシムルヲ不利トスル説ト二派相争ヒタルモ結局南方挙兵ノ意義ヲ失ハシメサル為メ飽クマデ護法ノ趣旨ニ從ヒ固持スベキコトトシ即日政務會議ノ名ヲ以テ唐紹儀ニ宛テ大要国会問題ハ護法ノ趣旨ニ關係スルヲ以テ曩ニ決定セル所ノ議和大綱ニ依リ堅ク主持シ以テ法ヲ繫ガレタシ云々ト電報シタル由ナルガ尚吳ガ自己ノ意見トシテ米内山ニ内話セル所ニ拠レバ国会ノ職權自由行使ハ絶対ノ条件ニシテ譲歩ノ余地無シ禍首懲弁參戰軍取消等ノ問題ハ事實問題トシテ多少協議ノ余地アルベシ国会再開ニ関シテ北京說南京說等アルモ余ハ若シ已ムヲ得ズバ上海トスベキモ北京南京等北方ノ勢力ノ及ブ処ハ絶対ニ反対ス国会職權ノ自由行使恢復ト共ニ北京新国会ヲ解散セシメ旧国会ハ

——(不明)会ヲ開キ其四箇月ノ期間内ニ憲法制定、總統選舉、選舉法改定、県自治制ノ制定ノ四問題ヲ決定シ度キ考ヘナリ云々ト

北京上海へ電報セリ

六二 四月二十三日

在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議ノ難関タル国会問題ニ関ス

ル唐紹儀談話報告ノ件

第一九二号

(四月二十四日接受)

四月二十二日唐紹儀ニ面談、彼曰ク「国会問題ハ依然會議ノ難関タルヲ以テ之ヲ最終ニ討議スルコトトシ目下他ノ諸問題ヲ議シ居レル処愈々約一週間後ニ同問題ヲ議セザルコトヲ得ザルコトト成ルベク若シ自分ト朱啓鈴トノミノ間ニ決定シ得ルニ於テハ十分ナラザル短時間ニ於テ議了シ得ベキモ朱ガ北京ノ指揮ヲ待タザルヲ得ザルニ依リ解決ハ甚ダ困難ナルベシ」トシ朱トノ間ニハ從來公トナク意見ノ交換ヲ行ヒ居リ其間相当ノ了解有ルヤノ口吻ヲ漏ラシ而シテ彼自身ノ主張トシテハ曰ク自分ハ国会ハ必ズ改造セラレザル

可カラズト信ジ居リ八百ノ議員ノ如キ余リ多数ニシテ将来再ビ種々ノ困難ヲ政情ニ齎シ来ルノ虞有ルヲ以テ必ズシモ現状ニ執著スルモノナラザルモ護法ノ精神ニ照ラシ法ニ基ケル解決方法トシテハ千九百十七年解散當時ノ国会ヲ再召集シ同時ニ北京、広東両^{マウ}新旧国会ヲ同時ニ解散スルコトノ外他ニ条理ニ適セル案ヲ見出シ能ハズ本案ニ對シテハ自分ニ於テ責任ヲ負ウテ広東国会ヲシテ不平ナカラムベク尚孫文トモ打合セタル処彼ハ全然同意スル迄ニハ至ラザルモ条理上咎ムベキ所ナク他ニ一層ノ良案有ラザル限不満足乍ラ右ニ依ル外無カルベキ旨申居レリトシ孫洪伊一派ニ至リテハ固ヨリ右ニ不同意ナルハ勿論ナルモ徒ニ門ヲ鎖シ独リ自ラ高シトシ空理空論ヲ唱フル輩ノ如キハ毫モ顧慮スルニ足ラズト断ジ所謂解散當時ノ国会議員ニシテ現ニ広東国会ニ在ル者ノ外北京ノ新国会議員タルモノ約百名広東ニ赴カザルモノ約二百名有リ此等ヲ共ニ召集シテ徐世昌ノ大統領ヲ承認セシメテ短期間ニ解散セシムルニ於テ時局ハ満足ナル解決ヲ見ル可ク而シテ右国会ニ於ケル徐ノ承認ハ自分ニ於テ確信シテ疑ハザル所ナルモ当人タル徐ニ於テハ最モ此点ニ危惧ヲ懷キ到底右ヲ承諾シ能ハザルベキ現状ニ在リ

蓋シ解散當時ノ国会ニ於テハ參議院ハ国民党多数ヲ占メ衆議院ハ国民、進歩兩党何レモ多数ニ至ラズ第三ノ各派小党ノ金力權勢ニ支配セラレテ大勢ヲ制スル姿タリシヲ以テ再召集ノ場合モ時トシテハ馮國璋大統領ニ選舉シ来ル場合有ルヤノ懸念ヲ有スルモ若干無理ナラズトセズ然モ斯ル万一ノ場合ヲ憂慮シ自己ノ地位ノ安全ヲノミ計ルニ於テハ到底和平ハ望ミ得ベカラズ若シ徐ニシテ遂ニ右ニ同意セザルニ於テハ會議ハ更ニ玆ニ一頓挫ヲ来タシ公ニハ中止ノ外有ラザルベク其際ニハ之ヲ列國ノ厚誼ニ訴フルノ外ナシトセル

ニ付本官ハ南北意見ノ扞格有ル毎ニ之ヲ外交團ニ訴フルノ終ニハ其干涉ヲ誘致スルノ因タルベキ旨及国会問題ノ如キ之ヲ外交團ニ訴フルトスルモ其既ニ承認セル元首ノ所為ニ對シ善惡良否ノ批評ヲ下シ若クハ勸告ヲ試ムルガ如キコトハ到底為シ能ハザル所ナルベキ旨等ヲ指摘セル処彼ハ蓋シ然ランモ列國ガ和平希望ノ勸告ヲ試ミタル關係上国会ヲ一ニセザレバ希望ノ達成セラレザルニ見テ一応其厚誼ニ訴フルハ適當ノ処置ト見ルベク實ハ徐世昌ニ對シ自分ヨリ彼ノ地位ガ必ズ承認セラルベキ旨保障ヲ与フルニ於テハ彼モ若干安心ノ上或ハ本案ニ同意スベシト考フルモ斯クノ如キハ

自分ノ地位トシテ到底為シ能ハザル所ナルヲ遺憾トスル旨ヲ述べ右ニ関シ列國使臣ヨリ公トナク私人的勸告ニ依リテ徐ヲ説得スルニ至ランコトヲ期待シ居ルヤノ口吻ヲ漏ラシ居タリ

北京、広東へ電報シ、南京へ郵送セリ

六三

四月二十四日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議ニ於ケル国会問題ニ對スル

南北兩派ノ動向ニ関シ報告ノ件

第六〇三号

(四月二十五日接受)

上海會議ハ国会問題ニテ又又行悩ノ模様ナル処元来西南側ハ飽迄旧国会ノ回復ヲ主張スルモノニテ先日唐紹儀カ幾分譲歩ノ説伝ヘラルルヤ広東ノ国会ハ激烈ナル反對決議ヲ為シ唐モ亦譲歩説ノ虚報ヲ声明電報スルニ至リタル次第ニシテ爾来西南側重要人物、省議會等ハ陸統旧国会回復ノ主張ヲ声明電報シテ其ノ態度ヲ明カニシ居ル一方唐、朱結託政權ヲ分奪ノ默契成リタリトノ風説サヘ伝ハルアリ北方側ノ本件ニ関スル態度ハ最初安福系カ錢内閣ヲ擁護シタルノ行

懸上安福系ノ態度ハ或程度迄錢内閣ヲ左右威圧スルノ傾アリ安福系ハ飽迄新国会ヲ支持シ新總統ノ位置ヲ動搖セシメサルヘシトハ其ノ唯一ノ主張ナルニ顧ミ西南側叙上ノ態度ニ対シ四月十日両議院議員會議ヲ開キ重ネテ前宣言ヲ固持シ且南方側ニ偏倚スル国会問題解決策ハ絶対ニ承認セサルヘシトノ議決ヲ為シ即日李盛鐸王揖唐ハ錢總理ヘ訪問シテ其ノ決意ヲ告ケ十八日ノ衆議院秘密會ニ於テ安福系議員ヨリ行政委員ノ性質ナル上海ノ南北代表ハ立法部分ノ新国会ヲ処分スルノ權能無シトノ主張ヲ為シ当日出席ノ錢總理亦飽迄新国会ヲ支持スヘキ旨ヲ声明シタル由ナルカ其後旧国会議員タル韓玉辰郭人璋等陸續入京安福系ト種々意見交換ヲ為シ折衝ニ努メタル末双方ノ主張或ハ幾分ノ融和ヲ認ムルニ至リタルヤノ感アリ新国会議員側ト雖モ決シテ飽迄其ノ新国会ヲ固執スルモノニアラサルタケハ確ニテ何等カノ形式ニ於テ解決ヲ期セントスルモノノ如シ現ニ衆議院秘書長王印川ハ二十一日其ノ機關紙上ニ於テ民國六年七月一日張勳ノ復辟ニ依リ共和國ハ一旦墜倒セラレタルモノナレハ其ノ以前ノ旧約法ニ拘泥スルノ要ナシトノ前提ニテ国会問題解決法トシテ

復ヲ主張セサル限何等カノ融和解決点発見セラルヘシト推測セラル、上海電唐紹儀最近ノ鼻息ニ徴セハ或ハ又又国会問題ニテ一頓挫ヲ來ササルヤニモ懸念セラル上海広東ヘ電報シ南京ヘ暗号ノ儘郵送セリ

六四 四月二十六日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議事實上停止ト異ナラザル旨
ノ国民通信社所報報告ノ件

第一九九号 (四月二十七日接受)

二十五日和平會議ニ関シ国民通信社所報大略次ノ如シ
定刻審査會ヲ開キ財政政治各案ヲ審査セリ連日ノ會議ニ於テ法律ニ関シ国会職權自由行使問題湖南督軍張敬堯免職問題等ノ如キ事實上ノ重大案件アリ此等ハ時々提議セラルルコトアルモ會議自ラ之ヲ解決スルノ力ナキ為遂ニ其儘据置トナリ會議ハ事實上停止ト異ナラス
北京広東ニ電報セリ

六五 四月三十日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

第一、新旧国会議員ヲ合セ国民會議ヲ組織シ或ハ双方同数ノ国民憲法委員會ヲ組織シテ憲法制定ノ上憲法ニ依リ新タニ国会ヲ召集スルカ
第二、若クハ新旧両国会共ニ其ノ国法上ノ地位ヲ犠牲ニシ別ニ国民會議組織及選舉法ニ依リ国民會議ヲ組織シ憲法制定ノ上憲法ニ依リ新タニ国会ヲ召集スルカ
第三、或ハ旧国会ヲシテ憲法ヲ制定セシメ新国会ニハ西南五省ヨリ議員ノ補選ヲ為シ憲法制定以外ノ職權ヲ執ラシメ新憲法制定ノ上憲法ニ依リ新タニ国会ヲ召集スルコトスヘシトノ主張ヲ為シ居レリ又北方代表吳鼎昌カ北京ニテ諸方面ト打合ノ末上海ヘ齎シタル消息トシテ伝フル所ニ依レハ(一)憲法未定以前ハ国会問題ニ携ハラサルコト(二)国会ハ憲法制定ニテ自然解決セラルヘキコト(三)憲法制定ハ国会ニ帰セス特殊機關ニ依ルコト(四)新国会ハ不敢依然統行ノコトトストアリ右ハ勿論北方側ノ立場ト面目ヲ保持スル表面ノ主張ナルカ兎モ角近來南方海軍總司令林葆懌カ軍人政治不干渉ヲ通電シタルニ対シ曹錕、倪嗣冲等卒先シテ贊同ノ通電ヲ為ス等所謂北方軍閥モ或程度迄其翼ヲ納ムルノ程度ニ出テツツアルヲ認メ得ヘシトセハ西南側カ極端ニ旧国会回

中国南北和平會議ニ於ケル国会問題ニ関スル
朱啓鈴談話報告ノ件

第二〇九号

四月二十九日朱啓鈴ニ面談彼曰ク国会問題ニ就キテハ双方ノ意嚮ハ明白トナリ居ルモ其後ノ主張余リニ懸隔シ居ル為共ニ提議ヲ敢テセズ最後ニ討議スル事トシ未ダ公然議事ニ上リタル事ナシ其他ノ問題ニ就キテモ双方事前ニ於ケル準備ヲ欠ケル為事實問題ニ就キ各自当局ニ問合ヲ要スル等ノ為意外ニ日子ヲ要シ居レリトシ国会問題ニ就キテハ北方トシテハ初ヨリ問題トハ考ヘ居ラズ唯南方ガ右ヲ問題ト心得居ルニ過ギズ元來北京政府ハ大總統ヲ戴ケル正式ノ政府ニシテ国家ノ中心ナリ若シ此中心ヲ覆スノ虞アル主張ハ毫モ容認シ得ベカラザルヤ当然ニシテ広東ノ旧国会ノ認ムベカラザル如ク民國六年ノ国会ヲ召集スルガ如キモ固ヨリ不可能ナリ從ツテ南方ガ幾分ナリトモ護法ナル文字ニ執著スル間ハ和議ハ到底望ミ得ベカラズ解散當時ノ国会ヲ召集シ憲法ヲ制定セシムル等ノ案唐紹儀ヨリ提出セラレムカ自分ハ三ノ質問ヲ提出スベシ一ハ即チ同時ニ三個ノ国会ヲ見ルベシ何トナレバ政府ハ国会ヲ解散シ能ハズトスル結果今回ノ

事態ヲ惹起セルモノ広東ノ国会北京ノ新国会ハ何人ガ解散スベキヤ二ハ一旦召集セラレタル以上職權自由行使ヲ主張シテ必ズ憲法制定ノミニ満足セザルヤ明白ニシテ結局和平會議ニテ決定セルトコロヲモ総テ廃スルニ至ルベク其際何人ガ之ヲ防止シ得ルヤ三ハ當時ノ國會議員ハ或ハ死亡シ或ハ他ノ事情ニ依リ議員タリ能ハザルモノ尠カラズ現ニ広東ノ国会ト雖モ既往二年尚憲法スラ議シ得ザルニ非ズヤ斯ノ如キ不完全ナルモノヲ召集スル必要何レニ在リヤ之ナリ若シ夫レ和平會議ニシテ此等国会ヲ左右シ得ル權能アラバ国会ヲ俟タズ自ラ憲法ヲ制定スベシ唐等ト雖モ其要求ノ甚ダ國家ニ不利ナルヲ承知シ居ルモ事情ニ制セラレ不止得此種ノ説ヲ唱フルニ過ギズ而モ自分等正式政府ノ代表トシテハ苟モ将来ニ有害ナルベキ主張ハ全然之ヲ容認スルヲ得ズ自分等トシテ容認シ得且最善ノ方法トシテ考フルトコロハ新国会ニ西南五省ヨリ新ニ議員ヲ選出セシメテ憲法ヲ議了セシムル案ニシテ時局解決ノ捷徑此外ニアルベカラズ會議ノ狀況ハ南北ヨリ二人ノ医師ヲ出ダシ病人ヲ診斷シ処方箋ヲ作り居ルニ譬フベク南方ノ医師ノ勸メムトスル処方ノ有害ナルヲ知りナガラ自分等ハ之ニ同意シ能ハザルヤ勿論

六六 五月一日 在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議ハ停頓同様ノ模様ナル旨報
告ノ件

第二一二号
各方面ノ情報ヲ綜合スルニ四月二十九日ノ和平會議ハ北方代表出席者少ク朱啓鈴モ欠席ノ為流會トナリ三十日ハ午前十時ヨリ十二時半迄主トシテ地方問題ヲ議シタリトノ事ニテ二十九日ノ北方代表者多数ノ欠席ニ付種々風説アル処周自齊等ノ北京ニ歸ルヲ見送リシ為ナリトノコト事實ナルカ如シ然レトモ會議ハ停頓同様ノ姿ナル模様ナリ
支、広、へ転電セリ

六七 五月八日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

南北和平問題ハ早晚解決ノ見込アルモ山東問題ニ基因スル騷擾ハ反ッテ厄介ナルベキ旨張
志潭青木中將ニ語リタル件

坂極秘第四三号

ニシテ更ニ病人ノ意見次第ニテハ医師ヲ変更スルモ亦可ナルベク然リトテ現會議モ全然決裂ニ至ルモノトモ言ヒ難ク最後ニ至リテ解決点ヲ発見シ得ル場合モナキニ非ザルベキカ然リナガラ我方ノ案ニ南方側ガ賛成スベキ見込ハ毫モ有シ居ラズト言ヒ先決問題タル国会以外ノ問題ヲ議スルハ將來施政ノ方針ニ資セムトスルモノトナシ從前ニナク意氣極メテ軒昂甚ダ強硬ナル態度ヲ示シ居リ尚軍人政治不干渉ノ通電ニ就キテハ彼ハ全然重キヲ置カズト言ヒ各方面何レモ其左右ノ人士ノ細工ニ過ギズト考フルモ若シ右ガ幾分タリトモ南北軍人握手ノ結果トナリテ事實ニ現ルルニ至レバ却テ國家ノ利益ナルベシトシ居タリ要スルニ彼ト唐紹儀間國會問題ニ関スル主張ノ多大ノ懸隔アルハ吳鼎昌北京ヨリ滬以來今ヤ著シク明白トナリ來レルヲ認ム尚會議ノ内容ハ益々絶対秘密ニ附セラレ國民通信モ其探知セルトコロスラ通信ノ自由ヲ有セズトノ理由ニテ毎日ノ通信ヲ廢スルニ至リ一切外間ニ伝ハラザルモ國會問題ニシテ右ノ狀況ナル限寧ロ枝葉ノ諸問題ニ御茶ヲ濁シ居ルモノト考ヘラル
北京広東へ電報セリ

上海ヨリ歸來セル張志潭ハ八日青木中將ヲ訪ヒ左ノ如ク語
レリ

上海に於ケル南北代表間ノ意見ハ大ニ融和シ唯法律問題ニ就テ隔離シアルモ爾余ノ事件ハ容易ニ解決スヘク裁兵問題ニ関シテハ五十師團ヲ殘シ約百師團ヲ解散スルコトニ一決セリ、斯クテ南北和平ハ早晚解決ノ見込アルモ山東問題ニ基因スル數日來ノ騷擾ハ反ッテ厄介ナルベク其ノ動機ハ旧進歩党ノ林長民、梁啓超等北京内政上ニ其ノ立場ヲ失ヒ特ニ鐵道統一管理問題ニ就キ一般ノ反對ヲ受ケ失敗シタル關係上新タニ立脚ノ機會ヲ得ンカ為メ英米人ニ媚ヒ其ノ力ヲ籍リ學生等ヲ使喚シタル一種ノ喜劇ニ過キサルヘキモ其ノ關係ノ及ホス所甚大ニシテ既ニ曹汝霖ハ辭表ヲ呈出シ錢總理又外交失敗ノ責ヲ負フテ將ニ辭職セントシツツアリ大統領ノ之ニ對スル態度ハ未タ明カナラサルモ時局ハ南北統一問題以外別ニ緊迫セル形勢ニテ依然紛擾ス云々

註 山東問題トハ後出五月十四日在上海有吉總領事發内田外務大臣宛第二三二二号ニ在ル山東問題ノコトト認メラル

六八 五月十二日 在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議ニ於テ略一切ノ案件ヲ議シテ
二日国会問題ニ関スル条件ヲ朱啓鈴ニ提示シ
タル旨ノ唐紹儀談話報告ノ件

第二二七号

(五月十三日接受)

今五月十二日唐紹儀ニ面談彼曰ク和平會議ニ於テハ地方制度問題ヲ除クノ外略々一切ノ案件ヲ議シテ今今朝愈々国会問題ニ関スル条件ヲ提出シ朱啓鈴ニ交付シ其希望ニ依リ篤ト考慮ノタメ明朝迄延期スルコトトセル次第第二シテ其内容ニ就テハ十時開会ノ正式會議前尚非公式ニ相談變更スルコトモアルヘク今茲ニ語ルヲ得サルモ解散當時ノ旧国会ヲ召集スル当初ノ案トハ大ニ相違シアリ明日午後ニ至ラハ内示シ得ヘキニ付林出ヲ遣ハサレタシト言ヒ右ニ対スル北方側ノ態度ニ就テハ朱啓鈴ハ余リ満足セル様子ニ見受ケサリシヲ以テ尚確言スルヲ得スト為シ居リタルモ其語氣若干ノ確信アルモノノ如キヲ認メラレタリ青島問題ニ対スル朱啓鈴トノ連名電報ニ関シテハ当然無条件ニテ日本ニ交付セラハル旨ヲ通シ居リ旁々調印拒絶方ヲ主張セルモノナルガ其後各方面ヘノ電報ニ抛レハ之カ還付ニ付英米仏トノ間ニ若干ノ了解モアル模様ニシテ其間大ニ事情ノ相違ヲ認ムルニ

至レリト弁解シ尚青島及国会問題ニ付最近種々ノ脅迫状ヲ受取り特ニ孫洪伊一派ヨリ激烈ニ攻撃シ居レリト述ヘ居タリ在支公使、在広東総領事ヘ電報シ在南京領事ヘ郵送セリ

在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

六九 五月十三日

南北和平會議南方代表者ハ法律問題ニ関シ北方側ト意見相違ノ為軍政府ニ対シ辞意ヲ電報シタル件

シタル件

第二二八号

(五月十四日接受)

昨日ノ約束ニ基キ本十三日林出ヲ唐紹儀ノ許ニ遣ハシタル処彼曰ク昨日ノ和平會議ニ於テ吾方ヨリ提示セル法律問題ニ関スル主張ハ民国六年黎元洪ノ発セル国会解散命令ノ無効ナルコトヲ和平會議ニ於テ議決センコト之ナリシ処本日北方ヨリハ西南五省ヨリ新タニ議員ヲ選舉シテ新国会ニ補欠センコトヲ主張シ双方ノ距離余リニ懸隔セル為到底商議ノ余地ナキモノト認メ其儘閉会シ自分始メ南方代表総辭職ニ決シ本日午後軍政府ニ対シ已ニ辭表ヲ電報セリ尚朱啓鈴モ自分ニ対シ直チニ辭職ノ意ヲ洩シ居タリ然シ今回ノ辭職

ヲ以テ直ニ和平會議破裂セルモノトハ言ヒ難ク只自分等不才不徳此ノ大任ヲ全ウスルコト不可能ナレバ他ニ大任ニ堪フル人物ヲ挙ゲンコトヲ希望セル迄ナルヲ以テ更ニ新代表任命ノ上ハ會議ヲ根本ヨリ繰返スノ要ナク単ニ法律問題ヲ議スルヲ以テ足レリトスベク事實他ノ問題ハ大概議了セラレタリト言フヲ得可シト述べ尚之ヲ機會ニ大ニ静養ノ覚悟ナリトシ居タル由ナリ

北京広東ヘ電報シ南京ヘ郵送セリ

七〇 五月十四日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議決裂ノ真相ニ関スル北方代表員

鼎昌ノ談話ニ付報告ノ件

別電

同日在上海有吉総領事宛内田外務大臣宛電報
第二三二号

和平會議ニ於テ南方派提出ノ八条件

第二三三号

(五月十五日接受)

五月十四日吳鼎昌カ波多ニ内話スル所ニ依レハ今次和平會議ノ決裂ハ単ニ国会問題ニ関スル主張ノ相違ニ基クモノトシテ公表シ居ルモ実ハ會議席上唐紹儀ハ突然民国日報等ニ

一 中国南北和平會議ニ関スル件 七〇

掲ケ居ルハ八条件(別電二三二)ヲ提出シタルニ対シ朱啓鈴ハ今此重大ナル時期ニ外交問題迄ヲモ討議スルノ益々時局ヲ紛糾セシムヘキヲ繰返シ説示シ国会問題ニ付テハ夙ニ其提出ヲ希望シツツアリタルモノナリト雖モ如斯キ全然交譲ノ精神ニ基カサルモノヲ提示セラルルノ意外ナル旨ヲ繰返シ之カ反省ヲ求メタルモ唐ハ頑トシテ聴カス直チニ辭任ノ決意ヲ表示スルニ至リタルモノニシテ唐カ俄然外交問題等ヲ捉ヘ一括會議ニ提出スルニ至リタルニハ種々ノ魂胆アルヘキモ就中国會問題ノミニテ會議ヲ決裂セシムルニ於テハ國會ニ愛想ヲツカセル南方軍人派ノ同情ヲ得難キ惧アルト一般ノ人氣ニ投シ特ニ英米人等ノ同情ヲ繋キ置カント欲スル事其主ナル動機ト察セラレ而シテ他方朱啓鈴ハ自分等代表ニ語ルニ外交問題等ヲ議ニ上スニ於テハ益々南方ノ為ニ致サルルノ惧アルヲ以テシ極力之ヲ避ケンツツアル実情ナルニ於テ會議ノ決裂又已ムヲ得ス自分等モ滞在三ヶ月遂ニ何等任務ヲ果ス能ハサルヲ理由トシテ既ニ辭表ヲ提出セルモ暫ク滞在形勢觀望ノ筈ナリトシ居タル趣ナリ尚朱啓鈴王克敏等其他南北代表ノ主タルモノハ所在ヲ晦マシ若クハ之ヲ避ケ居ル模様ニテ今兩三日ヲ此儘ニ経過シ然

ル後ニアラサレハ今後ノ始末ニ対スル推断ヲモ下シ難キ形勢ナリ

支、広へ転電シ南京へ郵送セリ

(別電)

五月十四日在上海有吉総領事兼内田外務大臣宛電報第二三二号

上海和平會議ニ於テ南方派提出ノ八条件

第二三二号

昨五月十三日和平會議ニ於テ南方派ノ提出セル八個条ナルモノトシテ一部ノ漢字新聞ニ伝ヘラルルモノ左ノ如シ

一、欧洲和平會議ニ於テ議セル山東問題ノ条件ニ対シテハ決シテ承認セサルコトヲ表示スヘシ

二、中日一切ノ密約ハ無効ナルコトヲ宣布シ同時ニ當時密約ヲ締結セル關係人ヲ嚴罰シ以テ国民ニ謝スヘシ

三、直ニ参戰軍国防軍边防軍ヲ廃スヘシ

四、惡迹顯著ニシテ民情ニ合ハサル督軍省長ハ直ニ撤廢スヘシ

五、和平會議ニ於テ黎前總統ノ六年六月十三日ニ發セル国会解散命令ノ無効ヲ宣布スヘシ

六、政務會議ヲ設ケ和平會議ヨリ全国ノ重望ヲ負ヘルモノ

特ニ第五項国会問題ニ関シ南方ノ提議ヲ討議スルコト不可能ナリトシ若シ右ニシテ修正セラレザル限リハ北方委員ハ他ノ各項ノ討議ヲ拒否スヘシトシ朱ハ对案トシテ西南五省ハ別ニ議員ヲ選出シ(脱)ニ於ケル新議會ニ参加セシムベキヲ提議セリ然ルニ南方委員ハ會議ノ形勢如何トモシ能ハザルニ至ルヲ以テ一同辭職スヘキ旨ヲ宣言セリ
在支公使へ転電セリ

七二

五月十四日 金谷天津軍司令官ヨリ
上原参謀總長宛(電報)

英米ノ援助ヲ頼マズ親日主義ヲ外交方針ノ中

心トナス必要アル旨徐總統ガ説ケリトノ情報

報告ノ件

(五月十六日写外務省接受)

天電第八〇号

國務院側ノ消息ニ依レハ徐總統ハ目下外交上苦境ニ立ツニ至リシハ平和會議ニ於テ親米排日ノ政策ヲ執リシ錯誤ナリシコトヲ諒解シ親米論者ニ対シ「ウィルソン」ヲ過信セシニ基セルノ實際的結果ナリ要ハ米ノ援助ノ如何ニ薄弱ナリ

ヲ推挙シテ之ヲ組織シ議和条件ノ履行ハ其監督ヲ受ケ統一内閣ノ組織ハ其同意ヲ經ルコトトスヘシ

七、其他議定又ハ審査ニ附シ或ハ別ニ提議ヲ為セル各案ハ夫々整理決定スヘシ

八、和平會議ニ於テ徐世昌ノ臨時大總統タルコトヲ承認シ期限ヲ国会ニ於テ正式總統ヲ選舉スル迄トスヘシ

右支那公使及在広東総領事へ電報シ在南京領事へ郵送セリ

七一

五月十四日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議ニ於ケル南方派提出ノ八条件討

議ニ関スル公報報告ノ件

第二三四号

(五月十五日接受)

今十四日ノ公報大要左ノ通

十三日ノ和平會議ニ於テ唐紹儀ハ往電第二三二号所報ノ八ヶ条ヲ提議シ各項ニ付説明ヲ附シ尚右ハ南方側ノ讓歩シ得ル最大限度ナリト附言セル処之ニ対シ朱啓鈴ハ其第一項青島問題ニ関スル件以外ニハ悉ク同意ヲ表シ得ザル旨ヲ述ベ

シカラ証明セリ已ニ米ノ援助ハ信実ヲ伴ハスシテ一方日本ノ惡感情ヲ惹起セシコトハ支那ヲ窮地ニ陥ラシメタリ故ニ東洋ニ於ケル支那ノ立場ヲ確立スルニハ空漠タル英米ノ援助ヲ頼マズ親日ヲ以テ外交方針ノ中心トナス必要アルコトヲ説ケリト

以上ノ言ヲ徐總統カロニセシコト事実ナリトスルモ其真意カ米國ヨリ一層確實ナル援助ヲ受ケン為ノ手段ナルヤ憂フ真実親日的外交方針ノ必要ヲ感知セシモノナルヤハ判断スルヲ得ズ

七三

五月十五日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原参謀總長宛(電報)

南方側提出ノ八条件及巴里平和条約調印ニ関

シ徐總統ノ青木中將ニ対スル談話報告ノ件

(五月十七日写外務省接受)

坂極秘電第四五号

本十五日徐總統ハ青木中將ニ左ノ如ク語レリ

(一) 上海會議ハ南方代表カ苛酷ナル条件八ヶ条

一、巴里會議ニ提出サレタル山東省ニ関スル条件ヲ承認

セサルコト

二、日支密約ノ無効ナルコトヲ和平會議ヨリ宣布シ之ノ密約締結者ヲ処分スルコト

三、参戦軍、辺防軍ヲ凡テ撤廃スルコト

四、成績悪シク民情ニ適ハサル督軍省長ヲ交迭スルコト
五、黎元洪ノ発セル民国六年六月国会解散令ノ無効ナルヲ和平會議ヨリ宣告スルコト

六、和平會議ヨリ全国ノ声望家ヲ集メタル一監督機關ヲ組織シ之ヲ政務會議ト名ツケ和平會議ニ於テ議決セル事項ノ執行ヲ監督シ統一後ノ内閣ハ其ノ承認ヲ得テ組織スルコト

七、和平會議ノ議決案審査案ハ政府會議ニ依リ之ヲ審定スルコト

八、国会ニ依リ正式大統領ヲ選出スル迄和平會議ハ徐世昌ヲ認メテ臨時大統領トナシ其ノ職權ヲ執行セシムルコト

ヲ提出セルカ為メ再ヒ停頓ノ止ムヲ得サルニ至レリ
政府ハ右要求ヲ拒絶スルニ決シ既ニ朱総代表ニ電報セリ之迄順調ニ進捗セル和平會議ニ遽ニ斯ノ如キ難題ヲ提出セシ

問題其他時局ニ関スル段祺瑞内話要領報告ノ件

件

附屬書 時局ニ関スル段祺瑞内話要領

機密第二二二号 (五月二十三日接受)

大正八年五月十七日

在支那

特命全權公使 小幡酉吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

五月十五日前田侯爵紹介ノ為メ本使段祺瑞往訪ノ節時局ニ対シ同人ノ述ヘタル内話ノ大要別紙ノ通りニ有之候右会见談中ノ一二点ハ概要已ニ電報致置候得共茲ニ補足ノ上別紙及送付候間御査閲相成度此段報告申進候也

本信写送付先 上海、広東、南京

(附屬書)

時局ニ関スル段祺瑞ノ内話要領

(五月十五日)

(一) 時局ニ関シ錢内閣カ総辭職申出テタル際自分ニ内閣引受ケ方交渉アリタルモ今日ノ場合自分カ出馬スヘキ時機ニアラスト信シ断然之ヲ断リ置ケリ当地ニ於ケル過般来

ハ南方代表カ過激派ニ制セラレ法律問題解決ヨリ生スル責任ノ重キヲ感シ之ヲ避ケンカ為カ又ハ政府カ内政外交上困難ノ位置ニアルヲ見益々之ヲ窮地ニ陥レ北方ノ讓歩ヲ余儀ナクセシメントスル陰謀ト見ルノ外無シ之ニ対シ政府ニハ未タ一定ノ方策無キモ二、三日前ニ受領セシ電報ニ依ルニ岑春煊ハ尚穩健ノ意見ヲ懷キアレハ其内ニハ更ニ転換ノ途ヲ発見スヘク情况如何ニ変化スルモ最早武力解決ノ時ニアラス何トカ平和統一ノ方法ヲ得ルニ至ル可シ

(二) 巴里ニ於ケル平和条約ニ調印スルノ有利ニシテ又止ムヲ得サルハ余ノ充分承知シアル所ナルモ民間ノ反対猛烈ナル為暫ク外交部ヲシテ之ヲ審査セシメツツアリ先日ノ学生暴動其他各地排日行動ノ熾ナルハ甚タ遺憾トスル所ナレ共余ノ日支親善主義ハ之カ為毫モ動カサルモノニアラス学生ノ取締秩序ノ維持ニ就テハ直ニ夫々命令ヲ出セリ安心シテ可ナリ云々(終)

七四 五月十七日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

上海和平會議、巴里講和条約ニ中国全權署名

ノ学生暴行ハ甚タ不都合ナル次第第二テ右ハ政界ニ不得意ナル党派關係者カ政權爭奪ノ為メ外交ニ藉口シテ親日派ヲ陥レントシタルト一方第三者タル外国人カ此機会ヲ利用シ日支關係ヲ離間セント企テタルト相待ツテ此風潮ヲ激成スルニ至レル次第ナルカ教育総長カ責任ヲ負フテ辭職スヘキハ当然ナルモ曹汝霖ノ辭職ハ許スヘキ筋合ニアラス曹自身ハ堅キ辭意ヲ有セルモ自分(段)ハ辭意ヲ思ヒ止マル様切ニ勧告シ置キタレハ多分留任スヘク尤モ交通總長トシテ留任スルカ又ハ外交總長ニ転スヘキカハ未定ナルモ同人ノ如キハ此際閣員ヨリ離任セシメサル方得策ナリト考ヘ居レリ從ツテ錢内閣モ一二閣員ノ移動アルハ免レ難キモ差当リ維持セラルヘキモノト認ム

(二) 上海和平會議ニ関シテハ最初ヨリ余リ重キヲ置カス平和統一ノ成立スルハ固ヨリ希望スル処ナルモ本月十三日南方ノ提出セル条件ハ到底承認スヘキ限りニアラス実ハ過般南方軍人七人連名通電(軍人ノ政治不干渉電報ナリ)ノ如キモ南方軍人代表者カ北京ニ来リ自分等トモ商議ノ結果発セラルルニ至リタルモノニシテ右南方軍人派ノ行動ニハ岑春煊モ同意セル次第ナリ今回上海會議ノ

双方代表者辭職ニヨリ再び會議統行不能ニ陥リタルモ何レ久シカラスシテ南方軍人派ヨリ反對運動起リ玆ニ局面ノ転開ヲ来スヘシト考フ（暗ニ南北統一ヲ計ラントスル計畫アル意向ヲ漏セリ）

(三) 巴里會議ニ関シテハ支那側内部ニ於テ党派ノ關係上又第三國ノ教唆ニヨリ自分ノ總理時代ノ方針ニ出テサリシ為メ今日ノ如キ失敗ヲ演スルニ至リタル次第ナルカ自分ハ目下政府ノ当局ニ在ラサル為メ責任ヲ以テ言ヒ難キモ個人ノ意見トシテハ平和條約ニ支那側委員ノ署名スヘキハ当然ニシテ山東問題等ニ就テハ從來ノ日支間ニ於ケル條約協定ニ基キ日本ト直接ニ協議解決スヘキコト妥當ナリト考ヘ居リ十四日ノ大總統府會議ニ於テモ自分ハ其意見ヲ述ヘ置ケリ

(四) 自分將來ノ態度ニ関シテハ可成政界ニ出ツルヲ避ケタキ考ナルモ今後時局ノ紛糾シ收拾スヘカラサルノ時機ニ至ラハ或ハ邦家ノ為メ出山セサルニアラサルモ夫レ迄ハ断シテ内閣引受ケノ如キハ承諾セサル考ナリ云々（暗ニ今後は非トモ同人ノ出山ヲ要スル場合ハ更ニ政界ニ出ツルヲ辞セサルノ意ヲ漏セリ）

決スルノ全然不可能ナルヲ詳悉セル今日ナレバ平和手段ニ依リ何トカ（脱）ヲ廻ラス外ナク唐紹儀ガ最近ニ至リ何故本件実行不可能ノ提案ヲ為シタルカ其真意ニ至リテハ了解ニ苦ム所ナルモ恐ラク右条件ハ唐ノ本意ニアラズ法律案ノ折合到底不可能ナルヲ見テ其將來ノ立場ヲ顧慮シ該案ヲ提出シ其協議ノ余地ナキヲ口実ニ辭職シ暫ク責任ヲ避ケタルモノト考ヘラル從テ中央政府トシテハ双方代表ノ辭職ニ依リ南北ノ關係全然破裂シタルモノト認メズ此先トモ充分妥協ニ尽力シ成ルベク速ニ統一ヲ計ラン所存ナリト答ヘタリ上海、広東、南京ヘ電報シ、天津、漢口ヘ郵送セリ

七六 五月十八日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛（電報）

上海和平會議停頓ニ對スル收拾策及巴里講和
條約ノ中国調印問題ニ関スル張志潭ノ青木中
將ニ對スル談話報告ノ件

（五月二十一日写外務省接受）

坂極秘第四十六号

昨十七日張志潭ハ青木中將ニ左ノ如ク談レリ

一 中国南北和平會議ニ関スル件 七六

七五 五月十八日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

双方代表辭職シタルモ尚妥協ニ尽力シ速ニ統
一ヲ計ル所存ナル旨錢總理談話報告ノ件

第七四二号

（五月二十日接受）

五月十六日本使錢總理ニ会見時局問題其他ニ関シ質問シタル処上海會議決裂ノ模様及善後策ニ付テハ錢總理ハ該會議ガ今日迄各種案件ニ関シ比較的順調ニ進行シ来タリタルニ拘ラズ最後法律案ニ對スル協議ニ入ルヤ突然唐紹儀ヨリハ条件ヲ提出スルト同時ニ辭職ヲ声明スルニ至レルハ頗ル意外トセザルヲ得ザル所ニシテ斯クナリタル以上ハ北方代表ニ對シテモ會議ノ相手方ナキ為其ノ辭職ヲ許シ帰京ヲ命ズル外ナキ次第ナルモ今回ハ双方代表ノ辭職シタルノミニテ未ダ和平會議其者ガ全然破裂シタル訳ニハ非ザルヲ以テ今後南方ヨリ更ニ代表ヲ派遣セシメ北方代表者ト上海ニ於テ繼續會議ヲ再開セシムルカ或ハ中央政府ヨリ南方軍政府ニ對シ直接交渉スルコトスルカ其如何ナル方法ニ依ルヤ未ダ決定シ居ラズ尤モ南北双方共ニ再び武力ニ依リ時局ヲ解

予カ上海滯在中北方代表一同カ南方代表全部ヲ招キ談話会ヲ開キシ際朱啓鈴ハ法律問題ニ就キ新旧國會同時解散ヲ提出セシニ章行嚴外數名直ニ之ニ賛成シ旧國會ヲ回復シ之ニ完全ノ職權ヲ附シ護法ノ趣旨貫徹ヲ絶對ニ主張セシハ胡漢民ノミニシテ李述膺彭允彝ノ兩人ハ徐世昌ノ大總統タルヲ承認スル条件ヲ附シ旧國會ノ回復ヲ主張セリ唐紹儀ハ初メヨリ悲觀的態度ニ在リシモ十三日提出セシ如キ苛酷ナル条件ニ就テハ何等談ル所無カリシヨリ察スルニ南方派内部ノ意見不備ヲ知ルト共ニ唐カ何カ別ニ考フル所アリテ遽ニ激烈ナル主張ヲ為スニ至リシモノト見サル可カラス依ツテ徐總統ハ一方軍政府及陸榮廷等ニ電報シ時局ノ轉換ヲ図ルト共ニ他方近ク上海會議停頓ノ理由ヲ宣布シ何処迄モ平和主義ニヨリ統一ヲ図ルノ急務ナル事ヲ天下ニ公布スヘク別ニ李純ヲシテ南方派ニ提出セシ条件ノ撤回ヲ運動セシメツツアリ各省督軍等ハ自ラ平靜ノ態度ヲ保持シ李純、王占元、楊善德、張作霖等ハ依然平和解決ニ賛成ノ意ヲ電報シ来レリ安福派ハ朱啓鈴カ新旧國會ノ同時解散ヲ提議シタル為甚タシキ惡感ヲ懷キ彼ノ總代表ヲ止メ王揖唐ヲ以テ之ニ代ラシメント運動シツツアリ巴里會議ノ講和條約ニハ山東問題

ニ対シ別ニ抗議書提出ノ上調印スル事ニ確定セリ云々

七七 五月十九日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

朱啓鈴以下北方側代表ノ北京引揚及和平會議
ノ見通ニ関スル王克敏談話報告ノ件

第二四〇号 (五月二十一日接受)

五月十九日王克敏來訪明後日出發朱啓鈴以下各代表ト共ニ
北京ニ引上クルコトニ決定セリト語リ尚自分等ノ辭職ニ依
リ和平會議ハ終リヲ告ケタルモノニ非スシテ更ニ他ノ代表
等ニ依リ再開ノコトモアルヘキモ南方ニシテ讓歩セサル限
到底成功ノ見込ナカルヘシトシ南方提出ノ八ヶ条ハ公ケト
ナク話題ニ上リタルコトアルモ実行不可能ト目セラレ居タ
ルトコロナルニ突然此等ノ難題ノミヲ集メテ突き出サレタ
ルハ甚タ意外ニシテ右ニ付唐ハ単ニ政治上ノ希望ト法律上
ノ解釈ヲ主張シタルノミナリト申居ルモ其真意ハ知ルヘカ
ラストナシ居タリ

在支公使、在広東総領事ヘ転電シ在南京領事ヘハ郵送セリ

アリタルハ事実ナリトシ居タリ

北京広東ヘ電報シ南京ヘ暗号ノ儘郵送セリ

七九 五月二十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

上海和平會議ノ頓挫ニ関スル大總統令大要報
告ノ件

第七五八号 (五月二十二日接受)

上海和平會議ノ頓挫ニ関シ五月二十一日大要左ノ如キ大總
統令公布セラル
唐紹儀等ハ五月十日八箇条ノ提議ヲ為シ其ノ条項タル外ハ
邦交ニ關係シ内ハ国本ヲ動揺シ法理上事実上徒ニ紛糾ヲ招
キ平和ヲ促進スル所以ニアラザルヲ以テ政府ハ其撤回ヲ電
照中ナリ要スルニ會議ハ今ヤ頓挫ノ姿ナルモ政府ハ飽ク迄
平和ヲ希望シ断シテ兵用ヲ再顯セシムルモノニアラス

八〇 五月二十二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議頓挫打開策トシテ外交団ニ於テ
中国政府ニ和平統一ヲ勧告スル案ニ付米国公

七八 五月二十日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議決裂ノ事情ニ関スル唐紹儀談話
報告ノ件

第二四四号 (五月二十一日接受)

五月二十日唐紹儀ニ面談彼曰ク南方提出ノ八ヶ条ハ第五項
ノ国会問題等ヲ除クノ外^③西北方代表ノ同意ヲ表セル所ニ係
リ而モ會議席上朱啓鈴ハ国会乃至總統問題ニ触ルルニ於テ
ハ全然討議スル能ハスト唱ヘ終ニ辭職スルニ至リタルモノ
ニシテ北方ノ代表ハ明日当地ヲ引上クルニ於テハ自分等ノ
辭職カ軍政府ノ容ルル所トナルト否ヤハ多ク關係スルコト
無ク畢竟北方特ニ徐世昌カ誠意ヲ欠ケルコト和議不成功ノ
原因ナリトシ縷々徐ノ八方美人主義ヲ非難シ更ニ広東国会
ノ狀況等ヲ説キテ自己ノ立場ノ困難ナリシ次第ヲ訴ヘ最早
自分ハ政治的ニ死亡セルモノナリト為シ居リ尚本官力自己
ノ推測トシテ今次ノ八ヶ条ノ条件ハ内実北方代表ト打合セ
提出セラレタルモノナラサルヤヲ質シタルニ對シテハ朱カ
二日間ノ考慮ノ末終ニ破裂ニ至リタル事実等ヲ挙ケテ頻リ
ニ其然ラサルヲ弁解シ居タルモ朱カ夙ニ辭意甚タ固キモノ

使ヨリ協議アリタル件

第七六二号 (五月二十三日接受)

最近本使米国公使ト会谈ノ際同公使ハ南北和平會議ノ決裂
ニ言及シ此際外交団トシテ採ルヘキ態度如何ニ付本使ノ所
見ヲ叩キタルニ付本使ハ上海會議ニ於テ何等カ議了ノ議決
事項ニテモアルトセハ之カ実行方等ニ関シ外交団ヨリ勧告
ヲ与ヘ以テ統一ノ促進ヲ期セシムルコト然ルヘキモ上海
會議ハ只徒ニ曠日弥久何等纏リタル協定ヲ見ルニ至ラス殆
ト決裂同様ニ今日ノ事態トナリ旁々此際外交団ニ於テ何等
積極的措置ニ出ツルモ事實ニ於テ其効果ヲ収ムルコト至難
ナルヘク果シテ然ラハ進ンテ効力ナキ措置ヲ採ルニモ及ハ
サルヘシ尤モ未タ篤ト考究シ尽サザルヲ以テ此際確タル所
見ヲ陳述スルコトヲ得サル旨答ヘタル処米国公使モ尚篤ト
考量ノ上更ニ意見ノ交換ヲ試ミタキ旨ヲ述ヘ再会ヲ約シ置
キタルガ五月二十二日同公使本使ヲ來訪シ未タ他国公使ニ
ハ面談セサル処先以テ本使ノ所見ヲ求メタシトテ一頓挫ヲ
來セル時局ノ展開策トシテ此際曩ニ支那ニ勧告ヲ与ヘタル
五ヶ国公使ヨリ和平會議決裂ニ伴フ今後ノ善後策如何ニ関
シ上海會議方針ヲ質問シ進ンテ一般輿論ニ顧ミ武力討伐ノ

不可ナル所以ヲ説キ依然平和の手段ニ依リ出来得ル限り速ニ和平統一ノ達成ヲ期センコトヲ勧告スルコトト思考セラルトテ右ニ対スル本使ノ隔意ナキ所見ヲ聴カンコトヲ求メタルニ付本使ハ上海會議首腦者共ニ等シク武力解決ノ殆ト不可能ナルヲ自覺シツツアルハ事実ナルカ如ク現ニ最近本使カ總理ニ会見ノ際同總理モ武力ニ依リ時局ヲ解決スルコトノ到底不可能ナルヲ言明シ妥協実現ノ為更ニ適當ノ便法ヲ案スルニ最善ノ努力ヲ尽スヲ決心セラレタル旨ヲ語レルノミナラス他面本使ノ得タル消息ニ依レハ所謂北方派ト南方派中実力ヲ有スル陸榮廷李烈鈞岑春煊等トノ間ニ最近或ル程度迄脈絡相通シ漸ク円満ナル諒解ヲ得ツツアルヤノ説モアリ旁再ヒ武力争闘ノ演出セラルルカ如キ恐レハ万之無カルヘシトハ想察セラルルモ今回貴公使提案ノ如キ意味ノ勧告ヲ与フルニ対シテハ其内容カ当初ノ申込ノ勧告ノ本旨ト甚シク懸隔セサル以上本使一己ノ私見ノ関スル限何等異存ナキ旨述ヘタル処米国公使モ本使ノ説明ヲ諒トシテ引取リタリ就テハ右同公使ノ提案カ近ク具体的ニ関係国公使ノ議ニ上リタル場合ニハ本使ニ於テモ之ト同一ノ歩調ニ出テ然ルヘク措置致スヘキニ付御承知置キアリタシ

答ナリト

尚岑ハ民党殊ニ孫洪伊派ノ行動ニ関シ殊更ニ南北決裂ヲ企圖スルモノナリトテ頻リニ之ヲ攻撃シ且事実上南方ハ軍備及財政ノ点ニ於テ再戦ノ不可ナル理由ヲ述ベ民党及国会側ガ如何ニ咆哮スルモ之ニ関セズ和ヲ計ラザルベカラザルガ只北方ヨリ決裂スレバ致シ方ナシ決裂スルト否トハ全ク北方ノ態度ニ因リテ定マルベキ旨ヲ述ベタリト

(二)陸榮廷ノ態度ニ関シ陸モ和ヲ希望スルコトハ岑ト同一ニシテ徐世昌トノ間ニモ互ニ使者ヲ往来シツツ相当意思ノ疏通有ルモノノ如ク和ヲ主張スル關係ヨリシテ軍政府政務總裁ヲ辞シ各方面ヨリ是ヲ挽留セシモ尚復職セズ外間陸ハ軍政府ト離レテ北京政府ト单独講和セントスルノ嚆有ルガ和ヲ主張スルコトハ事実ナルモ軍政府ノ意ニ反シテ迄单独ノ行動ヲ執ルモノニ非ズ云々ト述ベ

(三)広東問題ニ関シ陳炳焜ガ香港ニ来リ李耀漢ト何カ商議シツツアルハ事実ナルモ右ハ陸榮廷ノ意ヲ享ケテ行動シツツアルモノニ非ズ陳ガ单独ニ李耀漢ト密謀シ広東督軍ノ地位ヲ獲ント計リツツアルモノニシテ陳ハ元来性狂暴ニシテ陸モ余リ信用シ居ラズ今回ノ陳ノ行動ハ全ク陸ノ名ヲ藉リテ

上海、広東、南京ニ電報セリ

八一 五月二十二日 在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

和平會議決裂ニ対スル南方側軍政府ノ態度等

ニ関スル岑春煊内話報告ノ件

第九七号

(五月二十三日接受)

五月二十一日岑春煊ガ米内山ニ内話セル要領左ノ如シ
(一)南北和平會議停止ニ関シ軍政府ニテハ平和ヲ希望スル意思ヲ明カニスル為南方代表ヲ召還スルコトナク唐紹儀ノ辭職ヲモ許サズ引キ続キ和議再開ニ尽力セシムルコトトシ其旨既ニ政務會議ノ議決ヲ經テ唐ニ電報シ更ニ岑ヨリモ個人的ニ唐ニ挽留ノ電報ヲ發シタリト尚徐世昌ヨリ岑ニ人ヲ介シテ和議停止ニ関スル意見ヲ聞キ来リ岑既ニ乱ヲ厭ヒ居ルヲ以テ是非和セザルベカラズ北方ニ於テハ更ニ法ヲ設ケテ円満解決ヲ計ラレ度キ旨ヲ返電セリト、南方中民党派ハ唐紹儀ガ會議ニ提出セシ八条件中徐世昌ノ臨時大總統タルコトヲ承認スルノ項等アルモ右ハ大綱違反ナリトテ攻撃シ唐ノ撤職ヲ主張シツツアルモ軍政府ニテハ之ヲ取り上ゲザル

之ヲ利用シツツアルナリ但シ広東ニ於テモ十分之二備ヘツツアルヲ以テ怖ルルニ足ラズ

雲南軍ト広西軍トノ確執等ノコトモ伝ヘラルル由ナルモ事實ナラズ殊ニ余(岑)ト陸トノ間ニ何等カノ衝突有ル如ク噂セラルル由ナルガ之ハ全ク一部ノ者ノ為ニスル謠言ニシテ余ト陸トハ十分意思ノ疏通アリト述ベ其ノ証トシテ岑ハ特ニ五月十七日附陸ヨリノ來電ヲ米内山ニ示シタル由ナルガ該電報ニハ近來広東ニ於テ種々ノ謠言起リツツアル由ナルガ由來広東人ハ謠言ヲ作り人ヲ離間シ以テ自ラヲ利セントスル性有リ如斯キ小人ノ行動ニ依リ我等ノ間ハ決シテ離間セラルルモノニ非ズ余(陸)ノ吾公(岑)ニ対スル誠意ハ今モ昔モ渝ラズ謠言ニ惑ハサルル勿レ云々ト岑ニ対シ異志無キ旨ヲ述ベタルモノナリト尚右陸ヨリノ來電ハ極秘ニ附シ置カレ度キ旨岑ヨリ特ニ内話有リタル趣ニ付為念申上グ北京、上海、汕頭ヘ電報セリ

八二 五月二十二日

在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

上海和平會議停頓ノ裏面ニ在ル文治派軍閥派

ノ対立ニ関シ報告ノ件

(五月二十七日写外務省接受)

坂極秘電第四七号

北京ニ於テ見タル最近政局ノ裏面左ノ如シ

徐總統任ニ就キ和平會議開始セラレテヨリ半歳其間幾多ノ曲折アリシモ北方派ハ表面平静ヲ保チ督軍等モ段祺瑞ノ沈黙ニ習ヒ鳴リヲ沈メ一向傍觀の態度ヲ採レリ然レトモ其裏面ハ徐世昌ヲ本尊トスル文治派ト段祺瑞ヲ頭目トスル軍閥派トノ間ニ一種ノ暗流アリ軍閥派内ニハ又馮國璋派アリ政党内ニハ安福俱樂部已未俱樂部アリテ多少ノ紛争ヲ為セリ元來文治派カ軍閥派ノ沈黙ニ乗シ万事ニ軍閥派ヲ疎外スル傾キヲ生シ軍閥派ノ不平大ニ高マルモノアルヲ見五月四日学生暴動ニ際シ曹汝霖、章宗祥等ニ対スル警察ノ保護不充分ナリシハ世間周知ノコトナルカ吾人ハ之ヲ以テ京師警備總司令タル段芝貴警察總監タル吳炳湘カ文治派ニ対スル反感上其職ヲ行フニ熱心ナラサリシ結果ト信スヘキ節アリ抑モ対外的ニハ当地軍閥派ト曹汝霖派トハ共ニ親日派ニシテ親米派ニ対抗シ又軍閥派ハ暴動ヲ予防シ得ヘキ充分ノ兵力ヲ有ス然ルニ此親日派排斥暴動ニ対シ夫ノ平素ノ行動ニ似

ス処置緩慢ナリシハ此間ノ消息ヲ語ルモノニシテ大總統カ彼ノ教育総長ノ辭職ヲ許シナカラ第一ノ責任者タル警察總監ノ辭職ヲ許ササルカ如キ或ハ五月十四日治安維持ニ関シ大總統令ヲ發布セルカ如キハ大總統自ラ此間ノ機微ヲ察シテ軍閥派ヲ慰撫シタルモノト見ルヘク又今回上海會議ノ決裂ニ際シ居常事ヲ決スル為過度ニ慎重ナル徐總統カ直チニ北方代表ヲ引キ止メシメントシタルカ如キハ幾分軍閥派ノ意中ヲ忖度シ敢テ果斷ノ処置ニ出テタルヤノ感ナキニアラス為ニ一時親日派タル錢能訓ノ更迭サヘ真面目ニ研究セラレタルモ今ハ沙汰止ミトナレリ

段派ノ者ノ言ニ依レハ陸榮廷及唐繼堯ト段祺瑞トノ間ニハ夙ニ諒解アリ最近又莫榮新、李烈鈞、李根源、方声濤等モ人ヲ介シテ陰カニ段祺瑞ト連絡シアリ前ニ南方軍閥派カ軍人ノ政治不干渉ノ宣言ヲ為スヤ北洋派軍人カ直チニ之ニ称和セシ如キ之ヲ証シ得ルニ足ルヘク斯クシテ南方言論過激派分子ニシテ依然過般提出ハ八ヶ条ノ如キ苛酷ノ主張ヲ固持スル時ハ彼ハ遂ニ孤立ノ止ム無キニ至ル無キヲ保セスト要スルニ上海會議ノ決裂ニ際シ北方軍閥派カ南方過激分子ノ暴言ニ対シ全然沈黙ヲ守リツツ在ルハ彼等カ漸ク世界ノ大

勢ヲ知り列國ノ思惑ヲ顧慮スルニ至リシニ依ルト雖モ彼等ト南方軍閥派トノ徐々タル接近カ上海會議ニ重キヲ置カサルニ至リシ傾向アルニ因ルモノトモ見ル可ク而シテ徐總統ノ下既ニ軍閥派、文治派トノ反感アル如ク西南軍閥派ト法律言論ヲ主トスル西南文閥派トノ反感ハ更ニ甚シキモノアルカ如シ支那統一ノ前途遼遠ト言フヘク上海會議ノ停頓ヲ重ヌルト共ニ北洋派中吾人ハ先ツ西南四省ヲ除キタル国内統一ニ着手スルヲ捷徑ナリト称フル者漸ク勃興シ来レリ

委細筆記

八三 五月二十三日

内田外務大臣ヨリ
在仏国松井大使宛(電報)

上海和平會議決裂ノ事情及之ニ対スル南北両

者ノ態度ニ関シ通報ノ件

講第四一一号

上海和平會議ハ往電第三七九号末段ノ通り国会処分問題ニテ行惱ミ居リシモ差当リ破裂ノ模様ナカリシ処五月十三日ノ會議ニ於テ唐紹儀ハ突然(一)山東問題ノ講和条件ヲ承認セサルコト(二)日支間ノ密約無効ヲ宣布シ並ニ其關係者ヲ処

罰スルコト(三)參戰軍国防軍ヲ撤廢スルコト(四)民情ニ合セサル督軍省長ヲ直ニ罷免スルコト(五)黎元洪ノ発シタル国会解散命令ノ無効ヲ宣布スルコト(六)全国ヨリ輿望アル人物ヲ推挙シテ政務會議ヲ組織シ議和条件ノ履行ヲ監督シ内閣ノ組織ハ其同意ヲ經ルコト(七)議定又ハ審査ニ附シ或ハ別ニ提議セル各案ハ夫々整理決定スルコト(八)和平會議ニ於テ徐世昌ノ臨時大總統タルコトヲ承認シ其期限ハ国会ニ於テ正式總統ヲ選舉スル迄トスルコトノ八ヶ条ヲ提議シ右ハ南方側ノ讓歩シ得ル最大限度ナリト附言シ同意ヲ求メタル処朱啓鈴ハ第一項青島ニ関スル件以外ハ同意シ難シト答ヘ茲ニ會議ハ再ヒ中止ノ已ムナキニ至リタル為唐紹儀及朱啓鈴ハ各其職責ヲ全フシ難シトノ理由ノ下ニ軍政府及北京政府ヘ夫々辭表ヲ提出セリ

右ニ就キ錢總理ハ在支公使ニ対シ唐紹儀ヨリ突然斯カル難問ヲ提議セシハ解シ難キモ恐ラク唐ノ本意ニハアルサルヘク即チ唐ハ国会案ノ折合不可能ナルヲ見テ其将来ノ立場ヲ顧慮シ殊更難ヲ構ヘテ之ヲ口実ニ暫ク責任ヲ避ケントノ魂胆ナリシナルヘク北京政府トシテハ朱ノ辭職ヲ許スノ外ナキモ會議ハ全然破裂セシニアラサルヲ以テ此先共充分妥協

ニ尽力スヘク但シ其方法トシテハ上海會議ヲ繼續再開セシムルカ或ハ又南方軍政府ト直接交渉スルコトナルヤモ知レスト言ヘル由也

更ニ南方ノ公表セル態度ヲ見ルニ前記ノ八ヶ条ハ南方譲歩ノ最大限度ニシテ徐世昌ノ臨時大總統タルヲ認メタルカ如キハ平和ヲ切望セル互譲ノ精神ニ出テタルモノナリトシ陝西問題參戰軍国防軍等ノ例ヲ挙ケテ北方ヲ批難シ唐ノ辭職ハ會議ニ妨害ヲ及ホスヘキモノニアラス将来ノ方針及後繼代表者ハ軍政府ニ於テ決定セラルヘント言ヘリ

如上ノ次第二テ目下ノ処南北共ニ會議再開ノ意図ヲ有シ居ルモ一方ニ於テハ段祺瑞一派ト陸榮廷唐繼堯等ノ南方実力派ノ間ニ直接交渉ヲ試ミントノ説モアリ今後ノ成行ハ予測シ難シ

英米伊ヘ転電アリタシ

八四 五月二十四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

北方代表朱啓鈴等北京帰還ノ件

第七七〇号 (五月二十五日接受)

申進候也

本信写送付先 上海、広東、南京

(附屬書)

中国南北和平會議再開方ニ関スル五国公使ヨリ中国政府宛
勸告文案

The representatives of Great Britain, France, Japan, Italy and the United States viewing with deep concern the delay in the settlement of internal difficulties in China due to the adjournment of the Shanghai Peace Conference desire to express the hope that the Conference may be reconvened and negotiations brought to a successful close at the earliest possible date. Since the aims of both parties have now been stated, it ought to be possible without further delay to find a solution just to all and in the common interest of the country and the Chinese people. Meanwhile the representatives of the Powers trust that neither party will, in any way, sanction a resumption of military measures.

北方代表朱啓鈴及吳鼎昌ハ五月二十三日方樞劉恩格等ハ五月二十二日帰京セリ
上海広東ヘ電報セリ

八五 五月二十八日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

中国南北和平會議再開方ニ関スル五国公使ヨリ
中国政府宛勸告文案送付ノ件

附屬書 右勸告文案

機密第二二三号 (六月二日接受)

大正八年五月二十八日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

本件ニ関シ昨二十七日外交団會議開催ノ顛末及今二十八日米国公使ト会見ノ結果同公使ニ於テ勸告文ヲ起案シ本使ニ於テ之ニ同意ヲ表シタル經過ノ大要ハ往電第七八五号ヲ以テ又右勸告文案ハ同別電第七八六号ヲ以テ夫々及報告置候処右勸告文案全文為念茲ニ及御送付候間御査閲相成度此段

In making this statement the representatives of the Powers desire to assure the Chinese people and authorities of the continued good will and friendly interest of their Governments and nations who will welcome with the greatest satisfaction the restoration of union and concord throughout China with her Government in the full exercise of its powers organized to promote the general welfare of the people.

註 右勸告案ノ北京政府ニ提出セラレタルハ六月五日ナリ

八六 五月三十日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平解決ノ方策ニ関シ唐紹儀談話ノ件

第二五四号 (五月三十一日接受)

唐紹儀ハ数日前其ノ第八女ヲ亡ヒ引籠中ナリシニ付悔ミ旁林出ヲシテ面会セシメタル処ソノ談ニ曰ク自分カ更ニ辭職ヲ迫レリトノ報ハ事実ニアラス北方代表退去セル以上辞表

ノ許可セラルルヤ否ヤハ問フ所ニアラス講和ノ前途ニ就テハ全ク見込付カサルモ南北共ニ兵力解決ノ困難ナルハ明カナルニ付何トカ和平ニ結末ヲ告クルノ途ヲ求ムル外ナク唯北方ノ態度ノ不明ナルハ總テノ障害ナリトシ南北実力派間ニ於ケル解決策特ニ部分部分ニ於テ握手ヲ試ムルコトモ亦一法ナラム乎ト謂ヒタル趣ナリ

北京広東へ電報セリ(五月三十日)

八七 六月一日 在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議再開ノ見通等ニ関スル李江

蘇督軍談話報告ノ件

第七三号 (六月二日接受)

五月三十一日李純(健康恢復セリ)ヲ往訪シ山東問題ニ関スル閣下御声明ノ英文ヲ示シタルニ李純ハ愚民ノ誤解除去ニ有効ナル材料ナレハ広ク之ヲ伝達スヘシトテ収メタル上大略左ノ通内話セリ

一、上海會議ノ解散ハ南北和平會議ノ停頓ニシテ決裂ニアラス即チ南北共ニ大多数ノモノハ皆和平統一ヲ冀ヒ従前ハ

北京へ電報シ上海へ郵送セリ

八八 六月四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

五国公使ノ中国和平會議再開方勧告ノ件

第八一二号

往電第七八五号ニ関シ

六月五日午後四時英國公使徐總統ニ謁見該勧告文ヲ手交スル筈

上海、広東、南京へ電報セリ

八九 六月四日 在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

陸榮廷等ノ徐總統及國務院軍政府各總裁等ニ

対スル和平會議再開南北統一方ノ通電並湖南

ニ於ケル南北軍官連名ノ同趣旨通電報告ノ件

第一〇三号 (六月六日接受)

六月四日当地一二新聞ニ発表セラレタル所ニ依レハ五月二十九日付陸榮廷、陳炳煊、譚詒明、莫榮新等連名ヲ以テ徐大總統國務院軍政府各總裁上海和平會議南北各代表及各省

一 中国南北和平會議ニ関スル件 八八 八九 九〇

明カニ色彩ヲ異ニシタル南北ハ全然其ノ色彩ヲ暈シ来リ今ヤ一人ノ戰ヲ説クモノナク兩政府ハ何等ノ仲介者ヲモ要セスシテ直接ニ接洽シ得ルノ状態ニ在ルモ奈何セム未タ何人ニモ双方ヲ首肯セシメ得ヘキ良策ナキニヨリ表面ノ運動ニ出ツルモノナク又自分トシテ起ツヘク懲慚シ来レルモノモアルモ病身ナリ且ハ暫ク形勢ヲ觀ル必要モアレハ未タ何等ノ行動ニモ出テサル次第ナルカ大勢右ノ如キヲ以テ一、二箇月内ニハ何等カノ端緒ヲ得年末迄ニハ必ス多分異リタル形式ヲ以テセル和平會議力再開セラルルニ至ルヘシ

二、既ニ狀況右ノ如キヲ以テ過般唐紹儀カ提出セル北方ノ到底承認シ得ヘクモアラサル条件ハ素ヨリ多数國民ノ意思ニモアラス何ントナレハ彼等ハ皆會議ノ破裂ヲ欲スルモノニアラサレハナリ予ハ唐紹儀一人ニソノ責アリト言フニハアラサレトモ、カルガ故ニ會議ノ破壊者ハ總テ國民ノ問責ニ値シ其ノ非難攻撃ノ的トナラサルヘカラサルモノナリ而シテ何レノ國ニ於テモ老獪ナル政治家ハ内政ノ失敗ノ攻撃ヲ避ケンカ為國民ノ眼ヲ外交ニ転ス今日ノ排日運動ノ原因ハ那邊ニ在ルヤハ知ラサレドモ現在之ヲ欣ヒ之ヲ煽動シ居ル支那政治家ハ自ラ明カナラスヤ

軍民各長官ニ宛テ先ツ平和ヲ必要トスル理由ヲ述ヘ和平會議ノ停頓ヲ非トシ且南北双方政府及各代表ニ於テ重ネテ會議ノ開キ各々良心上ノ指導ニヨリ両方極端ニ譲歩シ折衷并理シ緊急ニ統一恢復シ心ヲ同シクシテ危ヲ救ハサルヘカラス敢テ最後ノ表示ヲナストノ旨ヲ通電セリ尚之ト同時ニ二十五日付譚詒明、吳佩孚等湖南ニ於ケル南北軍官連名ヲ以テ同様南北各代表ニ於テ極力譲歩シテ速ニ和セサルヘカラスル旨ヲ主張セル通電ヲ發セリ右陸榮廷等ノ電報ハ徐世昌ニ対シ大總統ノ敬語ヲ用ヒ且宛名中ニ國會ノ字ヲ見サルコトハ從來南方重要人物ノ發電等ニ見ラレサリシ点ニシテ之ニ依リテ見レハ陸等ノ意ハ徐世昌ヲ大總統トシテ承認シ且國會ヲ犠牲ニスルノ意ヲ暗ニ表示セルニアラスヤト思ハレサルニアラス

在支公使、上海総領事へ電報セリ

九〇 六月六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国南北和平會議再開ヲ徐大總統ニ勧告セル
際ノ大總統ノ談話ヲ英國公使ヨリ日米仏伊公

使へ通報ノ件

第八二四号

(六月七日接受)

往電第八一二号ニ関シ

六月六日英国公使ヨリ日、米、仏、伊四国公使宛回章ヲ以テ五日大總統謁見ノ顛末ヲ通報シ来レリ其ノ大要左之通
英国大使ハ五国ヲ代表シ覺書ヲ朗読シタル処大總統ハ其好意ヲ謝シ再ビ武力ニ訴フルノ不可ナルコトハ南北各方面ノ一致セル所、又正式會議ハ中止シ居ルモ下級代表員ハ尚相接触シツアリ蓋シ南方提出ノ彼ノ八ヶ条ハ何レノ党派ニトリテモ青天霹靂ノ觀アリキ南方代表者ト雖是ガ提出ノ日ヨリ第一項乃至第三項對外關係ニ亘ルモノハ南北和平會議ニテ論議セラルベキニ非ザルコトヲ内認メ居リタル次第ニテ右八ヶ条ハ其儘撤回ハセザルガ昨四日陸榮廷ヨリ受ケタル電報ハ特ニ徐大總統及國務院トナシアリ(廣東発閣下宛電報第一〇三号末段参照) 目下未決ノ難関ハ法律問題即チ北京現国会、広東ノ殘党又ハ新タニ選舉シタル国会ノ何レガ将来ノ憲法ヲ議定スヘキカノ問題ノミニシテ而モ一兩日中ニハ下級交渉者ヲ上海ニ送り商議ヲ再開セシムル積ニテ結局上海ニ於テ統一ヲ見ルベキヲ疑ハス之レ昨年九月就

九二 七月十七日

在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平成ラザルハ徐樹錚ガ徐總統ヲ抑制スル為ナリトノ唐紹儀談話報告ノ件

第三二四号

七月十六日唐紹儀ニ面談ノ節南北和平問題ニ関シテ彼曰ク其後北京ヨリハ更ニ于某ヲ派遣シ来リ自分ヲ訪問セシメテ錢能訓ヲ総代表トナスニ就キ自分ノ内意等ヲ求メタルニ依リ余ハ初対面ノ彼ニ対シ相互単ニ個人ノ資格タル以上何等論議スヘキ問題存セザル旨ヲ説示シ置ケル次第ニシテ要スルニ北方ニシテ誠意アラバ益々讓歩スヘキ要点ヲ発表シ委員ヲ任命派遣シテ更ニ交渉ヲ開始スルヲ要ス可ク而モ資格ノ曖昧ナルモノヲ南下セシメテ内意ヲ探ル如キハ単ニ世間態ヲ繕フ為力又ハ他ニ為ニスル所アラントスルモノニ過ギズ自分ノ見ル処ニテハ和平ノ成ラザルハ徐世昌ノ態度ノ軟弱ニ基キ而シテ彼ヲシテ軟弱ナラシムル所以ハ徐樹錚ノ勢力ノ盛ナルニ原因シ徐樹錚ノ勢力アルハ日本ノ軍人ノ一派ガ彼ニ同情シ援助ヲ与フルニ由ルモノトス可ク而モ表面之

職以来自分ノ常ニ期スル所タリト述ヘ然ラバ南北ノ紛争ハ当地及南方両者ノ間ノ交渉ニ依リ解決スベシトノ趣旨ト解シ然ルヘキヤトノ英国公使ノ問ニ対シ徐總統ハ自分ヨリ南方ニ対シ解決ヲ求メ居ルニアラス南方ヨリ自分ニ申出居ル次第ナルガ兎ニ角斯クシテ確定的解決容易トナルベク最後ノ正式決定ハ上海ニ於ケル各有權代表者ノ会合ニ待タザルベカラズト述ヘタリ
上海、広東ヘ電報セリ尚前記広東来電上海ヨリ南京ヘ郵送セリ

九一 六月六日

在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議再開勸告書ヲ軍政府ニ交付ノ件

第一〇五号

(六月七日接受)

本官発在支公使宛電報第八六号
貴電第一六五号ニ関シ

当地英国総領事ハ同国公使ノ訓令ヲ奉ジ本官及米仏各領事ノ同意ヲ經六月五日軍政府ニ赴キ勸告書ヲ交付セリ
外務大臣在上海総領事ヘ電報セリ

ガ勢力ニ恐レテ撫ク所以ハ一ニ日本ノ後援アリトノ觀念ヨリ出ツルニ外ナラズ素ヨリ日本政府ハ徐ヲ後援セラルルモノニ非ズ軍人一派ト雖モ其ノ影響ノ然ク重大ナルニ想到セザル者ナカル可キモ徐ハ巧ニ之ヲ利用スル結果ハ勢ヒ總統ヲ圧シ之ヲシテ終ニ其思フ所ヲ行ヒ能ハザラシム自分ノ考ニテハ徐ノ勢力ヲ失墜セシメサル間ハ和平ハ到底望ミ得ベカラザルガ如ク嘗テ仏国共和祭ノ節同総領事ヨリ何等カ斡旋ノ方法ナキヤヲ尋ネラレタルニ対シ外交団ヲシテ徐世昌ニ援助ヲ与ヘ徐樹錚ヲ驅逐スルノ方針ニ出デシムル様尽力セラルル事目下ノ急務ナル旨披陳シ置キタル次第ナリト云ヒ親日ト云ヒ親米ト云フ単ニ一時ノ現象ノミ日本トシテハ宜シク其ノ向フ所ノ大勢ニ顧ミ助ク可キ正当ノ方針ニ向ツテ援助ヲ与ヘラルルニ於テハ何人モ親日タラザルヲ得ザルニ至ルベシトナシ居タリ猶広東ノ紛擾ハ広東広西兩派ノ争鬭ニシテ自分ハ全然其ノ渦中ニ投ズルヲ避ケ居レリト北京其ノ他ニ於ケル政変等ノ發生ハ寧ロ時局解決ヲ促進スルモノトシテ歡迎スルナリトナシ居タリ

在支公使、在広東総領事ヘ転電シ在南京領事ヘ郵送セリ

九三 八月八日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和議見込無キ旨ノ唐紹儀ノ内話報告ノ件

第三三五号 (八月十日接受)

南北和議ニ関シテハ唐紹儀ハ勿論從來常ニ樂觀説ヲ吹聴シ来レル張耀曾等迄モ最近全ク絶望ナリト極言スルニ至レリ唐ノ談ニ依レバ岑春煊ハ広東ノ氣候痼疾ノ脚痛ニ適セズ一日モ速ニ一段落ヲ告ケテ難局ヲ逃レン事ヲ希ヒ頻リニ和議ノ促進ニ焦リ李曰垓ヲ北上セシメ新旧国会ヲ犠牲トスル条件ニテ意志ノ疏通ヲ図ラントシ龔心湛ガ旧部下タリシ關係ヨリ之ト接洽セシメントセルモ殆ド結果ノ見ルヘキナク北方総代表ノ任命果シテ実現スヘキヤモ疑問トスヘク仮令代表ノ任命アリトスルモ現状ニ於テハ安福系全部ノ意思ヲ代表スルモノナラサルヘカラサルニ於テ和議ハ到底見込ナク徐世昌等ハ依然和平ノ仲買人トモ云フヘキ所謂南方ノ各派代表ト称スルモノ等ニ聞キテ其実力者ト直接和議ヲ進メ得ヘシト考ヘツツアルカ如キモ之レ又絶対ニ不可能ト見ルヘク如斯キ状況ニ立至ラシメタルモノ概ネ徐世昌ノ優柔ニ帰スヘク其間注意スヘキハ馮國璋ノ態度ナリトシ北京ノ政局

キハ勿論支那ハ結局國際聯盟ノ委任統治(マンデートリー)ノ下ニ置カルノ外ナカルベク現ニ英國ニハ已ニ其ノ議論モ行ハレ居レリト確聞ストシ是等ノ原因ヲ日本ノ外交政策ノ誤レルニ歸シ我政策ヲ目シテ以テ武力平和兩方針ノ岐路ニ彷徨ヒ毫モ徹底的ナラザルモノトナシ彼一流ノ論法ヲ以テ全然前途ヲ悲觀シ暫ク諸外国ヲ漫遊シテ形勢ヲ觀望スル希望ヲ洩シ居タリ尚同人ハ支那ノ不調印ヲ以テ彼自身ノ主張ニ基ケリトシ右ニ依リ大ニ支那ノ猶氣骨ノ存スアルヲ世界ニ宣明シ為ニ翕然トシテ列國ノ同情ヲ集メ得タリト得意ガリ居レリ

在支公使、広東総領事へ電報セリ

九五 八月十五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王揖唐ノ北方議和総代表任命ニ関シ張弧及王揖唐等ノ西田通訳官ニ対スル談話報告ノ件

第一一五六号

往電第一一四二号ニ関シ

八月十四日張弧ガ西田ニ語リタル所ニ拠レバ王揖唐ノ北方

ハ徐段ノ争ヨリモ寧ロ段ト馮ノ争鬭ヲ禍因トスト云ヒ得ヘク馮ハ巨額ノ運動費ヲ使用シテ活躍ヲ試ミン計画モアルヤニ聞及ヘリトシ居タリ

北京、広東へ転電セリ

九四 八月九日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

孫文ノ軍政府總裁辭任ノ公表及同人ノ南方派

内部事情ニ関スル内話ニ付報告ノ件

第三三六号 (八月十一日接受)

孫文ハ一昨七日広東參衆兩院ニ宛テ軍政府總裁辭職ノ電報ヲ発シ南方武人ノ私利ヲ図リ護法ノ誠意ナク或ハ軍政府總裁ノ地位ヲ以テ犯人ト結ビ又ハ国会ヲ犠牲トスル密約ヲ私訂シ国会ニ不利ナル主張ヲ喚起シ及民衆ヲ迫害セル等ヲ攻撃シ是等ニ対シテ其ノ責ヲ負フ能ハザル旨ヲ宣言セル趣ニテ其内容昨八日ノ漢字新聞ニ公表セラレタリ右ニ関シ孫文ガ本官ニ内話スル所ニ依レバ南方ノ実情ハ北京ニ於ケルト同様全ク腐敗シ居リ到底改善ノ見込ナキ結果絶縁ヲ宣言セルモノナリトシ南北ノ情況スクノ如クシテ和議ノ到底望ナ

総代表受理ハ南方一部ニ於テ反対ナキニアラザルモ北方政府ガ借款其他ノ關係上南北統一ヲ急務トスルコト略々南方ト同様ナル情態ニ在リ陸榮廷、岑春煊、唐繼堯等何レモ平和統一ノ速決ヲ希望セザルナク就中陸榮廷ハ其最モ強硬ナル主張者ニシテ大体王ノ総代表タルニ異議ナク唐紹儀ニ対シテハ既ニ人ヲ派シ意思ノ疏通ヲ計リツツアリ今回王ガ総代表トナリタルハ從來和平會議ノ最難関タル国会問題ヲ解決スルコト比較的容易ナル次第第二ニ該問題ニ付テハ結局先ズ民國六年ノ憲法草案ニ修正ヲ加ヘ南北双方ノ主張ヲ一致セシメタル上更ニ国会議員選舉法ヲ修正シテ之ヲ定メ南北同時ニ同一ノ憲法及国会議員選舉法ヲ公布シタル上新旧国会ヲ同時ニ解散スルカ若クハ自然消滅セシムル形式トシ以テ南北双方ノ体面ヲ保タシメ平和統一ヲ計ル外ナシトノコトナリ又同日王揖唐ガ西田ニ対シ自分ハ二年來病氣ノ為重大ナル任務ハ之ヲ避ケ居リ今回再三辭退シタルニ拘ラズ大總統ノ懇請斷リ難ク総代表ノ重任ヲ受ケタル次第ナルモ種々ナル難問題アルニ付果シテ成功スヘキヤ否ヤ充分ノ見込ツカズ唯自分ハ出来得ル限り努力スル考ニテ三週間内ニ準備ヲ整ヘ遅クモ九月上旬ニハ上海ニ入ル予定ナリト直話

シ尚陸宗輿モ西田ニ対シ王ノ総代表タルハ和平會議ノ最難関タル国会問題解決ノ為ニシテ南方ガ果シテ王ノ総代表ヲ承認シ誠意ヲ以テ會議ヲ開クベキヤ否ヤハ多少ノ疑ナキニ非サルモ從來南北間ニハ已ニ種々ノ商議アリ国会問題ヲ除キテハ略々双方ノ意見一致セルニ付今回ハ何トカ一段落ヲ告グベキ事ヲ期待シ居レリ尤モ陸榮廷ハ徐世昌ニ非常ニ接近セルモ段派トハ余リ關係ナク段派ハ却テ広東派ト頻リニ連絡シ居レル実情ナル旨内話セル趣ナリ

上海、広東、南京へ電報セリ

註 小幡公使八月十三日發第一一四二号ハ安福派首領王揖唐ノ北方議和總代表任命ヲ報告セル電報ナリ省略セリ

九六 八月十五日 在上海有吉總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王揖唐ノ南北和平會議北方總代表任命ニ関シ

唐紹儀ノ談話報告ノ件

第三三八号 (八月十六日接受)

本官發外務大臣宛電報第三四一号

八月十五日唐紹儀ノ林出ニ語ル処ニ依レバ王揖唐ノ北方總代表ニ決定セルハ自分ニハ全ク突然ニシテ当地滞在中ノ南

方各代表モ亦同様想像セサリシ所ナルモ總代表トシテ受クルカ否カハ軍政府ノ決スベキ所ニシテ自分等ハ之ニ与ル所ニアラズ王ノ任命ニ付北京方面ヨリ得タル情報ニ依レバ王ハ本月十一日徐總統ヲ訪問シ和議ノ停頓セルハ憂慮ニ堪ヘズ國民又和平ヲ希望シツツアレバ此ノ際微力ヲ尽シ度シト述べタルニ対シ徐ハ若シ出デテ其ノ任ニ当ラレシカ国家ノ至幸ナル可キ旨ヲ答ヘタルニ王ハ其ノ帰途國務院ニ赴キ打合ノ上夜ニ入りテ國務院臨時會議開カレ王ヲ總代表ニ挙グルニ決セル趣ニテ彼ハ至急ニ南下セズ先ズ吳鼎昌ヲ派シ各方面トノ意志ノ疏通を図ラシメ然ル後來滬ス可シトノコトナリ自分ハ曩ニ軍政府ニ対シ總代表ヲ辭シ軍政府ノ慰留スル処トナリ爾來其儘トナリ夫レ以來和議ニ関シテハ何等干与スル処ナカリシ次第ニテ今回軍政府ヨリ何分ノ命令又ハ打合アリタル上ナラデハ何等ノ意見ヲモ發表スルコト能ハズ將又南北有力者間ニ裏面ノ握手行ハレタルヤ否ヤニ付テモ何等知ル処ナシトセル趣ナリ

北京、広東へ電報セリ

九七 八月十九日 在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王揖唐ノ南北和平會議北方總代表任命ニ対ス
ル南方側ノ態度ニ関シ岑春煊ノ談話報告ノ件

第一四五号 (八月二十日接受)

王揖唐ヲ北方總代表ニ任命シタルコトニ関シ八月十九日岑春煊ガ本官ニ語リタル要領左ノ如シ余ハ代表ヲ何人トスルモ會議サヘ円満ニ進行スレバ差支ナシトスルモノナルモ北京政府ガ王ヲ任命シタルコトハ南方ノ人心ヲ無視シタルモノト謂フベシ王ハ非法国会ノ議長ニシテ且北方主戦派ノ張本人ナルヲ以テ王ハ總代表トシテ不適当ナリト謂フヘシ南方ニテハ国会方面ニテ之ニ反対シツツアリ且唐繼堯及譚浩明譚延闓ヨリモ之ヲ承認セザル旨來電アリ陸榮廷ハ代表ヲ何人トスルモ差支ナシトノ意見ナリ唐紹儀ヨリハ本件ニ関シ未ダ何等ノ申越モナシ一二ノ反対ハ或ハ之ヲ疏通融和スルノ道モアルヘキモ反对者多キニ至レバ或ハ之ヲ承認スルコト困難トナルベシ目下ノ所軍政府トシテハ未ダ何等ノ態度ヲモ表示セズ軍政府ハ何人ガ代表タルモ反対スベキ限ニ非ザルモ一方民心ヲ尊重セサルヘカラルヲ以テ俄ニ態度ヲ決定スルコトヲ得ザルナリ云々尚岑ノ談話ニ依リ其ノ意向ヲ窺フニ岑ハ個人トシテハ王ノ北方代表タルコトニハ反

対ナク只一般ノ反対ヲ顧慮シツツアルコト並ニ反对者側トノ多少意志ノ疏通アラバ軍政府トシテモ之ヲ承認スヘキ意向ナル様ニ認メラル

在支公使在上海總領事へ電報セリ

九八 八月二十五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王揖唐ノ北方總代表任命ト和平會議成否ニ関スル北方代表王克敏ノ談話報告ノ件

第一一七七号

八月二十三日王克敏本使ヲ來訪シ平和會議ハ南北双方意見交換ノ結果大体(一)徐世昌ノ大總統ヲ認ム次デ(二)和平會議ニ於テ民国六年ノ憲法草案に修正ヲ加ヘ新憲法ニ依リテ(脱漏)十人以内ヲ選舉シテ組織スル予定ナリ(三)ヲ設置シ同院ヲシテ政府ヲ監督スベキ国会ノ權限ヲ代行セシムルコト(四)西南各省ノ善後問題ハ政府ニ於テ方針ヲ定メ關係各省ノ同意ヲ求メテ施行スルコトノ四大項ヲ以テ解決スヘキコトニ略々協議纏リツツアリ尤モ唐繼堯ハ徐世昌ヲ臨時大總統トシ新国会成立ノ後正式大總統ニ選舉スヘシト主張シ王揖唐ノ率フル新国会派ハ新憲法ハ現時ノ新旧国会ヲ合併シテ討

議制定スベシト主張セルカ如キアリ未ダ全然一致セルニ至ラザルモ和平會議ニ於テハ南方双方互ニ譲歩スルニアラザレバ成功シ難シ過日上海ニ於テ唐紹儀ニ会见シタル処唐ハ北方総代表ノ何人タルヲ問ハズ王揖唐ニテモ異議ナキモ先ヅ以テ日支軍事協約及参戰軍ノ変体タル辺防軍ヲ取消スニアラザレバ不可ナリト唱ヘ居リ孫逸仙等ハ双方ノ態度ニ反對セルモサシタル勢力ナク政学会ハ王揖唐ノ総代表ニ反對セルモ岑春煊ヨリ(不明)ヲ以テ旧国会側ヲ纏ムベシト政府ニ申来リ居レリ王揖唐自身ハ九月上旬中ニハ南下スベキ予定ナリト直話シ居リシモ愈々出発ス可キヤハ未定ナリ北方人代表中呉鼎昌、徐仏蘇ハ辭職ヲ申出デタルモ多分慰留セラル可シト内話セルニ付本使ヨリ今次第三回ノ和平會議ハ愈々成功ノ見込アルヤト問ヒタル処王ハ支那国民ハ勿論外国モ和平統一ヲ希望セルニ付政府トシテモ一日モ速ニ和平會議ノ成功ヲ希望セル次第ナルモ今回果シテ成功スルヤ否ヤハ確言シ難ク何分徐大總統ノ各人各派ニ對スル所言異ナリ全然反對ノコトモアリ其真意何レニアリヤ目下ノ処全然不明ナルヨリ和平會議ノ如キモ何人カガ公平ナル一定ノ主張ヲ持シ飽迄モ之ヲ実行スルノ人物アルニ非レバ其成功

捉シ難ク右様ノ事態ニ就テハ隨時御報告ノ次第アルモ尚此際貴地督軍其他官民有力ノ向ヘ努メテ接触セラレ本問題ニ関シ本大臣ノ参考トナルベキ事項ハ可成詳細電報相成リタシ

(上海へへ)

広東、漢口、福州、濟南、南京、杭州、長沙、重慶、成都、雲南へ転電アリタシ

一〇〇 九月十日 在奉天赤塚総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北妥協問題最近ノ状況ニ関スル張作霖ノ談話報告ノ件

第二六三号

貴電第一四三号ニ関シ張作霖ニ就キ南北妥協ニ関スル最近ノ状況ヲ問ヒタルニ王揖唐ノ北方代表タルコトニ付テハ陸榮廷派ヲ除ク南方派ハ全部反対ニシテ北方督軍ハ勿論全部賛成長江三督軍ハ傍觀ノ態度ニアリ広東ニ於ケル軍政府及議會ハ事実上解散乃至中止ノ状態ニアリテ広東ハ大体ニ於テ陸ノ勢力範圍ナリト云フヲ得可キモ親米派ト目ス可キ連

至難ト認メラルルニ付或ハ今回ノ會議ハ局部ノ解決ニ多少效果アランモ直チニ全般ノ成功ハ期シ難ク結局更ニ総代表ヲ替ヘ第四回會議ヲ開クノ要アルニ至ルヤモ計リ難シト答ヘタリ

上海、広東、南京へ電報セリ

九九 九月六日 内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚総領事(各宛(電報))
在上海有吉総領事

南北和平會議再開ニ付南方派動向ノ真相探索報告方訓令ノ件

第一四三号(奉天宛)

第一二二号(上海宛)

支那南北妥協問題ハ先般來中止中ノ処近頃北京政府ハ王揖唐ヲ総代表ニ任命シ上海ニ於テ會議再開ノ事トナリ居レルモ王ノ代表タルニ就テハ南方側ニ於テ反對ノ模様アリ然ルニ一面ニ於テハ陸榮廷一派ハ營ニ王ノ代表タルニ同意セルノミナラズ内密北京政府及長江督軍等ト氣脈ヲ通シ妥協進行中ナリトノ消息モアリ又新聞電報ノ伝フル処ニ拠レバ南方軍政府ハ今ヤ四分五裂ノ情態ニ在リトモ伝ヘラレ真相捕

中ノ間ニハ込入リタル事情アリテ陸ト相合ハズ陸ハ王ノ代表者タルニ反對セザルノミナラズ陸ノ北京政府トノ内密ノ聯絡ハ却テ王代表ヲシテ南北ノ妥協ヲ促進セシムルヲ助クル趣旨ナリト語レリ

公使ニ電報ス

一〇一 九月十日 在天津船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

北方総代表王揖唐ノ張作霖訪問及南下予定ハ南方側ノ王総代表拒絕ニ依リ未定トナレル件

第一七一号 (九月十一日接受)

九月九日目下当地滞在中ノ吉会鐵道督辦權量ガ本官ニ語ル所ニ拠レバ王揖唐ハ本月十一日奉天ニ赴キ張作霖ト会谈ノ上直ニ引返シ十五日頃当地ヨリ南下シ更ニ李純ト充分ノ打合ヲ為シタル後上海ニ乗込ム予定ニテ特別汽車ノ手配等夫々交通部ニ於テハ準備出來居リタル処本日津浦鐵路局長ノ許ニ達シタル公電ニ依レハ軍政府ヨリ正式ニ王揖唐ヲ拒絕スル旨ノ入電アリ往南ノ日取ハ再び当分未定トナリタル趣ナリ

在支公使、上海へ電報セリ

一〇二 九月十一日 在上海山崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議今後ノ見通ニ関スル王揖唐、李

盛鐸ノ談話報告並會議ノ前途ニ関スル小幡公

使ヨリノ電報転電ノ件

第三六九号 (九月十二日接受)

在支公使宛本官宛第四一三号

左ノ通大臣へ転電アリタシ尚廣東へ転電シ南京へ郵送アリ
タシ

第一二二二号

九月五日王揖唐本使ヲ来訪シ南北統一ハ国内及世界ノ趨勢
ニ鑑ミ最モ急務トスル処ナルガ故ニ大總統再三ノ懇請ヲ容
レ總代表タルコトヲ承諾シタル次第ナルガ元來南北和議ハ
實力ノ優劣及名分ノ正シキヤ否ヤニ依リ決定スベキモノニ
シテ即チ(一)實力ニ於テハ北京ハ十数省ノ地域ニ武力ヲ有シ
内ニ各派ノ關係ナキニアラザルモ大体一致セルニ不拘南方
ノ占ムル地域ハ僅ニ廣東、廣西、四川、貴州、雲南ノ五省
ト湖南、福建、兩省南方一部分ニ止マリ而モ四川ノ熊克武

ハ雲南ノ唐繼堯ト反目シテ互ニ其ノ勢力ヲ争ヒ陸榮廷ハ広
西ヨリ其ノ手ヲ延バン廣東ヲ自家勢力圈ニ入レントシ更ニ
廣東内部ニアリテモ莫督軍ノ廣西派、李根源等ノ雲南派、
李烈鈞等ノ江西派其ノ他各自相對峙シ貴州劉督軍亦王文慶
ト相善カラズ將又福建南部ノ陳炯明ハ別派トシテ必ズシモ
廣東各派ト行動ヲ一ニセザル事情アリテ南方ハ実ニ四分五
裂ノ状態ニアリト云フモ不可ナク且其内陸榮廷、熊克武、
唐繼堯、陳炯明等ハ何レモ裏面ニ於テ夫々代表ヲ中央政府
ニ送り若ハ電報書面ヲ以テ平和統一ニ賛同一日モ速ニ其ノ
實現ヲ希望シ居レル事情ナルノミナラズ(二)名分ニ於テモ南
方ハ夙ニ護法ヲ唱ヘ民国六年旧国会回復ヲ主張セルモ右護
法主張者ノ中心タル旧国會議員ハ廣東ニ在リテ百余名、上
海ニ在リテ約百名合計僅ニ二百余名(ハ廣東旧国会ニテ地方
議員ヲ勝手ニ議員トセルハ護法ノ精神ニ反ス)ニ過ギザル
ニ對シ民国二年ノ旧国會議員七百余名中北方方面ニ現住セ
ルモノ約四百名(残余ノ壹百名ハ死亡シ又ハ任官等ニ依リ
議員ノ資格ヲ失ヘリ)即チ旧国會議員ノ多数ハ南方ノ唱フ
ル護法ニ賛成シ居ラザルモノノミナリ殊ニ一般國民ハ疾ク
已ニ久シキニ亘レル南北ノ分立ニ飽キ平和統一ヲ渴望スル

余リ内心ハ全然南方ノ護法ニモ賛成シ居ラズ從ツテ南方ノ
所謂護法ノ名分モ其形式及実質ニ於テ正當ナルモノニアラ
ズ旁々北方ハ實力及名分ニ於テ優勝正當ノ地位ニアルヲ

以テ今回ノ會議モ十中八九迄ハ成功シ得ベキモノト期待シ
居ル次第ナルモ何分南方ハ前記ノ如ク幾派ニモ分レ一致セ
ル団体ニアラズ其間極メテ複雑ナル關係ヲ有スルニ付果シ
テ誠意ヲ以テ北方ト商談ヲ開始スルニ至ル可キヤ否ヤ聊心
許ナク感ジ居ル所ナリト縷述シ本使ニ對シ日本公使又ハ外
交團員トシテ充分ナル援助ヲ煩ハシタント依頼シ自分ハ九
月十三日前後当地發途中南京其他ニ立寄り上海ニ赴ク予定
ナリト申述ベタルニ付本使ハ南北ノ平和統一ハ日本政府ノ
最モ切望スル所ニシテ衆議院議長及大政黨ノ首領トシテ大
總統及段督辦等ノ後援アル有力ナル王氏ノ總代表トナラレ
タルニ付テハ必ズ成功ヲ齎シ得ルモノト信ジ王氏ノ此ノ行
ニ對シテハ多大ノ期待ヲ有スル次第ナリト述ヘ若シ今回ノ
會議ニシテ万一再ビ停頓シ中外ノ期待水泡ニ歸スルガ如キ
ニ終ランカ遂ニ支那ハ渺クトモ近キ将来ニハ統一ノ望ナキ
事態ニ陥ルモノト断定セザルヲ得ズ就テハ今回ハ中外ノ附
託ヲ完ウシ是非共成功セラレントヲ切望ス本使ニ於テモ

必要ノ場合ニハ出来得ル限りノ援助ヲ辞セザル処ナリト告
ゲ置ケリ

次デ李盛鐸ハ本使ニ對シテ今回ノ和平會議ニ於テハ北方ハ
法律問題トシテハ新国会ヲ犧牲トシ旧国会ヲ北京ニ開会ス
ルコト迄モ讓歩スルコトニ覺悟シ居リ又事實問題ハ既ニ前
二回ノ會議ニ於テ大体南北ノ意見接近セルニ付八九分迄ハ
今回ハ成功スルナラント想像スルモ南方側ノ未ダ纏リ居ラ
ザルト種々複雑ナル關係アルハ果シテ予期ノ如ク確實ニ成
功ス可キヤ否ヤ尚聊断言シ難ク尤モ南方ノ曩ニ提出セル外
交ニ關係スル条件タル二十一カ条及日支軍事協約取消シノ
如キハ統一後唐紹儀ノ外交総長タル可キ時機ヲ待テ処置ス
可ク高徐順濟鐵道ノ取消シハ五千万円還附スルノ余裕アル
時機ヲ待ツノ外ナキコトヲ力説シテ尙フ附ケ之ヲ以テ會議
ノ重要問題トセザル方針ナル旨ヲ内話セリ
之ヲ要スルニ王揖唐等ハ大要前述ノ如キ考ヲ以テ不日南下
スベキモ南方側政学会等ノ党派ハ最初ヨリ極力王ノ總代表
タルコトニ反對シ來レルノミナラズ最近ニ至リ南方實力派
中ニモ表面王總代表ニ反對スルモノヲ生ジ殊ニ吳佩孚ノ如
キハ北方派ト目セラルルニ拘ラズ絶對的の反對ヲ主張シ其旨

中央政府ニ打電スルアリ李純等ノ長江三督軍亦未ダ表面反對ヲ表セザルモ馮国璋等ノ直隸系ト氣脈ヲ通シ熊希齡等ノ中立派政客又之ニ呼応シテ再ビ暗中飛躍ヲ試ムルノ形勢ナキニ非ズ現ニ馮国璋最近ノ入津ト云ヒ熊希齡突然ノ上海行ト云ヒ(最近ニ於ケル反政府運動ノ經費支出者ハ馮国璋ニシテ熊希齡一派主トシテ此運動ヲ指揮セリトハ最早公然ノ秘密トシテ世間周知ノ事実ナリ馮ト熊トハ今回必ズ天津ニ於テ密会セルニ非スヤト想像セラル)揣摩スレバ疑ヲ挟ムノ余地ナキニ非ズ殊ニ九月七日上海ニテ開会セル各会聯合会八十三団体ノ大集会ニテ決議ノ条項ハ極メテ激烈ナルモノニシテ到底北方派ノ承認シ能ハザルベキモノタルハ明白ニシテ新総代表ノ南下ヲ目前ニ控ユル今日突然現ハレタル此ノ現象ハ政府反對ノ何等カノ陰謀ニ基クハ勿論ナルベク獨リ北方ニ於テ樂觀ヲ唱フル連中ニ對スル一大不安ノ原因タルベキノミナラズ會議ノ前途ニ容易ナラザル障礙タルナキヤト案ゼラル暫ク今後ノ展開ヲ待チテ徐ニ和議ノ成否ヲトスルノ外ナカルベシ

一〇三 九月十二日

在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

下スベシト雖モ之レ西南ノ承諾ヲ得ベキ確タル見込アルニ依ルモノニアラズシテ總代表ノ任ヲ受ケタル自己面目上ノ行懸ト議和會議ヲ開カザル(脱)側ニ負ハシメントスル北京政府ノ政学派(脱)為ニ外ナラズ自分(李)トシテハ何レニセヨ南北ノ妥協ヲ希望スル者ナルニ鑑ミ同人ノ南下モ亦歡迎スル処ナレド如何セン西南側トノ意志ノ疏通ニ関シテハ同人到着ノ上局面ノ展開ヲ觀測シテ策スル積リニシテ又之レ以外ニ途ナキナリ

要スルニ李純ハ西南側ノ王總代表反對ハ党派關係ニ基クモノニシテ其意志ノ疏通ヲ図ルハ困難ナリトシ西南側ノ新總代表承認ニ頗ル冷淡ナル而已ナラズ之ヲ中傷スル語氣スラ少ナカラザルヤニ看取セリ

(二)倪嗣冲ノ天津行ハ其ノ夫人病氣危篤ノ為ニシテ政治的意味ヲ有セズ同人ノ國務總理ノ議ハ嘗テヨリアリタルコトナルガ同人ハ性格ニ鑑ミ自ラ其不適任者ナリトシテ辭シ居レリ

(三)馮国璋ハ最近大總統ヨリ時局ニ對スル其ノ相談相手トシテ上京ヲ促サレタルコト三回ニ及ベルヲ以テ近ク上京スベシト同人ヨリ來信アリ而シテ同人上京シタランニハ其旨ノ

王揖唐ノ南北和平會議北方總代表任命ニ付南方派ノ承認取附ケ問題等ニ関スル江蘇督軍李純ノ談話報告ノ件

第一〇三号

(九月十三日接受)

九月十二日李純ノ小官ニナシタル談話要領左ノ通り

(一)西南側ヲシテ王揖唐ノ總代表ヲ承認セシムベキ尽力方政府並ニ王自身ヨリモ依頼シ來レルニ付先般西南側有力者ノ意嚮ヲ問合セタルニ彼等モ自分等長江三督軍ト同様ニ其ノ公表前ニ何等ノ相談ヲモ受ケザリシ趣ニテ總テ反對ノ意ヲ電報シ來レリ而モ其ノ反對ノ程度タルヤ自分ノ予期以上ナルノミナラズ西南側ガ正式ニ中央政府ニ反對ノ電報ヲ發シテ間モナキ今日ニ於テハ既ニ戰ヲ宣シタル當時ノ交戦國ノ和ヲ策セントスルモノノ如ク時期已ニ遅クシテ時期又頗ル早キノ感アリテ差当リハ殆ド意志疏通ノ途ナシ而モ各併立シテ各其ノ意見ヲ主張シ居ル西南側ヲ相手トシテ王ノ党派關係ノ經歷ニ深キ惡感情ニ原因セル反對熱ヲ緩和セシメントスルノ困難ハ單純ナル國際調停ノ比ニアラズ然ルニ王揖唐ハ兩三日中当地ニ來ル可キ趣ヲ以テ余ニ便宜供与方ヲ依頼スルタメ本日モ同人ノ使者到着シタルニ付同人ハ不日南

通知アル筈ナルニ未ダ之ナシ自分等長江三督軍ハ大總統ニ對シ黎元洪ト馮国璋ヲ起タシメテ西南側ト意思疏通ヲ計ラシムルノ策ヲ電報セリトハ事實無根ナリ(黎ハ最近副官ヲ河間ニ派遣スル等馮国璋ト氣脈ヲ通シ居ルモノノ如シ)

北京ニ電報シ、上海ヘ郵送セリ

一〇四 九月十五日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平ニ對スル日本ノ態度ニ関スル共同通

信其他ノ新聞電報ニ付報告ノ件

第一二五四号

(九月十六日接受)

共同通信其ノ他ノ新聞電報ニ依ル日本政府ガ傍觀の以上ニ南北統一ニ調停尽力スベシトカ又ハ或種ノ程度迄支那財政ヲ援助スベシトノ報道ハ一部支那人ノ神經ヲ過敏ナラシメ居レリ九月十五日ノ益世報、國民公報等ハ大ニ注意スベキ日本ノ對支態度ナリトテ國民ノ注意ヲ促シ居レリ

一〇五 九月十六日

在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議北方總代表王揖唐南京ニ到着ニ

付報告ノ件

第一〇五号

(九月十八日接受)

王揖唐十六日午後二時浦口着蔡鎮守使以下文武官ノ出迎ヘヲ受ケ直チニ渡江シ督軍公署ニ入レリ同日李純小官ニ語ル所ニ依レバ十四日当地ニ着シタル王、江、李、方ノ四代表ハ王、総代表ト打合セノ上十六日午後十一時発列車ニテ上海ニ赴ク筈ナルモ王自身ハ数日間当地ニ滞在シテ西南側ノ意思ノ疏通ヲ計リ上海ノ形勢ヲ確メタル後同地ニ赴ク由ナルガ自分(李純)ノ関スル限リ王ノ総代表ニ対シ西南側ニヨリ同意ヲ得ルコトハ依然困難ニシテ前途ハ樂觀ヲ許サザルニ付從ツテ王ノ上海行ノ日モ予定スルヲ得ズトノコトナリ尚王揖唐ハ十三日既ニ家族ヲ当地ニ送り先般北方代表ガ其ノ宿所ニ充テタル家屋ヲ借入レ住宅ノ準備ヲナシツツアル事實モアレバ旁々以テ王ハ当分当地ニ留マル考ニアラズヤト察セラル

在上海、広東兩総領事ヘ電報セリ

一〇六

九月十七日

在雲南本田領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王揖唐南北和平會議北方總代表任命ニ対スル

第一〇六号

(九月二十日接受)

王揖唐ハ十八日午後十一時過俄ニ(李純ニハ其旨午後六時頃通知シ来レリト云フ)鐵道ニテ上海ニ向ヘリ右ニ関シ同人到着以來蔡鎮守使並李純幕僚数人ニ語ル処ヲ総合スルニ王ハ蔡鎮守使ヲ上海護軍使タラシムベキ尽力方ヲ餌トシテ李純ニ南方トノ意思疏通ノ尽力方ヲ求メタルモ李純ハ氣乗リスベクモ非ザルニ依リ自ラ上海ニ赴キ(一)各省ニ対シ上海ニ着シタル旨ノ電報ヲ発シ其ノ声援ト同情トヲ求メ(二)南方側ニ対シテハ讓歩スヘキ妥協条件ヲ明示シ若シ南方側カ尚會議ヲ開クヲ肯ゼザルニ於テハ直チニ引揚ゲテ武力解決ヲ為スニ付自分(王)トシテハ今更中間者ノ斡旋ニヨリテ意思疏通ヲ計リ時日ヲ遷延スルノ必要ナク単ニ和力戦力二者其一ノ何レヲ南方側ハ選フ可キカヲ取極ムレバ足レリトノ態度ヲ持シテ和戦ノ全權ヲ有スル事ヲ内示シ北方決心ノ程ヲ仄メカシ央バ懇談的ニ央バ威嚇的ニ其總代表ノ承認ヲ求メンガ為斯クハ急遽出発セルニ至リタルモノナリトノコトナリ而シテ王ガ今回ノ南下ニ先チ張作霖、曹錕、倪嗣冲、張樹元等ト先ニ会見シタルハ果シテ會議不成立ノ場合ニ於ケル武力解決ニ関スル打合ナリシヤ否ヤ不明ナルモ王ハ之

雲南省督軍及有力者ノ意向報告ノ件

第三三号

(九月十九日接受)

北方總代表王揖唐ノ新任ニ付当地督軍及有力者ノ意見ヲ敲キタルニ何レモ所説一致シテ王揖唐ノ從來ニ於ケル立脚上ノ地位ニ顧ミ果シテ南方側提出条件等ノ意思ヲ酌ミ誠意ヲ披瀝シテ和平會議ノ衝ニ当リ善ク妥協ノ精神ヲ持シテ円満ナル進行ニ資ス可キヤニ付痛ク憶念シテ杞憂ヲ抱キ広東軍政府トノ連絡關係上進シデ別個ノ意見ヲ守持セズ陰ニ形勢觀望ノ態度ニ傾キ居レリ又聞ク所ニ依レバ兼テ南方側ニテハ先般来南方不振ノ常弊ヲ打破シ新生面ヲ開ク為メ強硬ニシテ統一セル団体組織ノ改造ヲ策シ本企画達成ノ上ハ次テ南北分立ノ政体ヲ實現セシム可シト稱シ之ハ現時ノ難局ニ処シ最善ノ政策ナリトノ信念ヲ抱キ密ニ画策セル模様アリ一面ニハ斯カル意図ヲ有セル折柄王代表ノ新任ニハ努メテ不服ヲ唱ヘツツアリ

一〇七

九月十九日

在南京清野領事館事務代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議北方總代表王揖唐ガ俄ニ上海ニ赴キタル事情ニ関シ報告ノ件

ヲ以テ北方督軍間ニ既ニ戦ノ準備アル旨ヲ仄メカシ居レリト尚王ガ今回總代表ノ任ニ当リタルハ段祺瑞ガ新旧国会ヲ同時ニ解散シ両国会ヨリ選出セル者ヲ以テ組織ス可キ憲法會議ニ於テ決定セラル可キ憲法ニ依リ更ニ国会ヲ召集ス可シトノ議ニ同意セルヲ以テ此案ヲ提ゲテ臨メバ容易ナル可ク且新国会ニ多数ヲ有スル安福派ガ他人ニ依リテ其解散ヲ余儀ナクセラルルヨリモ自ラ其解散ヲ宣スルハ面目アルノミナラズ兼テ時局收拾ノ功ヲ自ラハ収メ得トノ見地ヨリ出テタルモノナレバトテ王ガ和戦ノ全權ヲ有スト云フニ付テハ頗ル疑ハルトナシ居レリ

北京、広東ヘ電報セリ在上海總領事ヘ郵報セリ

一〇八

九月十九日

在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

唐紹儀孫文ノ王揖唐トノ連絡説ハ北方側ノ流布セル謠言ナリトノ広東方面ニ於ケル觀測報告ノ件

第一六一号

(九月二十日接受)

唐紹儀孫逸仙ノ北方連絡説ニ関シ当地各方面ニ付探リタル

処ニ依レバ右風評ハ北方ヨリ伝来セルモノノ外当地ニ於テ
發生セルモノナク且右ハ決シテ事實ニアラズ為ニスル処ア
リテ北方側ノ流布スル謠言ナリト各方面ノ意見一致シツ
アリ尚唐紹儀孫文ノ態度ニ関シ各方面ノ談話ヲ総合スレバ
唐ハ和平會議ニ対シテハ条件ヲ第一トシ総代表ノ人物ヲ第
二トシ右ノ趣個人トシテ申来リタルコトアルモ総代表トシ
テハ全然右政府ノ指示ヲ仰クヘク將又唐ハ旧官僚ニシテ王
揖唐トモ従前關係アリシ間柄ナルヲ以テ個人トシテ多少ノ
往復アリタルヤモ知レザルモ私人代表ノ(脱)現在南北何レ
ノ人物モ之ヲ為シツツアリ之ヲ以テ真ノ連絡ト見ルハ当ラ
ズト為シ孫文ハ從來岑春煊、陸榮廷等ガ恣ニ代表ヲ北京ニ
派シ国会ヲ犠牲トシテ南北問題ヲ解決スル方針ヲ以テ商議
ヲ進メツツアルヲ憤慨シ且時世ハ到底徹底的ニ懷抱ノ初志
ヲ貫徹シ難キニ至ルベキヲ予知シ自ラ当局トシテ其ノ責ニ
当ルヲ避クル為ニ政務總裁ヲ辭職セシモノニシテ同人從來
ノ行動並ニ其ノ人格ヨリ觀テ北方トノ連絡ハ到底信ズベカ
ラズ今回北方ガ南方ノ反對アリシニ拘ラス無理ニ王揖唐ヲ
南下セシメタルハ會議ノ不成立ヲ予期シツツモ只平和破壊
ノ罪ヲ南方ニ帰セムトスル北方主戦派ノ策略ニ外ナラズト

一一〇 九月二十四日 在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王揖唐ノ南北和平會議北方總代表タルニ反対
ナル旨南方軍政府ヨリ北方龔國務總理代理ヘ
ノ申入ニ関シ報告ノ件

第一六四号

(九月二十五日接受)

軍政府ニテハ龔ニ王揖唐ノ總代表タルニ対シ各方面ノ反対
多キヲ以テ北京政府ニ対シ再三總代表ヲ改任セラレタキ旨
電報セシニ対シ北方ニテハ尚之ヲ肯セス且王ハ既ニ南下シ
テ上海ニ到着セシヲ以テ九月二十三日軍政府ハ更ニ各總裁
連名ヲ以テ北京龔心湛ニ宛大要西南ノ總代表改派ヲ電請セ
シ誠意ハ(脱)ヲ計ルニ因ルモノニシテ適當ノ人ヲシテ總
代表タラシメハ大局ハ直ニ解決スヘシ然ルニ尚且王氏敢然
トシテ南下セシハ是レ西南ヲ蔑視脅迫スルモノニシテ対等
會議ハ脅迫シテ成ルモノニアラス恐ラクハ貴方ニテハ早ク
和議破壊ノ決心ヲ有スルナルヘク有ラユル上海和平會議統
開スル能ハサルコトニ関シテハ西南ハ責ヲ負ハス云々ト電
報セリ尚岑春煊ヨリ王芝祥ニ対シテモ總代表ヲ代ヘサヘス
レハ和平會議再開ニ難カラスト申送レル由ナリ

観測セラレツツアリ
在支公使、上海ヘ電報セリ

一〇九 九月二十三日 在上海山崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王揖唐ト孫文トノ会見ニ関スル孫ノ談話報告
ノ件

第三七七号

(九月二十四日接受)

九月二十三日孫文ハ本官ニ大要左ノ通語レリ王揖唐ハ昨日
余ヲ来訪シタルカ龔ニ段祺瑞カ余ノ和平条件ニ異存ナシト
ノコトヲ聞キタルヲ以テ王ト会見シタル次第ナリ然ルニ余
ノ主張タル旧国会ヲ回復シ之ヲシテ自由ニ其ノ職分ヲ行使
セシムルコトヲ承諾スルヤ否ヤノ問ニ対シテハ王ハ個人ト
シテハ異議ナキモ北方ノ首領中ニハ不賛成ノ者多シト答ヘ
タリ自分ノ考ニテハ和平會議ノ再開ハ六ヶ數カルヘク縦シ
再開スルトスルモ不成功ニ終ルヘシ云々
孫文ハ御承知ノ通理想家ニテ同氏ノ意見ハ目下ノ処和議ノ
實際問題ニハ關係殆ト之ナキモ右御参考迄ニ
北京、広東ヘ電報南京ヘ郵送セリ

在支公使及在上海総領事ヘ電報セリ

一一一 九月二十五日 在上海山崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

唐紹儀ノ南北和平會議北方總代表王揖唐ニ反
對ノ理由及其態度ノ変化ニ関シ史家修ノ談話
報告ノ件

第三八三号

(九月二十六日接受)

九月二十三日唐紹儀ト親交アル漢字新聞申報社々長史家修
ノ林出ニ語ル所ニ依レハ王揖唐ノ總代表ニ任命セラルルヤ
唐紹儀ハ王ハ其旧部下タリシ關係上之ト対等ニ交渉スルヲ
喜ハサリシカ其意中ヲ察シテ唐ノ秘書ノ魯信ハ自己ノ名義
ヲ以テ広東国会ニ対シ王拒絶ノ決議ヲナサン事ヲ以テシ広
東国会ハ旧法ノ趣旨ニ基キ王反對ノ意ヲ發表セシヲ以テ陸
榮廷唐繼堯モ之ニ雷同シタル次第ナルガ其後唐ハ秘書易次
乾ヲ派シ秘密ニ徐總統ニ面会ノ上、王派遣ニ関スル内意ヲ
探ラシメタルニ最初代理總理龔心湛自ラ總代表タラントス
ルノ希望アリシモ同人ハ南方ニ対シテハ兎モ角安福派ヲ操
縦スルニハ力十分ナラスト思考シタルヲ以テ段祺瑞トモ相

談ノ上王揖唐ヲ派スルニ至レル旨ヲ語レル趣ニテ唐ハ王揖唐ノ南下ガ失張り徐ノ差金ナルコトヲ知りタルモ南方ノ王反對ノ氣勢ハ既ニ旺盛トナリ殆ド手ノ附ケ様ナキ有様ナルニ当惑シ其秘書魯信ニ向ヒ自分ニ何等ノ相談モナク輕卒ニ広東国会ニ打電セル不都合ヲ責メ其後唐ノ意見トシテ八条件ニ重キヲ置キ人ノ如何ヲ問ハサル旨ヲ表示シ態度至ツテ曖昧ナルモノアリ将来王揖唐ガ徐總統ノ命ニ依リ北方側トシテ最大限度ノ讓歩ヲ發表スルカ其他ノ方法ニ依リ局面展開ノ機会ヲ作ラハ唐ハ之ト相呼応シテ活動ヲ始メントシツツアリト述ヘタル趣ナリ

北京へ転電セリ

一一二 九月二十六日 在上海山崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議北方總代表王揖唐ノ携帶セル運動費ハ日本ヨリノ借款ナリトノ風説ニ付問合ノ件

第三八五号 (九月二十六日接受)

王揖唐ハ当方面ニ於ケル運動費トシテ八年公債三百萬元ヲ

携へ来リト伝ヘラルル処近来或方面ノ消息ニ依レハ北京政府ハ財政窮乏一時ノ急ヲ救フ為八年公債票二千万元ヲ抵当トシ一百元ニ付三十一元ノ割ニテ日本側ヨリ借款ヲ為シタリトノ説アリ往電第三七六号本官トノ談話中ニモ又往電第三八〇号波多トノ談話中ニモ唐紹儀ハ類ニ日本ノ北方ニ對スル財力援助ヲ疑ヒツツアリ右ノ如キ事実ノ有無本官參考迄ニ御回示アリタシ

在支公使へ転電セリ

註 右ニ関シテハ後出四九二文書參看

一一三 九月二十九日 在漢口中村総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北妥協ノ成行見込附力ザル旨ノ湖北省長ノ

談話報告ノ件

第一四六号 (九月三十日接受)

今廿九日当地省長ノ語リタル所ニヨレハ上海ニ於ケル和議問題ニ関シテハ王揖唐ガ二回孫文ニ面会シタルハ事実ナルカ一方軍政府ハ各省政客ノ運動ニ妨ゲラレ態度纏ラス他方面吳佩孚ノ別個運動アリ局面紛糾ヲ重ネツツアリ差当リ如何ニ成行クヤ見込付カス云々

図ニ関シ報告ノ件

第三九二号

十月三日唐紹儀ハ本官ニ對シ自分ハ此程人ヲ廣東ニ派シ南方總代表ノ印章及總代表辭職ノ書面ヲ軍政府ニ交付セシメ辭意ヲ明カニシタル旨ヲ語リ軍政府ガ辭職ヲ許シタルヤ否ヤノ問ニ對シテハ唐ハ未ダ軍政府ヨリ何等ノ返事ナキモ余ノ辭意ハ確定的ナリト答ヘ尙王ハ当分上海ニ止マル由ナルモ彼ハ上海ニ滞在スルノ要ナキ者ナリト述ベタリ思フニ今回唐ノ辭職ハ其意蓋シ和平問題ノ行詰リタル此際局面展開ヲ促サントスルニアルモノノ如ク唐ト北方代表トノ間ニ何等カノ妥協アルモノノ如ク觀察スル者多シ

在支公使広東總領事へ電報セリ南京へ暗号ノ儘郵送セリ

一一六 十月三日 在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

広東軍政府ニ對スル唐ノ南北和平會議南方總

代表辭任理由説明内容報告ノ件

第一七〇号 (十月四日接受)

衆議院秘書長潘薰疇(?)ガ米内山ニ語ル処ニ依レハ唐紹儀ハ秘書某ヲ廣東ニ遣ハシ總代表辭職書ヲ軍政府ニ提出セ

当地英字新聞ノ北京通信ニ依レハ吳佩孚ガ西南ニ加担スル場合ニハ長江三督軍ハ之ト結合スヘシトアルモ本官ノ見ル所ニ依レハ李純陳光遠ハイザ知ラス当地王督軍ハサル態度ニ出ヅルコトナカルヘシト思ハル

在支公使へ電報セリ

一一四 九月三十日 在上海山崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議早晚再開セラルベシト王揖唐内話ノ件

第三九〇号 (十月一日接受)

九月三十日王揖唐挨拶ノ為本官ヲ來訪セルガ王ノ内話セル所ニ拠レバ南北疏通ノ端緒ハ漸ク現ハレタルモノノ如ク會議再開ノ時期ハ未タ定マラザルモ早晚再開ノ事トナルベシト思ハル南方側ニ於テモ和議ヲ希望シ居ル模様ナリ(三十日)

一一五 十月三日 在上海山崎総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

唐紹儀ノ南北和平會議南方總代表辭任ト其意

一 中国南北和平會議ニ関スル件 一一四 一一五 一一六

シメタリ軍政府ニテハ之ニ対シ未ダ態度ヲ表示セザルモ無論挽留スルコトトナルヘシト尚唐紹儀辭職ノ理由ニ関シ唐ノ秘書盧信及^{ニキジカン} 兩人ヨリ国会議長ニ宛テ

一、今回ノ政変ハ元護法ノ為ニ起リタルモノナルニ現在各方面ニテ事實問題ヲ主トシ法律問題ハ殆ト悲觀極マルコト

二、南北各方面ニ於テ互ニ代表ヲ往復セシメ議和ヲ計リツツアリ(脱)ハ殆ド無用ノ長物ニ等シク代表モ何等実力ナキコト

三、王揖唐任命ニ関シ軍政府ハ専ラ人ニノミ反对シ条件ニ対シテハ何等主張ナシ将来対人問題ト護法問題ト互譲交換ノ虞アルコト

尚其外ニ現在軍政府ハ各省各軍ニ対シ何等ノ実力ナク從ツテ軍政府ヨリ任命セラレタル唐モ總代表トシテ何等ノ実力ナク且北方和議ノ誠意ナク将来到底唐ノ主張ニヨリ時局解決ノ希望ナキヲ以テ此ノ際潔ク總代表ヲ辞スルモノナル旨宣明シ来リタリト

在支公使在上海總領事へ郵送セリ



尚國家統一の建設ヲ成シ得サル所以ノモノ蓋中心人物ノ結合堅実ナラス中心勢力薄弱ナルニ基因ス、故ニ予ハ左ノ順序ニ拠リ着手セントス

第一 中心人物ノ精神の結合ト犠牲心ノ注入

今日ノ支那ニ於テ中心の人物ノ長老ハ徐世昌ニシテ段祺瑞、馮國璋、岑春煊、陸榮廷、之ニ亜キ其他実權ヲ把持スルモノヲ問ヘハ曹錕、張作霖、李純、其他各省督軍ノ如キ其人格、性情ノ善惡如何ニ論ナク要スルニ今日ノ支那ニ於テハ 中心の人物タルヲ失ハス

右ノ外政黨政客中ノ有力有能者ノ如キ亦等シク國家建設ノ為ニ必要ナル人物ニシテ安福俱樂部、進歩黨、政學黨、國民黨等等シク皆然ラサル無シ唯彼等ノ内國家建設ノ美名ヲ藉リテ自己ノ利益ヲ獲得セントスル野心アル者ハ断シテ吾人ト事ヲ俱ニスル能ハス故ニ予ハ人ト談スル毎ニ國家ヲ建設スル為ニハ自己ヲ犠牲ニスヘキノ必要ヲ説キ苟モ其諒解ヲ得タル者ナランニハ直チニ之ニ結ヒ純然タル不偏不黨、國ノ南北東西ノ區別無ク所謂人材主義ヲ決行シ先ツ中心の人物ノ精神の結合ヲ図リ逐次之ヲ他ニ及ホサントス

最近馮國璋ヲ説キ徐總統、段祺瑞等トノ旧交ヲ挽回シ曹

一一七 十月三日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

新任總理代理靳雲鵬ノ中国新建設及南北統一ノ方策ニ関スル意見報告ノ件

(十月六日及七日写外務省接受)

坂極秘電第九五号

新任代理總理靳雲鵬ハ數年以来常ニ支邦ノ統一の新建設ニ腐心シ殊ニ大正六年彦根地方大演習ノ為ヲ以テ来レル當時親シク我朝野知名ノ士ニ会シ主トシテ我明治維新即新日本ノ建設ヲ研究シ現ニ大隈侯著述開國五十年史ヲ求メ翻譯ヲ命シ自ラ熟讀シ居レルガ如キ其一例ニシテ結局彼ハ國家新建設ノ目的ヲ達センカタメニハ先ツ有力、有能者ヲ國家的觀念ノ下ニ結合スルヲ以テ主要ナル先決問題タルヲ知リタルモ爾来彼自ラ之ヲ唱ヘ且之ヲ実行スルノ時機ト位置トヲ得サリシ為徒ニ一種ノ理想トシテ止メタリ然ルニ今回図ラズモ代理總理ノ位置ニ就キ而モ之ヲ決行スベキ時機ニ到達セリトナシ其決心ヲ示スコト左ノ如シ

「國體政体ノ如何ニ論ナク國家建設ノ為中心人物ト中心勢力ノ必要ナルヤ勿論ニシテ支那革命後八年ノ今日ニ到ルモ

錕、張作霖ハ勿論南京ノ李純等ニモ人ヲ派シテ何分ノ諒解ヲ求メ又徐樹錚ニ対シテハ其四個ノ混成旅ト西北駐辺ノ為ニ要スル予定費途ヲ承認シ段祺瑞、之ヲ保証人トナリ安福俱樂部等ニ対シテモ正当ナル支出ハ之ヲ認ムル等又南方岑春煊、陸榮廷ハ既ニ予ノ總理就職以前ニ於テ予ノ就職ヲ勸告シ居リタル程ナルヲ以テ逐次其結合目的ヲ達スヘク又李烈鈞等一派ニ対シテモ人ヲ介シ所謂國家新建設ノ急ナルヲ説キ之カ為先ツ統一形式ヲ備フル必要アリトシ如何ナル事アルモ私の權利ノ為ニ國家ヲ犠牲ニセサルヘキ以上ノ決行ニ全力ヲ尽シ之カ為ニハ夙ニ一身ヲ犠牲ニ為シ居レリ

第二 上海會議開会以來將ニ一年ニ近キニ未タ何等ノ結果ヲ得サル所以ハ皆之レ黨派の權利心ヨリ打算スルカ為ナリ故ニ予ハ此會議ヲシテ結果アラシムル為ニモ亦國家新建設ノ為重要人物ノ精神の結合ヲ絶体必要ナリト信ス若シ此結合ノ目的ヲ達セハ上海會議ハ直チニ成立シ立所ニ國家統一の新建設基礎条件決定ノ形式ヲ具備セシメ得ルニ易々タルヘシ故ニ予ハ現在ノ如ク南北代表ヲシテ直接折衝セシムルト同時ニ南北重要人物ノ精神の結合ニ努力シ居レリ

第三 統一ノ為採ルヘキ形式極メテ單簡ニシテ西南各省ハ

中央政府ヲ認め政府ハ西南各省督軍省長等ノ現位置ヲ承認シ尚有力有能ノ人物ニハ適當ナル位置ヲ与へ國家ノ新建設ニ努力セシメ法律問題ノ如キモ公平ヲ主トシテ解決スヘク例ヘハ新旧兩国会ノ憲法會議ヲ合併シテ憲法ヲ制定シ爾後其憲法ニ依リ万事ヲ処断スルカ如キ之ナリ

第四 財政

支那ニ於テ最困難ナルハ財政ナリト聞クヤ久シカリシモノハ未タ之ヲ実地ニ研究シタルコトナカリシモ今回図ラスモ其ノ局ニ當リ研究スルコト僅ニ數日ナルモノヲ決シテ悲觀スヘキモノニ非サルヲ知レリ由來支那ノ財政ハ極端ニ紊亂シアルカ為少シク注意シテ整理ヲ行ヘハ直チニ其ノ效果ヲ収ムルヲ得ヘキ如ク感セラル例ヘハ民國元年陸軍經費ハ二億五千万ヲ算シタルニ最近ハ殆ト其半額ニ減少ス陸軍總長ノ職ニ就キタル当初ハ一カ月一千一百万ナリシモ直チニ之ヲ整理シ九百万トシ目下ハ更ニ七百万トナスヘキ計畫中ナルカ如ク又袁世凱力皇帝ヲ夢ムルニ至リシ故袁モ亦彼ノ大總統トナリ少シク財政ノ整理ヲ努ムルヤ忽三千萬尋テ七八千万ノ余裕ヲ生スルヲ覺知シタルニ依ルカ如キ亦其例ナリ故ニ関稅ヲ初メ各種稅制ヲ整理改善シ幣制等ヲ改メナハ支

那財政ノ前途ハ決シテ悲觀スヘキモノニ非サルヤヲ感スルコト頻ナリ依テ予ハ先ツ有力有能ノ人材ヲ集メ銳意此財政ノ整理ヲ計ラントス唯之カ為ニハ尚若干ノ時日ヲ要シ此間整理ヲ行ヒ就中現下ノ窮狀ヲ救フニ足ルヘキノ資金ハ之ヲ得サルヘカラス之レ過日來屢々貴官ヲ煩ハシ貴國大臣等ニ之ヲ求ムルコト切ナル所以ナリ（以下略）

一一八 十月十七日

在廣東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

南北和平交渉、日中間ノ山東問題解決及軍事

協約ノ取消ニ関スル岑春煊ノ談話報告ノ件

第一七五号

（十月十九日接受）

十月十七日岑春煊ノ談話ニ依レバ上海會議ノ前途ハ困難多ク唐代表ノ辭職ニ對シ軍政府ハ人ヲ派シ總代表ノ印ヲ送還慰留シ岑個人トシテモ其慰留ニ務メ居ルモ果シテ唐ガ留任スルヤ否ヤハ不明ナリト右ニ関シ本官ハ試ニ北方政府ニ於テモ今更總代表ヲ更迭スルコトハ面目上困難ナルベケレバ寧ロ唐總代表ヲ肯セザル場合ニハ之ヲ機會トシテ上海會議ヲ廃止シ南北政府直接ノ交渉ニ依リ和議ヲ計ルコトトシテ

一一九 十月二十一日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

北京政府ノ南北和平交渉ニ関スル態度、吳佩

孚ノ湖南督軍就任希望等時局ニ関スル孫潤宇

ノ談話報告ノ件

第一三七九号

十月廿日孫潤宇ガ西田ニ内報スル処ニ依レバ王揖唐ヨリハ政府ニ對シ上海會議ハ漸次良好ニ向ヒツツアルニ付必要ナル經費送金方電請シ來レルモ他ノ方面ヨリノ情報ニ依レバ同會議ハ見込ナシ尤モ今直チニ王揖唐ヲ召還スルハ北方ノ面目ニモ関スルニ付暫ク其儘トシ中央政府ニ於テハ南方實力者トノ直接交渉ヲナシ現ニ双方代表者ノ往来アリ右交渉ノ決定ニ近ヅケル頃ヲ見計ヒ王揖唐ヲ召還スル考ナリ又最近張敬堯ヨリ政府ニ對シ南方ハ湖南南部ニ於テ三路ニ分チ進撃ノ計畫アルニ付如何ニスベキヤトノ電請アリタルニ付政府ヨリハ張敬堯ニ對シ防備ヲ嚴ニセラレ南方ヨリ進撃スルニ非ザレバ北方ヨリ戰端ヲ開ク勿レトノ電訓ヲ發セリ然ルニ吳佩孚ハ靳總理代理就任以來頻ニ靳ノ就任ヲ歡迎シ最近代表者ヲ來京セシメテ湖南督軍ヲ希望シ居レリ依テ湖南

ハ如何ト述ベタルニ右ハ至極同感ニシテ此ノ際多分右ニ優ル良法ナカルベシト答ヘタリ尚近時國會方面並ニ一部知名人士間ニ露骨ナル意見發表サレ居ルガ右ニ関スル隔意ナキ意見ヲ承知シタキ旨述ベタルニ岑ハ右排日運動ハ孫文一派ノ破壞運動ニ基クモノナルモ之ヲ久シキニ放任スルハ日支國交上面白カラザル次第ナリ之ガ救済策トシテハ其根本問題タル山東問題ノ至急解決ト軍事協約ノ取消ヲ計ルニアリ青島ハ日本ガ多大ノ犠牲ヲ払ヒテ独逸ヨリ獲得セシモノナレバ日本ガ支那ニ協議シ直接交還セラルルハ至當ナリ此ノ点ニ於テ國際聯盟ノ解決ヲ主張スル議論ハ賛成スル所ニアラズ但シ日本ノ要求ハ公明正大ナランコトヲ要ストナシ又軍事協約ニ付西比利亞ノ紛亂止マザルヲ以テ未ダ廢止ノ時期ニ達セズトノコトハ一応尤モナル如キモ元來該協約ハ歐洲戰亂ノ終了ト共ニ之ヲ解キ若シ西比利亞ノ現状及軍事上協定ヲ要スベキモノアラバ更ニ其必要ニ応ジ新協約ヲ締結シ以テ國民ノ疑惑ヲ一掃スルコト事理ニ適ヒ局面展開上ヨリモ緊要ナルニ付テハ日本政府ニ於テモ此ノ点ニ留意シ速ニ適當ノ措置ヲ採ランコトヲ望ム云々ト述ベタリ

在支公使上海總領事ヘ転電セリ

方面防備上呉佩孚ヲ督軍トシ張敬堯ヲ長江上流警備總司令ニ、吳光新ヲ江西督軍ニ転任セシメントノ議ナキニアラザルモ此ノ際湖南督軍ノ更迭ハ紛擾ヲ加フルノ虞アリトノ説モアリ未ダ決定ニ至ラズ南方ハ近時関稅剩余金ノ分配ヲ得タルヨリ示威的ニ福建、江西、湖南ノ南部ニ抛リ戦備シ活動ヲ計レルハ事実ナルモ到底戦争ヲナス丈ノ実力アルニアラズ云々

上海広東長沙へ転電シ上海ヨリ南京へ郵送セシメ当館ヨリ漢口へ郵送セリ

一一〇 十月二十五日 東在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原参謀總長宛(電報)

上海和平會議再開ニ付稍樂觀の報告ヲ王揖唐ヨリ北京政府ニ送越セル趣ノ情報報告ノ件

(十月二十八日写外務省接受)

支極秘第四四九号

一昨日王揖唐ノ来電アリタリト聞ク処ニ抛レハ

一、王總代表ニ対スル上海ノ空氣ハ漸次良好トナリ各方面ヨリ速ニ會議ヲ開ク様請求スルモノ益々多キヲ加ヘツツアリ

「揖唐命ヲ奉ジテ南下シ既ニ月余ニ達スルモ和議統開ニ至ラズ最近唐總代表辭職シ軍政府之ヲ慰留スルモ尚留任ヲ承諾セズ遷延シテ責任ヲ無視スルモノナリ上海ハ言論煩雜ニシテ新聞及印刷物ヲ以テ諸種ノ謠言ヲ伝ヘ或ハ夜間危險物ヲ投入シテ恫喝スル等何レモ和議ヲ破壊セントスル陰謀ニ外ナラズ揖唐ハ命ヲ危急ノ際ニ受ケ身ヲ以テ國家ノ犠牲トシ他人ノ惡口ノ如キハ予期セル処ナリ出発ニ際シテ元首ノ訓示ニモ断ジテ代表ヲ代ヘズ以テ中央政府ノ平和ヲ計ルノ決心ヲ示スベシトアリ南下ノ途直隸、奉天、山東、南京ヲ經、其文武官民何レモ平和克復ヲ援助スベキヲ誓ヒ其他各省大官地方団体モ亦電報又ハ郵便ヲ以テ頻ニ和平ヲ促シ来リツツアリ揖唐何ノ心ヲ以テ初志ヲ變ゼンヤ今後流言ハ一笑ニ附スベキモ遠隔ノ地ニ誤伝スルヲ恐レテ其実情ヲ宣布ス今ヤ世界大戰終リ諸國東洋ニ注目スルノ際民國建設爰ニ八年國礎未ダ定マラズ内争ヲ事トスベキ秋ニ非ズ揖唐ハ誠意戦後ノ廓清ヲ待タン決裂ノ二字ハ聞クニ忍ビサル処ナリ云々」北京、広東へ電報シ南京へ郵送ス

一一二 十月三十日 内田外務大臣ヨリ
在南京岩村領事宛(電報)

一 中国南北和平會議ニ関スル件 一二二 一二三

二、唐紹儀ハ總代表辭職ニ就テ如何ニ慰留セラルルモ其初志ヲ翻サストテ堅キ決心ヲ有ス
三、軍政府ノ内訌ハ益々甚タシク政学会ノ勢力衰微ノ兆アル等ノ事実ヲ列挙シ會議再開ニ就キ稍樂觀ノ報告ヲ為セリト云フ

各地済

一二一 十月二十九日 在上海山崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王揖唐住居屋外ニ爆裂彈一個発見ニ関連シ和平ノ為飽ク迄努力ノ決意ナル旨声明ノ件

第四一六号

本月十九日王揖唐ノ寄寓セル屋外ニ爆裂彈一個ヲ発見セシヨリ当地新聞紙上ニテハ王ヲ強迫シテ其帰京ヲ余儀ナクセシメントセルモノナリトシ或ハ王ハ爆裂彈ヲ恐レテ既ニ何レニカ逃亡セリトシ或ハ王ハ毒藥ヲ抑イデ自殺セリトシ其他王ハ和議ノ前途ヲ悲觀シ帰京ノ口実ヲ作ル為自ラ爆裂彈ヲ裝置セルモノナリ等ノ諸説ヲ伝ヘタルガ本月二十八日王ハ右ニ對シ大要次ノ如キ宣言書ヲ發表シタリ

李純ノ南北妥協斡旋ノ報道アルニ付同人ト接
触ヲ保チ時局ノ發展ニ注意スル様訓令ノ件

第二八号

支那各地ヨリノ新聞電報ニヨレハ李純ハ妥協問題ニ関シ昨今南北実力派ノ仲介者トナリ斡旋シツツアリトノ趣ニテ右ハ同人從來ノ立場ヨリシテ左モアルヘキコトト思料セラルルニ就テハ貴官ハ務メテ同人ト接觸ヲ保チ時局ノ發展ニ注意ヲ払ヒ必要ノ事項ハ隨時電報相成様致シタシ

一二三 十一月二日 在南京岩村領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平斡旋ニ関シ李純ノ談話報告ノ件

第一一六号 (十一月三日接受)

小官ハ二日李純ヲ訪問シ時局ニ談及シタルニ李ハ具体的説明ヲ避ケタルモ大要左ノ通り談話シタリ
目下南北双方ハ種々ノ行懸上強硬ナル主張ヲナシ広東軍政府ニモ内訌アルヲ以テ未タ和議ノ開会ヲ見ルニ至ラサレトモ現ニ双方共財政ノ困難甚シク且人民ノ苦痛ヲ知レルヲ以テ戦争ヲ開始スル能ハス皆平和ヲ希望シ居レリ彼ノ上海會議ノ如キハ単ニ形式的機關ニ過キサレハ重要視スルニ足ラ

ス王揖唐ハ先日南京ニ転居スルカ如キ噂アリシモ依然上海ニ止マルベク又唐紹儀ハ総代表辭職ヲ声明セルモ決シテ其本心ヨリ出タルニアラザレバ南北実力派ノ妥協成立スルニ於テハ會議ノ再開ヲ見ルニ至ルヘシ予ハ速ニ平和統一ヲ希望スルニ依リ其後引続キ双方ノ間ヲ斡旋シ意見ヲ伝達シ意志ノ疏通ニ尽力シ居レルカ近来頗ル接近シ来レルヲ以テ和解ノ期モ遠カラサルヘシト思ハル

北京ニ電報シ上海ニ郵送セリ

一二四 十一月十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

上海和平會議ノ内情、靳總理ノ南方実力派ト
ノ提携ニ依ル国家統一策等ニ関スル王克敏ノ
内話報告ノ件

第一四三二号

(十一月十二日接受)

十一月十日王克敏本使来訪ノ節上海會議ニ関連シ左ノ通内話セリ

自分ハ王総代表ノ依頼ニ依リ先ヅ南京ニ赴キ更ニ王総代表ニ先チ上海ニ到リ先ヅ以テ唐紹儀ト会見シタル処唐ハ外交問題即チ北方政府ガ日本トノ間ニ締結セル密約全部ヲ発表

シ其ノ内存廃スベキモノニ付南方ノ主張ヲ承認スルニ於テハ直チニ和平會議ヲ開始スベキ旨陳述セルニ付其ノ旨ヲ王総代表ニ報告シ王代表ヲシテ中央政府ニ請求シ日支軍事協定其ノ他ノ密約全部(実ハ密約ト言フモ多クハ既に發表セルモノナリ)ヲ上海ニ送付セシメタル処何故ニカ王総代表ハ自分等ヲシテ唐紹儀トノ間ニ斡旋スルコトヲ嫌フ様子アリ終ニ密約ハ唐紹儀ニ交付スルニ至ラズ南方側ハ王総代表ノ人物ニ反対シ始メ又唐総代表ノ辭職トナリ旁此ノ儘上海ニ滞在スルモ此ノ(脱)意味ナル為メ過日断然意ヲ決シ帰京シタル次第ニテ初メ王総代表ハ財政部ヨリ二十五万元煙酒公売局ヨリ参拾万元交通銀行ヨリ三十万元合計八十五万元ヲ携帯シテ上海ニ入り右ノ金員ヲ以テ専ラ孫文派其ノ他非政学会系ノ民黨議員ト氣脈ヲ通ジ広東軍政府ニ関スル改組其ノ他ノ問題ヲ以テ軍政府及旧国会内部ノ攪乱ヲ計画シスクシテ生ジタル南方ノ不一致ニ乗ジ平和統一ノ功ヲ収メント計レルモ今日迄ノ処ニテハ右計画ハ何レモ失敗ニ帰セル為メ和平會議ノ成功ハ殆ド望ナシ而シテ王総代表ハ前記運動費ノアル間ハ当分上海ニ滞在スベキモ右金額ヲ消費シ尽サバ帰京スルノ外ナカルベシ

転電シ上海ヨリ南京ヘ郵送セシメタリ

一二五 十二月十四日

在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

岑春煊陸榮廷ノ南北和議促進ノ意向ニ関スル

情報報告ノ件

第二〇五号

(十二月十五日接受)

先般岑春煊、莫榮新ノ兩名ガ陸榮廷ト会見シタル結果ニ付広東問題及軍政府改造ガ現状維持ニ意見一致シタルコトハ既電ノ通ニシテ之ニハ信ズベキ根拠アルト共ニ各方面ノ意見モ一致シ最早疑ヲ存スル余地ナキガ如キモ南北和議問題ニ関シテハ全ク秘密トセラレ反对派ノ消息ハ岑、陸ノ意見一致セズ陸ハ唐紹儀ト通ジ王揖唐ノ総代表ヲ認メ上海會議ノ促進ヲ計ラントノ意見ヲ持セリト称シ甚シキニ至リテハ右ノ前提ニ依リ往電第二〇三号岑春煊ノ通電ハ岑ガ右陸、唐ノ和議促進ニ反对スル伏線ナリト云フ説モ起リタル所今十三日莫榮新並政学会ニ深キ関係ヲ有シ又本官ノ操縦シ居ル当地中華新聞社長容伯廷ガ極秘トシテ齎シタル消息左ノ通り

右王ノ談話ハ現政府反对側トモ見ルベキ馮国璋ノ代表者タル同人ノ觀察ナルニ付多少ノ割引ヲ以テ之ヲ聞クベキモ尚多少ノ真相ヲ寓スルモノト認メ御参考迄電報ス上海広東ヘ

秀、張耀曾等ガ専ラ一派ノ利益ヲ計ル為ニ停頓セシメタル如ク信ジ居リタルモ岑トノ会見ニ於テ右ハ全ク誤解ナリシコトヲ諒解シ曾彦ハ為ニ大ニ面目ヲ失ヒ速ニ上海ニ還ルコトヲ命ゼラレタル次第ナリ

而シテ陸ハ岑等モ漸ク和議熱望ノ真意ヲ知り得タルヲ以テ直チニ和議ニ関スル十四箇条ノ条件ヲ協議シ之ニ依リ唐繼堯ノ同意ヲ求メ直チニ之ヲ実行スル予定ニシテ唐繼堯ニハ其席ヨリ一代表者李曰垓ヲ派遣セリ而シテ右十四箇条ヲ基礎トシテ唐紹儀ヲシテ北代表ト協議セシム之ニハ予メ王ノ代表ヲ替ヘシムルコト万一唐紹儀ガ右ノ計画ニ同意セザルニ於テハ之ヲ替ヘ如何ナル障礙アルモ之ヲ貫徹スル意嚮ナリ右十四箇条件ハ絶体秘密トナシ居ルモ民国六年ノ国会ヲ恢復スルコト(現在ノ旧国会ハ多数ノ候補議員ニ依リ補欠セラレ民国六年ノ解散當時トハ其顔触レ等大ニ異リ居レリ)唐繼堯ハ四川雲南貴州ノ又陸榮廷ハ兩広及湖南ノ各巡閱使タルコト其重大条項ニシテ其他ハ明カナラズ云々
右様ノ談話ハ之ヲ往電第二〇三号岑ノ通電中特ニ四回ノ情勢急ナルヲ説キ却テ国会側唯一ノ主張タル護法ヲ輕ク受流シタル処ニ対照セバ互ニ連絡スル処アリ岑ノ通電ハ和議ノ

表ヲ替ユル如キハ一挙手ノ動ニ過ギズ互譲ノ精神ヲ以テ簡單解決ノ方法ヲ望ムハ勿論ナルモ北方ガ借款ニ依リ軍器ヲ整ヘ北軍ガ南軍ヲ圧迫シ居ル事実ハ貴意ニ反スル処ナキヤ若シ真ニ互譲ノ精神ヲ以テ和議ノ速開ヲ図ラバ具体的ニ其ノ弁法ヲ明示セラレタシ然ラザレバ徒ニ文電ノ往復ヲナスモ事ニ益スル所ナシ云々
北京上海ヘ電報セリ

一二七 十二月二十四日 在漢口瀨川總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

梁士詒来漢ノ目的ハ南北和平ノ促進、旧交通
系ヲ基礎トセル一大政党ノ組織等ナル旨報告
ノ件

第一七七号 (十二月二十五日接受)

今回梁士詒来遊ノ目的ニ関シ更ニ探聞スル処ニ依レバ(一)南北ノ意思ヲ疏通シ和議ヲ促進スルコト(二)旧交通系ヲ以テ基礎トセル一大政党ヲ組織スルコト(三)国内ノ有利事業ニ投資スルコト等ナリ、第一項ニ関シテハ明年一月上海會議ヲ再組シ速ニ南北統一ノ目的ヲ達スルコトニ付王督軍ノ賛成ヲ求メ督軍ハ既ニ省長ト連名ニテ中央ニ發電シタリト云フ第

促進ト国会一部ノ犠牲ヲ期スル前提ナリト想像セラル支那、上海ヘ転電セリ

一二六 十二月二十三日 在広東太田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

新總理ノ広東軍政府ニ対スル和平統一呼掛け
ト之ニ対スル軍政府ノ回答ニ関シ報告ノ件

第二〇八号 (十二月二十四日接受)

十二月二十三日当地新聞紙ノ発表セル処ニ依レバ靳雲鵬ハ十二月十七日附軍政府各總裁宛ノ電報ヲ以テ内外情勢ノ急ヨリ国家統一ノ必要ヲ述べ外蒙古ノ如キ此ノ大勢ニ順応シテ既ニ其ノ自治ヲ取消シタリ西南各省ハ尚更其ノ統一ヲ図ラザル可カラズ其ノ目的ヲ達スルガ為ニハ既往協議ノ事項ニ付テハ更ニ互譲ノ精神ヲ以テ簡單ニ之ヲ解決スルコトヲ希望ス云々十二月廿日軍政府各總裁ノ名義ヲ以テ靳雲鵬ニ与ヘタル電報ハ内外時局ノ需要ニ基キ和義速開ヲ希望セラハルルニ至リタルハ国民ノ幸福ナリ而モ其ノ内容ニ至リテハ不明ノ箇所多シ北方ガ其ノ代表ヲ更迭セズ国民ノ困惑ヲ顧ミザリシハ輿論ノ一致スル処ナリ国民ノ窮狀ヲ察セバ総代

二項ニ関シテハ省議會及總商会ノ有力者ト屢々会見シテ巧ニ之ヲ操縦シ各省ノ中堅人物ヲ網羅シタル民本党ト称スル新政党ヲ組織シ中国ノ民心ヲ刷新シ国力ノ發展ヲ図ルニア
ルコト第三項ニ関シテハ当地ニアル民生鋼鐵公司ノ事業擴張ノ為米國ヨリ資本ヲ借り入ルルコトニ関シ株主等ト協議シタリト云フ尚梁ハ張勳、現時ノ境遇ニ同情シ張勳ヲ再ビ立タシムルコトニ関シ王督軍ノ周旋ヲ依頼シタリト云フ
在支公使ヘ転電セリ

一二八 十二月二十八日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

南北和平會議再開ノ運びトナリ成功ノ望ミ
アル旨王克敏内話ノ件

第一六〇六号 (十二月二十九日接受)

十二月二十七日王克敏本使ヲ来訪シ南北和議問題ニ談及シ曩ニ岑春煊ガ广西ニ赴キ陸榮廷及唐繼堯側ト充分接洽ヲ遂ゲ此ノ結果南北ノ意向頗ニ接近シ来リ之ガ為南方ノ分代表ハ最近統々上海ニ集マリツツアリ自分(王克敏)モ總理及國務院等ノ勧誘ニ依リ十二月二十二日頃北京出發同地ニ於ケル南北會議ニ参列ノ予定ナル処今回和議再開ニ就テハ陸

岑唐等南方重要者及北方当局側ノ一致内諾ヲ経タルモノニテ四個ノ条件アリ即チ

- (一)南方モ徐世昌ノ第二次正式大統領タルコトヲ認ムルコト
- (二)新旧国会ヲ均シク停止シテ憲法會議(民国三年ノ天壇會議員即チ最初ノ憲法會議員ヲ以テ組織ス)ヲ開キ先ヅ憲法ヲ制定シ

次ニ国会ヲ召集スルコト

- (三)元老院ヲ設クルコト(岑春煊、陸榮廷、唐繼堯、段祺瑞、馮國璋、曹錕ノ六名ヲ之ニ入ルル予定内約ナリ)

- (四)西南各省ノ善後事宜ハ北方政府ヨリ該各省当局ト直接商議決定スルコト

ナルガ南北分代表ニ於テ右ノ四条件ニ同意調印シタル上ハ南北双方当局ニ於テ総代表ヲ拔キニシ之ヲ決定ノモノトシ承認スベキ手筈ニテ從來南北議和総代表ニ依ルモ各省個別ニ依ルモ何レモ失敗ニ帰セシガ今回ハ(一)乃至(三)ノ条件ニテ護法ノ關係ヲ始末シ又(四)ニテ夫々特殊不同ノ状態ニ応シ得ルノ利ヲ兼ネ居ルカ故ニ成功ノ望ミアリ但シ安福派ノミハ唯一ノ頼ミトセル新国会ヲ引離サルル關係ヨリ之ニ反対スヘキハ逆睹シ難カラスト語リ尚本使ニ対シ日本側トシテ

有力者ニ対シ平和統一外侮ヲ禦クヘキ旨ノ遺言電報ヲ發シタルカ時局ニ対シ何等カノ感動ヲ与フヘク又十二月三十日ノ政府公報大統領令ヲ以テ馮在世ノ功績ヲ賞揚シ飾終ノ典禮ハ國務院ヲシテ優美ノ詮議ヲナサシムル旨公布セラレタリ

右ノ如キ条件ニ依ル南北妥協ニ対スル意見如何ト問ヒタルニ付本使ハ之ニ対シ日本政府ノ之ニ対スル意向ヲ今茲ニ代リテ確言シ難キモ兎ニ角支那南北ノ統一ハ一日モ早カラシコトヲ望メルハ日本ノ意思ナルニ付本使個人ノ意見トシテハ之ニ賛成ヲ表スルニ躊躇セスト答ヘシニ王ハ更ニ上海ニ於テ右ニ依ル分代表一致ノ結果發表ニ至リタル場合本使ニ於テ外交團側ニ対シ其ノ賛同ヲ得ルニ尽力シ呉ルヘキヤト尋ネタルニ付之ニ対シ其ノ期ニ及ヒ政府ノ意ニ從ヒ事情ニ応シ応分ノ助力ヲ吝マサルヘキ旨答ヘ置ケリ尚王ハ今回ノ上海會議ハ王ノ上海著後十日以内位ニ其ノ結果顯ハルヘキ予想ナルニ付夫レ迄ハ前掲条件ハ何レノ向ニモ絶對ニ秘セラレタシト繰返シ居タルニ付右様御含置アリタシ上海、広東、漢口、南京ヘ電報セリ

一二九 十二月三十日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

馮國璋臨終ニ際シ徐總統及南北有力者ニ対シ

平和統一外侮ヲ禦クベキ旨遺言ノ件

第一六一七号

(十二月三十一日接受)

往電第一六〇九号ニ関シ馮國璋ガ臨終ニ際シ徐總統及南北